

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

自由貿易の意義

共存の民主主義どこへ 多数派と少数派

今こそ問われる成長の「質」

EU離脱後の英国の行方

第67巻10号

28年10・11月号

国会図書館永久保存書

伊藤
藤原
佐伯
星野
元重
帰一
啓思
郁



パリの教会 画家 寺島祥五郎

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て發展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる發展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業經營と經濟活動を通して、さらに公私經濟の發展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人

昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

会員制の企業家、經營者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經營相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

十一月号・目次

A vertical column of 12 empty diamond-shaped boxes, likely for drawing or writing.

卷頭言
佐々木誠吾 (2)

定期講演会・講演記録

自由貿易の意義

伊藤 元重 (24)

國際情勢と日本經濟 手嶋龍一(74)

共存の民主主義どこへ

わが回想記
堀江忠男
(84)

蘭子の心情
ラシコ岩本
89

招經非實

文豪家の桂然昇日記
一九〇〇年六月二十六日

卷之三

展望する五十嵐敬喜(46)

卷之三

特別贊助會員

卷頭言

佐々木誠吾

天高レジヤンヌダルクの小池知事 三郎

東京中央卸売市場の移転、

十一月七日の問題点と当然の延期

小池都知事が、約一か月半ばかり前に行われた都知事選の選挙で掲げた公約の一つに、移転先の土壤汚染の危険性を指摘して、東京中央卸売市場の移転問題の再検討と再調査をあげていた。巨大都市、東京都民一三〇〇万人以上の

毎日の食糧を調達する大事な機能を果たす施設である。全国の产地から、収穫物や生産物が常時運ばれてくる一大集積地であり、取引が行われる巨大物流基地である。今の築地中央卸売市場は老朽化が進み、規模の狭隘が目立つていいので、早晚解決しなければならない課題であった。目付けたのが恰好な豊洲の地域の四〇

万ヘクタールの土地である。立地条件についても、交通のアクセスが都市に近く規模と云い、利便性については申し分ない。

ただ問題なのは、元、東京ガスの工場の敷地跡と云うことである。それゆえ有毒ガスの残滓やその他の有害物質の存在の有無がなお問題視されていることは言うまでもない。長期間に亘り、工場が稼働してきた場所だけに、有害物質による土壤汚染が深刻な問題として残っていた。地下水の安全性は大丈夫なのか、地震の際の液状化問題も含め、都民の潜在的不安は残っていた。

有害化学物質の、食品に与える大きな問題である。土壤には亜鉛、ヒ素、ベンゼン、六価クロム、シアン、水銀といった有害物質が含まれていたことが分かつていて。調査時には特に発がん物質であるベンゼンなどは一時、国の環境基準の三万倍以上の数値を検出していたといふ。更には東北大震災時には液状化現象が起きた。

て、敷地一帯に地下水と一緒に大量の有害物質が地上に噴き出したりしていたという調査報告が出されている。土壤の変化の、はたまた地下水の変容の長期的な観察経過を待つ必要すら感じる。完成の工期を急ぐあまり、調査分析が雑に終わっていないかどうか、心配と不安を残している。

都民の毎日の生鮮食料品を膨大に取り扱う市場である故に、われわれ都民としても当然のことながら慎重を期して調査、事後処理を完ぺきに果した結果でなければ、市場の移転は受け入れがたい問題である。事は、都民の生活の将来にわたり、長期にわたってこれから五〇年、一〇〇年と、後世にも直接係わる重大な問題だからおろそかにできない。もとより慎重、かつ厳格な調査を続けながら、汚染除去の作業を行ってきたことと思うが、今までの役所と事業者との癒着や、不透明なきさつから完全な信頼を得ていることではなく、若干の疑義が生じて

いることは巷間の話としてあって当然である。われわれ都民に対して、もっと徹底した情報公開に徹すべきである。土壤汚染と関係して、地下深くまで水質の検査は必要である。小池知事がこの問題を早くから指摘して取り上げて来年の年明けまで伸ばすことを決定した。小池知事の賢明な判断であり、処置である。

準備を進めてきた関係者にとつては、計画が狂つてしまい申し訳ない。それなりの経済的被害は生じたにしても、事は都民の健康と生命につながる問題であつて、うやむやなままに進めることはできない。一方、豊洲市場の建物は完成しており、都の試算では、契約している電気・水道料金、警備費などは開場しなくても一日七〇〇万円かかるとのことであるが、真偽のほどを確認すべきである。無人の箱ものである。電気も水道もかかっていない。現在稼働中の築

地市場の維持費が五〇〇万だと云うのに、稼働していない豊洲が何故七〇〇万もかかるのか、インチキ臭い数字に都民は明らかに誤魔化されている。水増し請求になれた、役人や業者の思惑も、ここまで来たかとあきれるばかりである。税金のつまみ食い、強奪争い、盗つ人猛々しだある。大事な都民、国民の税金の使途であるから、明白な根拠と説明が要るし、多少の疑惑があつた場合には、これを徹底的に調べて情報を開示していくべき責務が都知事はある。

そうでなくとも東京都の行政と、今まで務めてきた石原、猪瀬、舛添と云つたうさん臭い、ましてや猪瀬、舛添と云つたインチキ者で、都民から追放された都知事のもとで進めてきた計画であるから、そのまま信用することはできない。適当に、何が隠されているかもしれない。色々と画策する連中からの圧力や妨害があるかもしれません。しかし、ここでむしろ再点検する必要がある。大変な仕事の山積だが、都民は

大いに小池知事を支持しているわけで、好スタートを切つて精力的に行動する知事に異論の余地は全くないと思う。思想的に清潔且つ実効的なスタッフを陣容に揃えて、活躍して貰いたいと願つている。

さらには移転に伴う経済的な問題である。年度を重ねて行くうちに予算是膨らむ一方である。巨額な利権が絡むものもある。行政と都議会とのなれ合いもあって、都民重視の公正な都議会であるべきはずのばに、議会の自民党都議連を仕切るドンと称する穏やかでない人物が跋扈しているとの事である。人相の悪い老人だが、これが議会の多数を占める自民党の都議連を牛耳つてはいるというのだから、品位も墮ちたし、都議会の連中も出鱈目だし、それを黙認してきた東京都の都民もだらしないということもなる。小池知事は真っ向からこのいわく因縁の組頭みたいなやつに、改革の弓を引いている。このドンと云う奴が長年都議会を腐敗、

金権化させて来ているきらいがある。これでは都民のための立法、行政を行つて行くことはできない。

自民党と、多数を占める都議連を敵に回して選挙戦を戦い抜き、都民の絶大な支持を得て新知事になつた小池都政に対し、都民の大勢は都知事の判断と決定を支持している。都議会を解散すると云つた言葉の真意は、こうした蛆どもを一掃するという意味では真実味、現実味がある。早く清潔な都議会の運営に当たり、明朗な効率的な立法、行政を行えるような仕組みを構築してもらいたい。今になつても田中元首相の金権政治を英雄視しているかつての石原都政、続く子分の猪瀬、同じ資質の舛添などの垂れ流しで都議会も腐れきつっている。改革を要することは行政の分野も同じことである。長年の膾を出し切つてももらいたいものである。

東京都の職員たちには優秀な公務員が沢山いる。胡散臭い人間が上にぞろぞろ居たりしている。東京都の職員たちは優秀な公務員が沢山いる。胡散臭い人間が上にぞろぞろ居たりして

いては、下の役人は真似するばかりで益々陳腐化させてしまう。一般論としてもそうだし敢えて申すが、やる気を起させることが、この際大切である。知事の助つ人になる副知事もしつかりした人を選ぶべきである。猪瀬副知事の時は四人いたはずである。外部から取り入れてもいい。局長も沢山いるが、芋づる式なので、この刷新もいざれ必要である。一刀両断の改革が必要である。若い人材を腐敗化させるような悪しき慣習や馴れ合いを排除して、若者たちの潑刺とした発想を引き出して、膨大な組織の中であつても、それを活かして都民のために働いてもらいたいと思うことしきりである。

以前、文芸春秋が大きく取り上げた記事に、「舛添は日本の恥だ」として堂々の論陣を張つた。舛添的悪しき思想は巨大な東京都の立法府と、官僚機構の根底にうごめいている課題である。小池新都知事の登壇は、この時ばかりは男をしのぐ静かなる勇士の都知事、都民のために

頑張れ！と声援を送りたい。そしてこの毅然とした姿勢を崩さずの一貫して持続してもらいたい！最初佳ければ全てよし。現代のジャンヌ・ダルクの小池東京都知事よ。

九月一日

諸事雑感のうた

処暑を過ぎ早や秋風のかすかにも立ちて日ぐるる里の気配に

G20中国開催を終了す日にも北鮮のミサイルの発射

国たみの多き犠牲を払ひつつ矢たら國費をミサイルに注ぐ

北鮮と為すこと合い似る中国の他国の領海犯す漁船ら

蒸し暑き日照りの続く立秋の各地に39度を記録す

永年の悪弊と理不尽の圧力に果敢に戦ふ小池都知事よ

日本のジャンヌ・ダルクと果敢にも悪者一掃を地道になさんや

善政を敷きて都民のために立つ都知事の範を世にも示さん

次々と続く国際会議をばこなして多忙の安倍首相なり

熱風の過ぎる銀座の街なかを昼食に出で目の北鮮のミサイル発射のそのうちに重大事故の生むを危惧せり

中国の南沙諸島の海域に漁船をまもる軍艦の影

国たみの多き犠牲を払ひつつ矢たら國費をミサイルに注ぐ

民生の経済を削ぎミサイルの発射に走る北鮮の主

くらみけり

ゴージャスに模様替えせるデパートの三越、松

屋と見違えるほど

品数も豊富に上質の商品を豪華に置きて景気

煽れり

デパートを三越、松屋と見る限りアベノミクス

は健在なりき

便利かと思ふ地下鉄を乗り継ぎて目的地に着

くへとへとののち

巨大都市東京に住む住民の生きる戦いの日々

のさまなり

疲弊する地方経済のありさまに構造改革は何

としてでも

ひところの爆買い景気の熱も冷め財布のひも

も締まりけるらし

街なかの観光客もまばらにて日照りにどこか

隠れるるらし

立て続け台風三つも上陸し東北地方に荒れ狂

ひけり

ものを書く最中に秋の虫の鳴くしきりに夜の
闇を搖るがす

騒がしく振やかに鳴く蟬たちのいつしか止み
て寂しかりけり

成る程と美しくなく法師蟬「水琴窟」と名を唱
えける

木のもとに一つ落ちたる蟬がらの務めを果た
しものうつくしき

今日この日満ち足りて終ふさまざまな仕事を
なして帰途に就くかな

気にかかる車の運転免許書の更新を済みほつ

とするなり

高齢者対象の健康診断の役所より来て相すま

しけり

妻もまた自動車運転免許書の数日前に更新を

終ふ

立て続け作る俳句の百句ほどフル回転のわれ

が大脳

終戦記念日

八月一五日は終戦記念日である。正午から日本武道館で行われた全国戦没者追悼式には天皇、皇后両陛下が出席して哀悼の意を述べられた。戦後既に七十一年を経過している。平和と繁栄を享受する今の日本ではあるが、世界はもとより残念ながら日本を取り巻く国際情勢は依然として緊張が絶えないでいる。こうした事態にいかに対応していくか、日本のかじ取りも自ずと変化を余儀なくされているが、根本精神は、日本国が掲げる自由と人権、平和と繁栄の理念の火を絶やさずに一貫して世界に向かっていくことである。最近になつて、戦時中や戦後の事態処理について新たな事実関係が明らかになつてきたことだが、時の指導者が如何に頓馬で自己本位であつたかが遅ればせながら追加される意味で分かつてきた。蚊帳の外に置かれた国民が、権力者の蒙昧な知識と対応で牛

馬の如く扱われ、奴隸の如く振り回されて悲惨な最期を遂げて行つたか、人間性否定の残酷な思慮のもと、非業の死を遂げて行つたか、眞実の歴史が教えてくれる。

先の大戦で日本が失った犠牲者は三百十万人と云われている。なんという残酷な話ではなかろうか。こうした悲劇の実態を細かく、例えば、NHKスペシャルをはじめとして、マスメディアの多くが努力して国民に眞実を明かす努力をしている。眞実の把握からそれを検証し、未來の発展に結び付けていくことが大切である。天皇の哀悼の辞でも、戦争の過去を反省し、再び戦争の惨禍を繰り返さぬことを国民と共に誓つておられる。そして战火に倒れ、戦塵に散つていった多くの人々にたいし心からの哀悼の辞である。そこから日本の未来について平和と繁栄を願うものであつた。

折しも今、ブラジルのリオデジャネイロでは世紀のオリンピック・パラリンピックの平和の

祭典が盛大に開かれている。各種目の競技を通じて、國の壁を乗り越えて信愛に結ばれた、互いに切磋琢磨の好試合が展開されている。競技の、武器なき戦いの熱戦は、すべて生への感動の場面に塗られている。これを平和の祭典を、政治の世界に取り込んでいくべきである。妄想で貪欲、頓馬で傲慢な政治家に、手を取り足を取りして啓蒙していかなければならない。この古代ギリシャ文化の象徴である人間性の発露の精神は、文芸復興の歴史を刻み、ミケランジェロとレオナルドダビンチによって再び開花されたが、その人間贊歌こそ、政治の世界で具現されなければならない。戦争と死の世界から、平和と復活の明日を希望し、そのための政治的指導者の自覚を促し、啓発、啓蒙が今や喫緊の課題である。

*

国民の英知と勇気と決断に守られて來し「にっぽんの国」

「にっぽん」の姿は平和憲法の生き写しとやいみじかりけり
日本の姿をとかく誹謗する人の資格の有無を問ひたし
政治家よ世の先達の著わせる哲学思想の書にそ学べや
日本の憲法を読まず学ばずに改正論議をいたす政治屋

昆虫の如く空に飛び自由自在体操選手の内村航平
少年よ大志を抱けの教えをば常々持ちて今に至りぬ
見上げたる夏空高くわが胸に映り激しき鼓動とはなる

天よりの授かりもののこの星を良くも悪くも人がこなせり

中国の十二、四億の人民の動き一つにかかる今
の世

十億の民を抱えるインドなり民主政治に掛け
る大国

中国の挑発を避け対話にて十三億の民を向か
はす

ニューヨークダウ最高値を更新す自由経済の
範を示せん

日銀の金融政策の剣ヶ峰出し切る案の底をつ
くかも

大震災東北・九州と甚大に被害受けしも復興へ
の道

このまろき地球の星を永遠に天の鏡に收め行
くべし

八月十五日

敗戦の歌

闘いに敗れし時の、戦前、戦後の、特にこの
国の戦ひに敗れし後世のさまを語り伝へる
人たちの年を重ね、しだいに少なくなりて行き
し今のことなり。戦争の恐ろしさを忘れ得まじ

き」と、風化されまじきやう、そのことを人の
のもの世に言い残し行くつとめなりき。されば
この国この先のことを広く望めるに、平和と
安全が人の世にて如何に普遍的なるものか、思
い新たにすべきこと多し。平和と榮へは、人類
に課せられたる課題なりき。いみじくもそれを
重き教へとして世の諸人に理解せしめ、ことの
仔細をのちに残さんと欲す。冠者らがすべか
らく己がため戦争の如何にみじめきことを学
び求め、自らの人生を進む的を立て行くべきこ
との大事なること、篤と思ひはせしやと思はん
ばかりなり。大和國の古き時より定まりしうた
の形、調べにありし短歌、和歌は、その一首が
ひとつの大いなる物語より多くの意味合いを
含みし時がありなさばと、しばしば身に覚えけ
ることなり。かようなる時、おのおのの、み代
の歴史的諸々の起きごとなどを短き歌に書き
とどめおきしは、貴重な資産として世の中に抱
かれて行くことと思へし。ここに眞実のまこと

の歌として書きとどめたゆえんなりき。思いつ
るままに詠みし真の歌ゆえに、後になほ改めて
時を設けあやまりを正し、言の葉の訂正を出来
えしは、幸いなりと思へしか。

*

敗戦の夏の日照りの厳しさに呑まず食わずの
身にも堪えし
温かき母の手を取り夏の日の日照りを受けて
山路越へしも
何もなき奥山深く与瀬てふ疎開の先の何ぞこ
の地に
袋田の駅前に咲くひまわりの強烈に見ゆ敗戦
の日に

何万の兵士の最後の雄たけびに天皇陛下万歳
と死す
進軍のラッパの音に奮起して広東軍は村を攻
め行く
攻撃のラッパに村里を焼き打ちし広東軍の猛
攻に死す
元中尉指揮官の言まことなり村を焼き打ちか
けて攻め行く
無残なり幾十万がしかばねにソ連侵攻の激戦
のあと
我ら皆天皇陛下万歳と陛下のために死すと学
べし
摩訶不思議謎めきてきぬ天皇の初めて聞きし
その声の謎
初めてに聞く声なればいぶかしく単に生き物
の声と聞きしか
不思議なりラジオの音に混じり聞く現人神の
慣れぬその声
水戸の街より真つ赤な空に燃え上がる東京大
なり

空襲のいとも間近かに

那珂川を渡る機関車の音をきき線路に耳を当てしあの時

あの夜は一家全滅に遭わんとも危険を冒し水戸に帰り来

焼夷弾夜間空襲に遭遇し九死に一生を身に経験す

学び舎の五軒小学校に焼夷弾火柱高く天に上がれり
上空にB29の影低く行き轟音重く大地搖る
がし

皆父のあとに就き行く火の海をくぐりて逃げ
し水戸の空襲

東京と水戸の空襲に丸はだかなりし父につき暮らす日々かな

避難先よりたどり着く明け方の黒煙たちし街なかに立つ

戦塵に散るしかばねのまことかと310万人の人の犠牲に

限りなく戦地拡大に狂奔す東条英機ら戦犯のひと

食料も武器も補給なく体のみ体当たりせる日本兵士ら

白旗を降り滝兵に降伏す兵士に敵の火炎放射器

人間の全人格を否定して生死いづれかの戦場なりき

グラマンの山の峰より現れて機銃掃射を浴びせ来るなり

艦載機襲撃に備ふ防空壕いくど飛び込み難を逃れし

空襲の明けたる朝の焼け跡に焦げつき倒る死体ありけり

そここにしかばね倒る焼跡の燻ぶりおりて匂い悪しきも

人体の炭のごとくに倒れたるB29の夜間空爆に

焼け跡に燃ぶる人家の端にいて木炭と化す人

の影なり

炭化せる人を寧ろにくるり巻き積み上げ行く
はこれも人にて

これじただ戦争の惨禍の一言で収めうるかや
思ふ慘状

一面に燻ぶり続く焼け跡にただ茫然と立つや
はらから

日々めしを食うべく父が購入す九反歩の畑と
百姓の身に

機関車の汽笛を鳴らし鉄橋を渡る勇姿の敗戦
の日よ

百姓をしつつ通ひぬ芳野村小学校の学ぶ友ら
よ

敗戦の世のどさくさを純粹に正しく生きぬ我
らはらから

田螺とるどじょうもとりぬ田んぼにて夕餉の
糧となりるは樂しき

袋田の滝に遠足に出でしどき綴る文章の巧み
なるかな

教育に暴力排除と立ち上がり授業ボイコット
の我がクラスナリ

復員す青年将校の教壇に血氣に燃えて立つも
奇異なり

小学生四年の生徒に軍国の思想を教ふ熱血教
師は
命令に反する生徒に気を付けの姿勢を命じ殴
り倒しぬ

鉄拳を顔面に受け倒れ伏す生徒は直ちに起き
上がりけり

黒板に軍国教育反対と書き置き山に逃げしあ
の日よ

敗戦を解せずに戦場に立ち叫ぶ軍国神國復活
の日よ

裏門を出で裏山に共に逃げ戸田のため池に辿
る我らは

生徒会にて授業放棄を決議して一致団結進む
生徒ら

先生の鉄拳を受ぐ顔面に右に大きく倒るA君

気にくわぬことの生徒に在りしかば軍国教育
を用ふ教員
終戦後一年なりし社会ゆへ思想教育の乱れし
ままに
学級の授業放棄を扇動す責を感じて田舎離れ
し
学校の無知蒙昧なる対応に戦後日本の解放を
知らず
学校の教員たちの蒙昧に毅然と臨むあの時の
母
未塾なる我をまもりて教師らと意見を交わす
強き母なり
有難き畏き母の言の葉に従ひひとり村を離れ
り
東京へ望みを大きく抱き発つ我を見送る水戸
駅の母
からくさの模様の風呂敷包み持ち中に白米の
むすび在りけり
母の云ふ言葉を信じ上京す常磐線の機関車に

乗り

ひとり立つ上野駅頭に一面の焦土となりし故
郷の街
浮浪者のあまたたむらぶ上野駅あたりの怪しき
どさくさの群れ

服装の乱れ破れし浮浪者の群れのふらつくさまのあやしき

凄惨のあと生々しるざとのこれが戦火の爪
痕なりし
B29の三月十日の大空襲十万人余の死者を
出しけり

上野駅より浅草にまで見通して更にお化け煙
突にまで
浅草の観音様も焼け落ちぬ跡形もなき焼け野
原かな

焼け跡のそこここに見んバラックの掘つ立て
小屋に父はあるらし
戦争の暴力肯定を教育の現場に持ち込む青年
将校

あのころの生徒は眞面目に勉学し皆眞剣に

日々に臨めり

友愛を信じ生徒らは手を組みて民主日本の再

建に期せり

混乱の教育現場に新旧の思想交錯の荒れし

日々なり

農村の戦後の変化を理解せで新生日本の日々

に迷へり

アメリカのB29の攻撃凄まじくその恐怖よ

り解かる終戦

芳野村小学校の学び舎の今なかりせば惜しき

心地す

あのころの恐怖を歌に残さむと今この頃に焦

る我なり

苦しみの日々連續の時ゆえに歌の記録に残し

をかんと

ちちははの苦労の姿目に浮かび目がしら熱く

こもりくるかな

*

若者の姿躍如のリオ五輪見る少年たちは幸い
なりき

純粹にスポーツ精神を發揮して素手で競える
公正の場は
ドーピングを強制してまで選手らにメダル獲
得を強いる国あり

物品の世にあふれたる楽しさを比べて今は天
と地の差にて
あの時のなぜか樂しき思いでの心に無きはさ
みしかりけり

引き続き三つの台風の本邦に襲ひてくれば慌
てける島

おおてらの屋根を流るる大雨のとどまり止ま
ぬ音の轟き

おおてらの梁を支へる丸柱雄々しくあまたす

くみ立つなり

大寺の屋根に降りしく夏さめのとどまり知ら

ぬ雨だれの音

願わくば千年も万年も生き抜きて望みを遂げ
て行かまほしけれ

入益の宅のみぎわに茄子・きゅうり串に差し置
き着るる里かな

送り火の灯りの消えて家並みの軒に残れる音
の鈴かな

あき、ゆきは如何に過ごさんこの夏をきっと受
験に多忙なりきと

孫の佳、麗が拙宅に遊び来てしばらく見ぬまに
大きくなりぬ

続

悪しき戦争の歌

戦争の好きな輩が有象無象地上に跋扈の荒れ
し世界よ

トランプの気違いじみた性格に翻弄さるるア
メリカ民衆

不思議なり何ゆえ斯様な政治家の米大統領の
候補者ならん

トランプが米大統領に就くとすりや予想つか
なき」と暮起せん

大らかなアメリカ魂のいすくにかトランプ如
きやから出でしに

U.Sの大統領の品格に触る議論の下劣なるさ
ま

大統領候補同士が言いあひて喧々諤々品も堕
ち行く

トランプの何だか分らぬままに過ぎ得体の次
第にあがらさまにも

不動産王名だたるトランプタワーにてスター
バックスのコーヒーを飲む

灰皿と金はたまれば溜まるほど汚くなりぬと
良くぞ云ひしに

クリントン昔美人と謂われしに目つき次第に
大きくなりし

にこりともせぬ王毅中国外相の突つ張りしま

リオ・オリンピックの閉幕

ま訪日の時

ニクソンもブッシュも同じ顔をして毛沢東も
習近平もそう

ヒトラーとチャップリンとも良く似合ふフイ
ルムの上の演技力にて

冷ややかな目つき顔つき冷血漢アサドに似て
くるプーチンも又

温和なりオバマ大統領の人がらの自ずと示す
平和への道

有終の美を飾りゆくオバマ氏のかざすは核兵
器廃絶の旗
さはさなりトランプがややヒトラーに演説口
調がやがて似てきぬ

歯に衣着せぬがゆえに愚劣なりトランプが吐
く政策内容
殺人狂時代の映画のチャップリン髪髪させし
アメリカ社会

十七日間にわたって開かれていたリオ・オリ
ンピックが日本時間の二十二日午前を以て閉
幕した。閉幕式には世界のアスリートたちが
競技場に集まり、輪になつて手を取り合い別れ
を惜しむ光景と、再会を期する様子がテレビに
映つた。そして、次の開催地の東京に五輪旗が
渡された。四年後には東京で開催される。その
東京では一ヶ月前に都知事の不祥事で選挙が
行われ、新知事の小池百合子知事が次期開催の
バトンを託され、五輪旗が小池知事に渡された。
東京五輪については、早くもいろいろと難問山
積のオリンピック開催の準備であるが、規模の
拡大だけが能ではない。コンペクトで中味の充
実した企画が必要である。もうすでにその準備
が着々と始まっているが、オリンピックは競技
を通じて世界を代表する若者が一堂に集結す
る平和的祭典である。オリンピックを起爆剤と

して、経済効果を収めて行くことも現実の夢として、希望として国民が取り組んでいくことも肝要である。そうしたことを見事に成就させることが、四年後の東京オリンピックを成功させる道である。

思うに日本選手の活躍と躍進が目立つ、今回のリオ・オリンピックであつた。十七日間があつという間に過ぎてしまった感じだが、その間の、日本選手の努力研鑽のあとを十分に發揮する歴史的な活躍の舞台であつた。金メダル十二個、銀メダル八個、銅メダル二十一個となり、過去最多の四十一個のメダルを手にしての凱旋となつた。二十年の東京開催に向けた躍動の若者の姿である。リオ五輪の開催の時、私は、水泳の萩野選手の最初の登板で、確実に金メダルを獲得して、後続の各種目の選手たちの活躍に大きなインパクトを与える展開になるはずだと喝破して、大いに期待したところであった。それが最初に見事的中して、萩野選手が二百メ

ートル平泳ぎで見事最初の金メダルを手にした。以後、各種目の各選手の大活躍ぶりに感動しながら観戦し、日本応援のため終始手に汗を握つて応援してきたのである。その結果が尊い、燐然と輝く四十一個のメダル獲得となって、日本に歓喜の成果を持ち帰るわけである。

選手諸君たちが既に、オリンピック競技に参加することに大きな意義があることは言うまでもない。同時にメダル獲得は、スポーツ精神を遺憾なく発揮して、日々の鍛錬と練習を積んだ成果が、選手諸君の健全な肉体を全回転させて、力と、技と、美を遺憾なく表現して、世界からその大いなる評価を得た結果であることは如実であり、そこに、最高の誇りと意義をみんなと喜び、分かち合いたいと思うのである。健全なる精神は、健全なる肉体に在りを以てし、この大いなる才能に触発されて、私たち自身も日頃の職務を通じて大いに自信を以て、それぞれの職場に生かしていくことが大切である。五

輪で発揮されたスポーツ精神を通じて、健全なる精神の涵養に努めるべきである。その健全なる精神を以て、今こそ野蛮極まりない争いと、戦争を回避しつつ、世界平和の道を切り開いていくべきである。正義感に燃えた純粹な青年たちが、戦争を仕掛けたりするはずがない。よこしまに企てたりするのが、リーダーと称する腐った老人ばかりだからである。

常々思うことは、若者たちのスポーツ精神の発揚を、政治の世界に広く求めて実践してもらいたいと云う素朴な気持ちであり、ひたすら念願するところである。次回の2020年東京での開催の成功を期して、再び世界の若者たちのたくましい参加を望みながら、世界の人たちとの相互理解を深めつつ、一般の人たちの大きな力を発揮していくではないか。今回、それを勇敢に示してくれた世界の選手諸君たち、そしてブラジル国の人々、有難う！ 八月二二日

閉幕すリオ・オリンピックの華やかに大奮戦の記録続出

日本のメダル獲得も歴史上最多の41個と凱旋帰国

素晴らしい記録を伸ばし日本の選手らベストに挑む戦ひ

日本の初の銀メダルに四百のリレー競走の男子選手ら

体操と柔道などの種目にも金の快挙に起る歓声

とキューバの旅行談を聞かせてもらおうと思つてゐる。

八月一四日

ようやく休暇をとれた娘から短いメールが入つた。先日、キューバに向けて羽田を発つたが、その後の第一報である。真っ青に輝いた、海の景色の写真が添えられてあつた。娘とのと一緒に元気な姿も映つていた。キューバはまだ物資が充分ではないが、そこには明るく優しい人たちが居るということである。一説には、カブリ海に浮かぶ楽園の島とも言われている。社会主義だといふけれど、普通に考えていい社会主义や独裁国家とは違う印象だと伝えてきている。遅れていることだけは事実で物資は十分に行き渡つていてるようには感じない由である。長いことアメリカの制裁措置を取られただけに、交易は遅れがちである。色々と勉強になつてゐることである。詳しくは帰国してから話してくれるとの事である。小説の「老人と海」はあまりにも有名だが、そのヘミングウェイが愛した国である。むべなるかなと思つたりして、明子の帰りを待つて、ゆっくり

炎暑の八月六日

今日は広島「原爆の日」である。原爆投下によつて戦争を終わらせることが出来たのは確かであるが、投下された凄惨な地上の様子は目を覆うばかりである。戦争終結と原爆投下、この矛盾に悩む私であるが、多くの、否、人類が未来永劫に苦悩していく矛盾である。今日のNHKスペシャルの報道を見聞きして、アメリカのマンハッタン計画と、原爆投下までの軍と政府の意見の対立について、テレビを見ている間、終始戦慄を覚えざるを得なかつた。命令とはいへ原爆の製造に加わった科学者と、実験を現実に実行しようとした軍の暴走と、政治家のあいまいな意思決定が白日の下に晒されて、戦後七年の経つた今でも原爆の悲惨さと、もたらされた凄惨な被害は生々しく恐怖となつて胸に迫り、胸の動悸が收まらなかつたのである。

過日オバマ大統領が伊勢志摩サミットの会議閉幕後、米大統領としては初めて広島を訪問

して、平和公園の原爆慰靈碑の前に立つた。そして核兵器廃絶の言葉を世界に呼びかけて広島平和宣言と共に残して、意義深い歴史を刻んで帰国した。その光景を改めて思いだして犠牲者を悼み、感慨を深くしたのである。悲惨な戦争を体験してきている筈の人間だが、愚かなるかな、未だに抗争と戦闘が絶えず、テロも起きて悲劇が繰り返されている。困惑を禁じ得ない。核無き世界の実現に向けて、人類の力強い行進が着実に始まつていると信じていて。

原爆の投下を指揮するグローブス鬼畜に等し軍人の業

真珠湾奇襲も悪ろし日本の軍人リーダーの馬鹿な浅知恵

原爆の投下に至るアメリカの当時の事実を知らす報道

トルーマン大統領の責任を問ふNHKの原爆報道

曖昧な原爆投下の意思決定米大統領の歴史に

汚点を

凄惨な原爆投下の惨状に人類破滅の地獄絵図
なり

戦争を進めし日本の軍人と時の政治家の愚か
なるさま

目を覆ふ原爆投下の惨状の広島市民のあまた
犠牲に

歴史的古都の京都も標的に原爆投下の画策の
日よ

科学者と軍部の無謀な実験に広島長崎は火の
海なりき

凄惨なりああ凄惨なり原爆の広島の地の地獄
絵図なり

核兵器廃絶の声たかだかと反戦運動の被爆地
より

オバマ氏の広島訪問の意義深く核無き世界を
目指し行くかな

オバマ氏の原爆被災地訪問の意義を世界に広
め行くなり

キリストの和解と平和の教えこそ対立抗争の
もとを絶つなり

今日は又、地球の裏側のブラジルでは、待望
のリオデジャネイロのオリンピックが開催さ
れた。リオ市内のマラカナン競技場には史上最
多の二〇五カ国と地域から、約一万人の選手た
ちが力、と技、と美を競い合って十七日間、各
種目の競技を競い合うことになる。オリンピッ
クは平和の祭典である。日本からは三百三十八
人の選手が参加する。年米でのオリンピック開
催は今回が初めてとなる。ブラジル経済と政情
不安で心配されてきたが、開催にこぎ着けるこ
とが出来た。開会式では情熱のサンバのリズム
と踊りで華やかに盛り上げられた。大会のスロ
ーガンは「新しい世界」である。今までの選手
団にコソボ、南スーダン、そして中東や南アフ
リカの出身者で構成された「難民選手団」が結
成されて参加している。平和の意義を象徴する

大会である。政治の世界で注文を付けたいのが、難民の流出を食い止めることがある。混乱の統一国々の内戦の収束を図ることが最大の解決策である。各地で争いの絶えない地球だが、

ラジルは多様性を誇り、他国の文化に寛容な国であるという。お互いに人間の尊厳と立場の違いを認め合い、受容の精神を發揮して今こそこの理念を実現し、五輪の精神として今の世界に広めて行く絶好のチャンスである。

肉体と精神の、力と、技と、美を競い合う華麗なる競技の祭典。五輪の意義は、人間性の発露と、世界平和の実現にある。これから連日、競技の熱戦が繰り広げられる。日本からは水泳で早くも金メダル候補の萩野選手の活躍が、最初の競技となつて期待されている。金メダルを狙つて力泳する姿が頼もしく、俄然期待されるところである。萩野選手の金メダルが実現すれば、日本選手のこれから各種目の活躍に、俄然大

きなインパクトを与える結果となるであろう。
最初佳ければ全てよしである。

*

ラジルのリオにて開くオリンピック我らが地球の裏の祭典

この世にて平和と自由と繁栄の意義高らしむリオの祭典

人間の力と技と美を競ひ競技を通じて競ひあふよし

肉体の健康は健全な精神に宿ると云ひし人の勝れり

健全な精神は又健康な肉体に在りと云ふも善なり

普遍的教えに心、技、体を整えんとスポーツ精神の神髄に在り

夏雲の沸き立つ空に青春の躍動の日の今よみ
がえる

八月六日

自由貿易の意義

学習院大学教授

伊藤 元重



「自分たちは外国に労働力を求めた。しかしやつてきたのは人間だった」。これはスイスの作家が外国人労働の影響についてコメントしたものだ。生産要素としての労働力だけを考えれば海外から安価な労働力を求めるることは合理的にみえるが、そこには家族、宗教、文化、犯罪など様々な人間的要素が関わってきて、難しい問題が多く生まれる。

米国大統領選でのドナルド・トランプ候補の発言、欧州連合（EU）離脱を決めた英国の国民投票など、グローバル化の流れに反対する声が大きくなっている。ただその中身を精査すると、移民や難民など国境を越えた人の移動に関するものが多くを占める。

グローバル化とは、人・モノ・カネ・企業・情報など、様々なものが国境を越えて動くことである。そう定義するとすれば、あまりにもアバウトな議論ではある。モノの取引である貿易が自由化することと、グローバルマネーの活動が活発化す

ることは、経済学的には全く別の現象だ。

貿易の自由化は好ましいと強く主張する筋金入りの自由貿易論者の学者でも、グローバルマネーの動きにはある種の規制が必要とする人が少なくない。ましてや今のグローバル化論議の中心にある人の移動の是非を論じる時には、貿易自由化論とは違う次元の様々な論点が関わってくる。

一方で環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）などの経済連携協定（ＥＰＡ）の是非が論じられる時には、人・モノ・カネなどの国際化が一括で議論されることが多い。本来はモノの国際化である貿易自由化が議論の中心であるはずのＥＰＡも「グローバル化」に賛成か反対かというアバウトな議論に巻き込まれてしまう。

* * *

化」「金融の国際化」「人の移動」など、それぞれの問題について正確な議論をする必要がある。ＴＰＰなどのＥＰＡについては間違いなく、最も重要な部分は「貿易自由化」に関わる問題だ。

貿易は自由化した方が規制するよりはるかに好ましい。学問的な流れからは、そう結論が出ているといってよい。

アダム・スミスの「国富論」は当時の保護主義である重商主義への批判の書として書かれた。その流れから分業の利益、比較優位、消費者主権など、現代の自由貿易論の論理構成が生まれてきた。後発国による自国の産業保護を正当化するジョン・スチュアート・ミルやフリードリヒ・リストによる幼稚産業保護の理論も、部分的には正当性があつても、自由貿易論を覆すような力とはならなかつた。

1980年代の貿易摩擦を背景に出ってきた戦略的貿易政策論も、貿易自由化の正当性を覆す力とはならなかつた。当時のある研究者が「貿易摩

冷靜な議論をするには「グローバル化」というマジックワードを振り回すのではなく、「貿易自由

貿易自由化がもたらすメリット

- ・石油や鉄鉱石など、国内で調達できないものを確保する
- ・途上国が貧困から抜け出すには貿易の力が必要
- ・比較優位により生産を効率化できる
- ・規模の経済性を生かすには海外に輸出する必要がある
- ・資本財などの輸入は技術波及効果を持つ
- ・輸入品との競争で産業内の新陳代謝が高まる（メリッツ効果）
- ・輸入品を拡大することで安価な商品を購入でき、消費者利益となる
- ・国際的な分業を活用することで経済成長率を高められる
- ・国際競争の圧力を国内の独占や寡占をけん制できる

擦などを通じて次々と新しいタイプの保護主義が出てくるが、そうした中でもやはり貿易自由化の方が保護貿易より好ましいということを示すために、「貿易理論は精緻化を進めている」と発言していた。

なぜ貿易自由化が好ましいのかという理論的根拠を整理すれば、スマッシュの時代にはなかつたような新たな論点も含めて、多くのことを列挙でき

る。それをすべて提示しようとすれば、大きな本が必要となるだろう。表は、とりあえず思いつく貿易自由化の利益の項目を列挙したものだ。

貿易自由化を正当化する議論が多様なように、貿易制限を求める保護主義にも多様な声がある。90年代後半から世界的に盛り上がった反グローバル化に関わった人の議論をいくつか挙げてみよう。

「途上国から安い商品が入ってきて自分たちの雇用を脅かしている」と主張する先進国の労働組合の人たち、「多国籍企業は途上国で労働者を搾取している」「グローバル化で環境が破壊されている」と主張する人たち、「グローバル化により自国の主権や価値が侵される」という人たち、「そもそもグローバル経済は市場経済がグローバル化に世界に広がつたものだ」との批判を繰り返す社会主義者の残党など、実に多様な声があつた。それは今でも変わらない。

グローバル化の流れが強くなるほど「グローバ

ル化に反対する」という錦の御旗に多くの人が集まりやすくなる。

* * *

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようすれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。行動経済学などでも指摘される点である。保護主義の議論の多くは、現状を変えたくない、と言つているようにも聞こえる。

貿易自由化の動きが強くなれば、それへの反作用としての保護主義の声も強くなる。80年代から90年代にかけて関税貿易一般協定（ガATT）のウルグアイ・ラウンドで、コメの自由化が論議されていた時、「コメは一粒たりとも日本には入れない」と国会が全会一致でまとまつたのはその好例だろう。TPP交渉が進むほど、それに反対

する声も大きくなる。政治家としてはそうした声を無視できない。

貿易自由化に反対する声が強くなれば、世の中の流れが大きく変わる可能性はある。過去の経験が示すところでは、そうした保護主義の流れは人々にとつて決して好ましい結果をもたらさなかつた。

30年代の大不況の中で、ブロッサム経済化などの保護主義政策が世界経済をさらに混乱させたことはよく知られる。その反省のもとに、戦後にガATTができた。現在の世界貿易機関（WTO）の前身だ。

ガATTのもとでの貿易自由化で、日本やドイツなどの先進国は高度成長という恩恵を受けた。だがこの貿易自由化に当初参加しなかつた大半の発展途上国は、成長の恩恵を全く受けられなかつた。保護主義的政策が経済成長の力を殺してしまつたのだ。その愚にいち早く気付いたのが、韓国や台湾などのアジアの国だつた。こうした国の成

功をみて、少しずつより多くの途上国が貿易自由化を掲げ、途上国の成長を促していく。

ただ、貿易自由化が進むほど、その反作用としての保護主義も強くなつた。70年代から日本を苦しめてきた日米や日欧の貿易摩擦は、保護主義が様々な矛盾に満ちた制度的ゆがみをもたらすという教訓を残した。EU離脱を決めた英国も、もしこれが貿易や直接投資の制限という形で展開されれば、その損失の大きさに苦しむことになるだろう。

* * * *

つまり常に自由化を進める交渉を続ける」とが重要だ。TPP交渉はそのものが重要なだけではなく、それにより農業改革などが進み、さらにはEUとのEPAや日中韓自由貿易協定(FTA)、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)などの交渉にも弾みがつくことが期待される。

もしTPPが米国の政治により潰されれば、他の交渉の動きにも影響が出る。万が一そうなつたら、WTOでもEPAでも次のチャンスを見つけて、自由化を進める努力を継続する。これしか道はない。

いとう・もとしげ

51年生まれ。ロヂエスター大博士。専門は国際経済学。東京大名誉教授

保護主義を抑え込んで、貿易自由化をどのようになめていくのか。そのためには何が有効なのか。

残念ながら奇策も魔法もない。正攻法で貿易自由化を進める努力を続けていくしかない。ある政治学者が「通商交涉は自転車をこぐようなものだ」と言つていた。こぐのをやめてしまえば倒れてしまふ」という意味だ。

伊藤元重

共存の民主主義と
多數派と少數派

小学校の先生に教わった民主主義とは、要するに多數決のことだった。ほんとうに多數決がいちばんよい制度なのか、その頃から疑問だった私は、どうして多數決がいいんでしようと先生に質問したこと覚えてる。

東京大学大学院教授
藤原 帰一

先生は質問に答える代わりに、「ど」がいけませんかと私に質問を返した。民主主義と多數決と同じものにすればどんな問題が発生するのか、小学校五年生の私は答えることができなかつた。

半世紀経つたいまも自信はない。でもあえて答えるなら、多數決だけの民主主義から取り残されるのはマイノリティーの問題だと思う。

多數決によつて選挙や議会の投票結果が決まつたとしても、負けた側がその決定に従わなければ制度は成り立たない。今度は負けても次の機会には自分が勝つことが期待できるのであれば、自分に不利な決定を受け入れることもできるだろう。だれが多數派で誰が少數派かが固定していいない場合、多數決は必ずしも不合理な制度ではない。



それでは、国民の一部に過ぎない少数民族とか宗教など、人口が少ないために国内社会の多数となることができない人についてはどうだろう。民族や宗教によつて差別されることなく、それが

政治の争点となつていなければともかく、民族や宗教の違いによる差別が厳しい場合には紛争の発生は免れない。政治社会の決定が多数決によって行われ、その多数決が少数派の考え方を反映するなら、少数派が迫害の排除を求めても成果は期待できない。制度によつて解決ができないのであれば、力に訴える人も生まれてしまう。多数決だけに頼る民主主義だけでは多数派と少数派が共存する社会をつくることは難しい。

歐米諸国における民主主義は、決して多数決だけを指すものではなかつた。森政穏氏が「変貌する民主主義」(ちくま新書)で触れているように、現代の民主主義は自由主義を源流として、そこに民主政治という統治の仕組みが加わつたものとして捉えることができる。もし民主主義が政治権

力を多数派の手に委ねるだけのものであるなら、民主主義が独裁への道を開くことになりかねない。民主政治の前提是多数派と少数派の別を問わない自由な公共社会である。

移民は少数派の代表である。移民を受け入れてきた背後に国内労働力不足の解消という要請があつたのは事実だが、とはいへ、移民との共存は歐米諸国における政治社会の基礎であり、誇りでもあつた。移民国家であるアメリカはもちろん、域内の人々の移動を自由化したヨーロッパでも、文化や歴史の異なる人々が一つの制度の下で暮らす公共社会を実現したと考えられていた。

* * *

そのような社会観念は、いまではすっかり衰えてしまつた。歐米諸国の周辺において ISIS(いわゆる「イスラム国」)と結びついた武装勢力が生まれ、その暴力行為がそれまでにも存在してきた国内における移民排斥をさらに強めたからである。

新たな移民がその社会に受け入れられ、根づくことは常に難しい。ことにイスラム地域から移民の場合、宗教の相違もあって文化的な摩擦は厳しく、フランスやベルギーなどにおけるテロの背景となつた。アメリカにおけるメキシコなどからのラテン系の移民は、それまでの住民との人口比率を変える規模に及んでいた。

多民族や多文化の共存などという綺麗事を拭い去り、少数派の排除を公言する政治が生まれる背景は、このような多数派の少数派に対する恐怖があつた。メキシコとの間に壁をつくつて不法移民を排除しようと訴えたドナルド・トランプ氏は、アメリカ共和党の大統領候補者になつた。去る六月にイギリスで行われた国民投票において欧州連合（EU）からの離脱派が勝利を収めた原因の一つにも移民流入への反発が挙げられている。

事態を誇張すれば誤りになるだろ。世論調査を見限り、共和党候補に指名されたとはいえ、トランプ氏が次期アメリカ大統領となる可能性は

低い。国民投票後のイギリスでは政治的混乱が続いているが、EU離脱に加え移民排斥を正面から主張するイギリス独立党は支持を落としている。欧米諸国が多数派と少数派の共存を放棄したなどということはとてもできない。

それでも、多数派と少数派が不寛容に向かい合う構図は不気味だ。既に自由主義は、自分の自由とともに他者の自由を認める制度ではなく、国家が市場から出て行けば自由な社会が保たれるという観念となつて久しい。いま民主主義は、自由な公共社会における統治の仕組みではなく、多数派が少数派を排除する制度の別名に変わらうとしている。

ふじわら・きいち 56年生まれ。国際政治学者

藤原 喜一

今こそ問われる成長の「質」

京都大学名誉教授

佐伯 啓思

本というものは不思議なもので、かなりの年月を経て読み返せば、以前とは相當に異なつた印象を受ける時がある。前にはたいへんに面白く感銘を受けたものが、再び読めばどうも色あせて感じることもあれば、またその逆もある。

先日、シユーマツハーエの『スマール・イズ・ビューティフル』という本を読み返した。原書が出版されたのが1973年、邦訳が76年。世界的なベストセラーとしてあまりにも有名で、ある年代のものには、たいへんになじみの深い書物であろう。

この頃、私は大学院生であつた。この書物も読んだはみたが、さしたる感銘も受けなかつた。別に異論があるわけではなく、書かれていることは至極当然であるものの、至極当然のことしか書かれていない、という印象であつた。おまけに、「小さな」とは美しい」というこのタイトルにも、なんともいえない偽善を感じたのであつた。

* * *



ところが、それから40年たつて、たまたま再読した。面白い、と思った。私の考えが変わったわけでもない。多少の経験のゆゑに読解力が鋭くなつたわけではない。時代が変わつたのである。もつと正確にいえば、本書でシューマッハーが訴えている「当然」のことが、実に新鮮に響くようなどころまで、時代が進んでしまつたのである。

シューマッハーは、ドイツ生まれで、戦後はイギリスの石炭公社の顧問をしていた文明論者である。70年代初頭の、高度に発展した先進国の大工業文明がもたらす、経済拡張主義や巨大化する技術を批判することが本書の意図であった。書名から見当がつくように、化石燃料資源をふんだんに使い、自然や環境を破壊し、効率化をめざす技術革新を遂行して、より大きく、より多く、より遠くまで、を目指して経済成長を続ける先進国の大工業文明はもはやもない、というのが彼の基本的な考え方である。

この工業文明に対し、シューマッハーは、人間

が、人間的な仕事をし、安定した生活をし、よい社会的関係を作つていくには、「もの」とには適切な規模がある、という。巨大信仰、効率信仰、成長信仰ではなく、もつと、人間の身のたけにあつた経済活動があるはずだ、という。科学技術の力を使って経済成長を生み出す現代の巨大な機械技術は、人間が楽しんでする仕事や、頭や手を使つておこなう創造的な仕事を奪つてしまつた。それは、自然や環境を破壊するだけではなく、人間の尊厳や創造的能力をも破壊しかねない。

そうではなく、人間の創意工夫や楽しみと結び付いた、より機械化のレベルの低い「人間的な技術」があるはずだ。また、より小規模ではあるものの、土地や地域とつながつた経済活動がありうるはずだ、という。「小さくてもだいじな自分の土地や天然資源の面倒をよくみること」が重要だという。

つまり、物をやたら作り、企業も都市も大きい方がよいという「大きい規模」をめざす現代文明

に対して、自然や地方の生活、土地と農業を取り込んだ「適切な規模」を維持するもうひとつの方向がありうると主張する。これは、ひとつの価値観の転換であり、ヒューマンズマークの言葉を借りれば、新たな「形而上学」なのである。そのためには、まずは、今日の効率至上主義や物的な拡張主義を支えている経済学の考え方から解放されなければならない。

60年代末から70年代にかけては、一方で、工業社会は未曾有の豊かさをうみだし、日本でも大阪万博が開催されると同時に、他方で、公害問題や環境問題が叫ばれ、朝日新聞も「くたばれG.N.P.」といった特集を組んでいた時代であつた。「人間性の回復」や「物資至上主義からの解放」などといったことは、ひとつつの知的流行でもあつた。だから、『人間復興の経済』という邦題を冠したこの書物など、まさしくこの知的流行に棹としたもののように、私には思われた。「人間的」とか「人間らしさ」という形容詞がいかにも安直

なヒューマニズムに思えて、まずそこに反発したのである。

* * * *

しかし、それから40年たつた。今日、かつてなく、技術主義と拡張主義は「至上命令」になつてゐる。IT革命は次にAI（人工知能）革命を生み出そうとし、機械はロボットへ置き換えられようとしている。このような先端技術をいち早く採用した国や企業がグローバル市場を制覇して経済成長を可能とする、という。第4次産業革命とやらだ。アメリカもEU（欧州連合）もこの方向で経済成長を追求し、日本も遅れまいと、これらを成長戦略に組み込んでいる。AIとロボットが人間を代替するような世界を目指している。

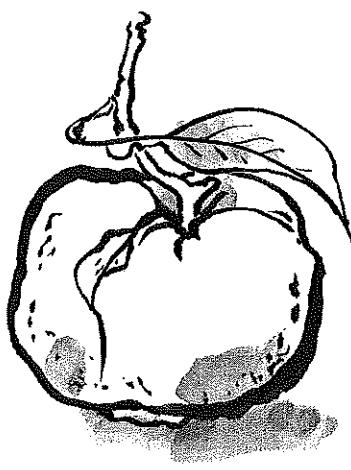
こうなると、「人間復興の経済」などというタイトルが、紗に新鮮に響くのである。今日、われわれは、グローバル競争に勝つために成長戦略をとり、そのために技術革新にやつきてはいる。

本末転倒であろう。

ショーマッハーは次のようないことを述べている。ある国のGDPがたとえば5%のびたといつても、それがよいことなのか、悪いことなのか、経済学者は答えられない。病的な成長、不健全な成長、破壊的な成長というものもある。「質」を問わねばならない、と。A.I.やロボットが、そしてグローバル競争が「人間」に対して何をもたらすのか。それはよいのかどうか。こうした問いをわれわれは発しなければならない時代なのである。

さえき・けいし 1949年生まれ。著書に
『反・幸福論』など。

佐 伯 政 四



作品 関根常雄

時局論壇

EU離脱後の英国の行方

立命館大学教授

星野 郁

英國は6月23日の国民投票で歐州連合（EU）からの離脱を決めた。しかし、英國がいつEUに離脱を通告するのか、通告後EUとの交渉をどう進めるのか、そもそも英國は最終的に本当にEU離脱の道を選ぶのか、また離脱後に英國はEUとどのような関係に置かれることになるのか、現時点では不透明なままだ。

本稿では英國が実際にEUを離脱した場合に、そのことがロンドンの国際金融センターとしての地位ならびに現在英國に展開する外資系企業の立地にどのような影響を与えるかについて考察したい。

* * * *

周知のようにロンドンは世界有数の国際金融センターとして、長く支配的な地位を維持してきた。英國政府も特に1980年代半ばの金融ビッグバン以降、金融・保険ビジネスやサービスの育



成を戦略的課題に掲げ、ロンドン市場の発展を後押ししてきた。

今年3月公表のグローバル金融センター指数（GFCI）によれば、ロンドンは熟練した人材獲得、規制環境、ビジネスインフラ、国際金融市场へのアクセス、政府の対応、顧客へのアクセス、税制、文化や言語などからなる評価項目で、世界86都市の中トップに位置する（表参照）。

順位	都 市	得点
1 (1)	ロンドン	800
2 (14)	ルクセンブルク	698
3 (18)	フランクフルト	689
4 (27)	ミュンヘン	672
5 (32)	パリ	667
6 (34)	アムステルダム	664
7 (37)	ストックホルム	648
8 (39)	ダブリン	643
9 (40)	ウィーン	642
10 (49)	コペンハーゲン	630

(注)英金融コンサルティング会社のZ/Yenが2016年3月に調査した
グローバル金融センター指数を基に作成。カッコ内はグローバル
金融センターランキング

これに対し、英国の離脱後にロンドンから金融取引の奪取を狙うパリ、フランクフルト、ダブリュのランキングははるかに下位だ。よって英国がEUを離脱したところで、国際金融センターとしてのロンドン、特に欧洲での支配的地位は安泰のように見える。また、離脱によりロンドンはEUの煩わしい金融規制から自由になり、さらなる競争上の強みを生かして、今以上に繁栄できるとの見方もある。

確かにパリやフランクフルトとの差は歴然としており、少なくとも欧洲内では当面ロンドンに代わりうる国際金融センターは見当たらない。ロンドンには長い伝統や熟練した取引ノウハウ、巨大な市場規模や人材の厚み、金融ビジネスの支配的言語である英語圏の強みなどもある。

とはいっても、国際金融センターとしてのロンドンの発展は、EUの経済・通貨統合の進展とも不可分の関係にあつた。单一通貨ユーロの誕生とホールセール（大口金融）取引の拡大、EU金融市场

へのフルアクセス、ハブ（中核）としての役割がロンドンの発展を支えた重要な一因だつた。

現に、ユーロ圏をはじめEUや米・アジア系の大手金融機関もロンドンに拠点を置いて、EU向けのビジネスを手掛けている。英国がユーロに参加しなくともロンドンは金融取引で不利になることはなかつたが、それは英國がEUの一員だったからであり、離脱となればロンドンを取り巻く環境は大きく変わりうる。

ロンドンを拠点に対EUビジネスを開拓している大手金融機関にとって最大の懸念事項は、英國の離脱後も、銀行免許がEU域内で相互承認される単一パスポートが継続されるかどうかにある。

現在は単一パスポートのおかげで、大手金融機関は他のEU諸国に拠点を置かなくても、ロンドンから直接金融サービスを提供することが可能だ。もちろん、その中にはユーロでのビジネスも含まれる。しかし英國の離脱後には単一パスポート

トが停止され、EU市場へのアクセスが制限される可能性が高い。

また、英國はユーロに参加していないにもかかわらず、ロンドンは外為・債券・デリバティブ（金融派生商品）をはじめユーロ建て取引の最大の拠点となっており、決済業務のほとんども担つている。

欧洲中央銀行（ECB）は2011年半ばに、金融システムの安定確保の観点からユーロの決済業務はユーロ圏内に置く「現地主義方針」を表明した。だが英國はロンドンの国際金融センターとしての地位を損ない、単一金融市场を分断する恐れがあるとして欧州司法裁判所に提訴し、15年3月に英國が勝訴した。しかし離脱となれば、もはや英國がそうした便宜を得られる保証はない。

さらに、英國のEUへの引き留め策の一環とし

て14年夏に打ち出された資本市場同盟構想も、今回の離脱の決定により宙に浮く形となつた。資本市場同盟は、銀行同盟と並ぶ金融同盟の柱であり、EUの資本市場の統合と直接金融の活性化を通じて経済成長を促そうとする試みだ。ロンドンを欠いた資本市場同盟は、英國にとつてもEUにとつても大きな打撃となる。

とはいえる離脱となれば、英國抜きで資本市場同盟を進めるしかない。歐州証券市場監督庁（ESMA）、歐州保険・年金監督庁（EIOPA）は既に、それぞれパリとフランクフルトに置かれている。英國の銀行同盟不参加にもかかわらず、ロンドンに置かれていた歐州銀行監督庁（EBA）も、いずれEU圏内に移転せざるを得ないだろう。かくして離脱後には英国外しが進むと予想される。そうなれば英国内の市場を基盤とする金融機関はともかく、ロンドンをハブとして使っている大手金融機関は、少なくとも一部業務の移転のために、離れたくなくとも離れざるを得なくなる

だろう。JPモルガンをはじめ米大手銀行は、既に人材・業務分散の検討を始めており、離脱に伴い戦略の見直しは不可避となる。

そうでなくともロンドンの繁栄を支えてきた金融ビジネスそのものが大きな曲がり角を迎えている。投資銀行ビジネスの不振により、欧米の大手銀行は経営難に苦しみ、大規模なリストラやビジネスモデルの見直しを余儀なくされている。加えて国際金融危機後、ロンドンの活況を支えていた不動産バブルも、離脱決定を受けて崩壊に向かい、投資ファンドの解約が相次ぎ、株安やボンドの大幅な下落を招く一因となつていている。

これまでのように世界中から潤沢なマネーをかき集め、金融ビジネスで繁栄を続けられるのか、今後のロンドンの行方は決して楽観できない。

同様のことは、英國に展開する金融機関以外の外資系企業にも当てはまる。日系企業はサッチャーポリ以来、英國政府から資金援助など様々な支援を受け、英國各地に展開してきた。しかし今回の

国民投票では、日系企業の城下町といわれた地域でささえ、離脱派が残留派を上回った。英国政府は法人税の減税などで引き留めに躍起となつてゐるが、離脱によりEU市場でのハブとしての魅力は失われる。

医薬品のように、英国内にEUの許認可機関が立地していることで得ている利益も、離脱後には失われよう。確かに他のEU諸国での立地に関しては、企業統治や労働法制などの懸念も存在する。しかし、要はEU市場へのアクセスや将来性をどう考えるかという戦略的判断の問題であり、ここでも移りたくなくても移らざる得ない状況が生じる可能性が高い。

* * * *

英國とEUの関係がどのようなものになるのかについては、今後の離脱交渉の行方にかかる。英國は歐州で2番目の経済大国であり、離

脱後も重要な顧客である」とに変わりはないので、EUの産業界の中には英國に対しても柔軟な姿勢を望む声も多い。

しかしEUは難民・テロ・反EU極右政党の台頭など深刻な危機に直面している。メイ首相はEUの内情をよく知るタフな交渉相手とされるが、EU側としても安易な妥協はできない。交渉は難航が予想されるが、最終的に離脱となれば英國の経済的地位の後退は避けられないだろう。

ほしの・かおる 58年生まれ。九州大院博士課程単位取得退学。専門はEU経済・通貨統合

星野 有

時局論壇

アフリカ経済と開発援助
産業構造高度化段階的に

神戸大学特命教授
大塚 啓一郎



アフリカの国々の経済発展を支援するため、日本は1993年から5年ごとにアフリカ開発会議（TICAD）を開催し、各国首脳と議論を重ねてきた。第6回TICADは8月27～28日にケニア・ナイロビで開催される。

これに対して中国は類似の会議を3年ごとに、中国とアフリカで開催するようになった。明らかに中国は天然資源だけでなく、安い労働力の活用や成長するアフリカ市場の独占を目指している。日本はアフリカでの存在感が問われており、日本にしかできない効果的な開発援助戦略をアフリカ諸国に示す必要がある。

アフリカは2040年には中国やインドの人口を抜き、世界最大の人口を抱える巨大マーケットになることが予想されている。日本企業のアフリカ進出をどう進めるかは日本にとって重要な課題だ。

* * *

日本の強みは、アジア諸国の経済発展を支援し、低所得国を次々と新興国に押し上げてきた実績にある。本稿ではその内容を振り返りつつ、今後のアフリカの開発援助戦略のあり方を考えたい。

これまでの研究から、アジアの国々が新興国へ脱皮した主要な条件は3つあることがわかつた。第1は、先進国からの積極的な技術や経営的知識の導入、すなわち「模倣」である。中国経済が1978年に始まった改革開放以来、年率10%近い高率で成長したのは、日本をはじめとする近隣諸国や欧米諸国を積極的に「模倣」したからだ。それより一昔前にスタートした台湾や韓国の発展も同様だ。

農業についても、高収量品種の開発と普及を軸とした稻作部門の発展、いわゆる「アジアの緑の革命」は、温帯に位置する日本の稻作技術を科学の力により熱帯アジアに移転したものにはかならない。これもまた模倣の一部だ。

「模倣」というとたやすいことのように思われ

がちだが、決して容易ではない。模倣の成否は「模倣の能力」にあり、その向上には一定水準の教育や訓練された産業人材が必要である。これが第2に強調されるべき点だ。

現在のアフリカの人口の過半数は20歳未満で、過半数が47歳以上という日本はもとより、27歳未満というインドと比べても若い。従って教育と訓練の効果が上がりやすいと想定される。

第3に大切なことは、決して無理をせず、農業の近代化や単純な産業の発展から始めて、徐々に産業構造を高度化していくことだ。世界の最貧国だったバングラデシュが、非熟練労働集約的なアパレル産業の育成から経済成長を開始し、経済発展の軌道に乗ったことは象徴的だ。

アフリカにもアパレル、革靴、簡単な機械修理・金属加工、家具、食品加工などの産業集積が数多く存在するが、多くは停滞を続けていた。これらの産業をいかにして発展軌道に乗せるかがアフリカ経済の最大の課題だ。もし軽工業の発展

に成功すれば、重工業に軸足を移し、やがて知識集約型産業を育成する道が開ける。この段階を無視して経済発展に成功した国はない。

ルワンダなど一部の国では製造業の発展を素通りして、いきなりＩＴ（情報技術）産業のような知識集約型の産業の発展を計画している。しかしＩＴ産業発展に必要な高度な教育を受けた労働者の数は限られており、経済全体の発展にはつながりにくい。仮に成功したとしても、教育を受けた労働者と受けていない労働者の間に大きな貧富の格差が生まれかねない。

* * * *

このように模倣、人材育成、適正な産業構造の転換が東アジア型の発展の秘訣だ。これがアフリカにも当てはまることが研究で明らかになってきた。その好例は年率10%を超える成長を続けるエチオピアだ。同国は日本的な経営であるＫＡ

IZEN（現場の作業者が知恵を出し合って生産性を高める運動）の導入のために研修所を設立して専門家の育成に力を入れている。

また革靴産業では、本場イタリアの技術を模倣し、安い労働力を活用して順調な成長を遂げている。アジアの新興国の経験からみれば、アフリカが経済発展で後れを取った大きな原因是、不安定な政治・社会情勢が外国技術の導入や人材育成に取り組む余裕をそぎ、優れた人材を海外に流出させたことにある。しかしながら技術や経営のノウハウを積極的に学び、産業人材の育成を急ぎ、地道に軽工業を育てる政策を展開する機運が生まれている。

日本政府は第6回TICADで人材育成の重視を最大の公約に掲げるべきだ。（二）でいう人材とは、稻をしつかり育てられる農民、収穫された野菜をマーケットで売りさばける先進的農民や商人、アパレル製品や革靴などの労働集約的な製品を世界に輸出できるような企業家である。

日本のリーダーシップの下で10年間でアフリカのコメ生産の倍増を目指す「アフリカ稻作振興のための共同体（C A R D）」では、タンザニア、ウガンダ、ガーナ、コートジボワールなどで、稻作農民にアジアのコメつくりを指導して大幅な生産性の向上を達成している。

KAIZEN研修の効果				
国名	産業	平均従業員数	経営改善効果	利潤または付加価値の増加率
ガーナ	金属加工	5.9人	あり	79%
タンザニア	アパレル	5.0	あり	70
ケニア	金属加工	7.2	あり	152

(出所) T.Sonobe and K.Otsuka, 2014, Cluster-Based Industrial Development, Springer

また、野菜などの換金作物の普及を目指す「小規模園芸農民組織強化計画（S H E P）」では、ケニアなど二十数カ国で、農民に企業家精神とマーケティングを指導して大きな成果を上げている。

筆者らはアフリカで実験的に中小企業向けに KAIZENマネジメント研修を実施した。ガーナとタンザニアでは対象となる企業を2つのグループに無作為に分けた。当然、2つのグループの平均的な特徴はうりふたつとなる。

そして片方のグループにだけ生産管理を教えて経営方法や業績に差が出れば、それを研修の効果と考えた。表に示したように、1年後の成果は歴然としている。ケニアでは希望する企業をすべて研修に受け入れたこともあり、研修の効果に参加企業のモチベーション（動機づけ）が重なって、利潤の差が大きく出た。

これらの研修は小規模に実施されているにすぎず、アフリカ経済を持続的な成長軌道に乗せる

には不十分だ。しかし日本のリーダーシップの下で研修による人材育成の重要性が広く認識されるようになれば、アフリカ経済は間違いなく離陸に近づくだろう。

そうなればインフラ投資が重要なとなる。天水に頼つてゐる農業では効率が悪いので灌漑（かんがい）が必要になるし、肥料の使用量が増えれば交通インフラが必要になつてくる。効率性が向上した企業は、インフラが整備された工業区で事業の拡張を望むようになる。大事なのは、人材育成が先行すればインフラ投資が生きてくるということだ。インフラ投資の実施だけで、ただちに産業が育成されるわけではない。

* * *

日本の技術や経営、マーケティングの知識を学んだ人材が育つてくれば、アジアでの経験と同様に、日本企業がアフリカで活動する際に不可欠な

人脈が形成されてくる。それにより、日本の民間企業によるアフリカへの直接投資が活発化するだろう。その結果、日本の国際的プレゼンスが高まるだけでなく、アフリカと日本の経済的つながりが強固になることが期待される。

そのために重要な支援とは何か、そして支援のシーケンス（順序）はどうあるべきか。これまでの研究成果に基づき、政府、民間企業、研究者がしつかりと議論していくことが肝要である。おおつか・けいじろう。48年生まれ。シンガポール博士（経済学）。専門は開発経済学

大塚 啓二郎

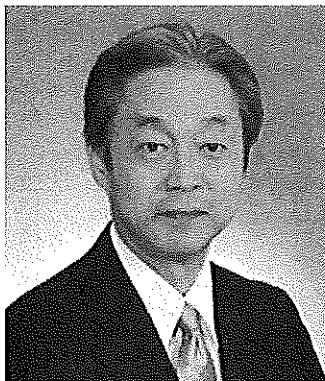
講演記録

一〇一六年の内外経済を展望する

三菱UFJ

リサーチ＆コンサルティング株式会社

研究理事 五十嵐敬喜



○井浦氏 理事長のご指名を頂いた、井浦康之といいます。株式会社井浦コミュニケーションセンターの代表をしております。専門は人材育成で、いろいろな企業、例えばアルプス電気です。アルプスの社長は二代目で、片岡政隆さんで、課長のときに僕の研修を受けています。アルパインの会長、石黒さん、この方も僕の研修を受けています。それから富士フィルムの今は会長になっている古森さん、部長のときに僕の研修を受けています。思い出すと一流企業さんの社員研修をやらせていただきいただきました。

経済のことは余り得意ではありません。人材育成ですから、人間のことならば大抵のことがわかります。簡単に言つてしまふと、あまり考えたことはないと思いますが、私たちはこの世に何のために生まれてきたのでしょうか。今、どういう生き方をしているでしょうか。何を残してあの世に行くのか、ということが僕のテー

マなのです。だから、いろいろなことがあるでしようけど、あの世に行くときに、いろいろなことがあつたけれど、僕の人生よかつたよとか、いろいろなことがあつたけど、私はわたしであります今までよかつたあとにつっこり笑つて、あの世に行ける人生を送つてほしいというのが僕の願望で、そんなことで飛び回つてているのです。

実は、あさつてアメリカへ出発します。ドルを換えてきました、ところが百二十五、六円です。四年半前はもつともらつっていました。

ずばり云いますと、五十嵐さんは安倍政権をどう思つていいのでしょうか。安倍さんに命を任せいいのかなど心配しています。政治的なことは僕は言いたくないのですが、経済のことも良くわかりませんから言いたくないです。それでも政治とか経済のことを考えたりすると、民主党はもうだめだと思います。國民から任されても、あのようなことをやつているか

ら、結局自民党しかないのでしょう。今の安倍さんに文句を言えたり、意見を出す人がいないのかと思って、安倍さんは國民のこと考えていいのかなど疑心暗鬼なのです。このままでつて安倍政権に命を任せていいいのか心配しているのです。

自分の未来は、自分で守らなければいけないでしょう。僕はそう思つてゐるのです。どんなことがあらうとも、そう思つていて、自分が幸せでない人が、どうして人を幸せにできるのですか。できるわけありません。いろんな動きがある中で、経済を見ながら、人の話を聞きながら、自分がどう生きると同時に、自分と触れ合う人たちについても、幸せにしてほしいなと思つてゐるので、残りの人生を自分なりに考えながら、人様の幸せのために頑張つてきたいと思つてゐます。今、八十七歳です。昭和二年生まれです。あと三年経てば九十才です。今までお世話になつて生きてきたので、お世話

になつた方たちに幸せになつてほしい、これは僕の夢なのです。そのために、今、ある大きなグローバルな事業を手がけております。そのためにアメリカに六回、今度七回目ですが行つて参ります。韓国にも六回行つているのです。これはある事業を個人的にたてるためにも行つています。

そんなことを見ながら、皆さんにもしつかり物を見て、今、日本の経済を見ていると、一面にいろいろなアイデアが出て奇抜に出ています。日本人は、世界では最も優秀な僕は人類だと思つていて、危険が来れば、そこにどう向かって行けば正しいか、それだけを考えやつていける国だと思つています。

ただ、問題は政治家です。失礼ですが、安倍さんは貧乏人ではありません。金持ちですから、貧乏人の気持ちはわからなりません。本当の国民の気持をちわかっているのかどうか、非常に僕は心配なのです。どんな心配事が來ても日本

は大丈夫だと思っていると同時に、僕自身は、生意氣なこと申し上げたのです。

失礼ですけど、安倍さんほど海外に行つた総理大臣はいません。手ぶらで行つているわけではありません。相当なお金を使つたりしていませんね、国民の金。数十兆円使つています。行くたびにお金を持つていくので、お土産を持つていかないと相手は迎えてくれないのでしょう。では国民はどうするのですか。僕はそう思つてます。貧乏人もいれば金持ちも知つていて、一番大事なのは自分自身だと思うのです。ぜひ皆さんもあの世に行くときににつくり笑つてあの世に行ける人生を送つていただければありがたいなと思っています。八十七歳のたわ言です。ありがとうございました。失礼しました。

○会場発言 本日は有益なお話をありがとうございました。
今、ヨーロッパの難民の問題が、イスラミッ

クステートに伴う難民の問題が、かなり深刻になつてゐると思ひます。そのインパクトが、特にEUに与える影響というは何か、どういうふうに見ているか、お聞かせください。

○五十嵐氏 私も一体どんな影響が出るのだろうか知りたいのです。ただ、パリのテロも含めて人の移動つていうのは、「人・物・金」が自由に移動するといふことが経済を発展させると考えられてきたのが、これで一気に何か不出るはずはないという感じです。だから、どちらかの悪影響が出るのかというのはちょっとわかりかねるつていうのが正直なところです。

○会場発言 ついで申しわけないですけど、ヨーロッパ、今、アメリカと、今、日本はこれからヨーロッパの現在の状況とか、今後の向かい方とかについて、何かEU 자체がこれからどうなるかっていう問題も多分あると思いますが、そのあたりをお聞かせください。

○五十嵐氏 ヨーロッパは、特にEUはギリシャの問題で随分世の中騒がせてきましたが、ギリシャの問題はとりあえず「一年間ぐらい先送り、ギリシャはこれで大丈夫ではなくて、とりあえず息を継いだだけで、二年ぐらいたつたらまた問題になります。というのは、ギリシャは経済が成長していらない国ですね。何で成長しないかというと、余りにも過激な歳出削減とか、増税というのを押しつけられてきたわけで、経済がもう成長できないのです。成長できないから財政の改善のしようもないところがあつて、そういう国に対しやらないといけないことは、借金の棒引きとか、せめて金利を払わなくていいとか、そういうことをしないといけないのですが、特にドイツなんかが絶対そんなことはしないと、突っぱねているわけですね。とりあえず息継ぎの資金を与えただけなので、二年ぐらいたつたら、まだめになるということです。一番の深刻な問題を先送りすることができ

たので、欧洲の経済自体は一番悪いところまで行っていたので、自律反発的に今、戻ってきています。明らかにそんな強いわけじやないけど、上向きになつてきました。そこへ中国の減速が非常にはつきりしてきたので、そうすると、中国向けの輸出が伸びないので、欧洲の経済の足

を引っ張りかねません。そこで今週、追加金融緩和をして、もうちょっと景気を下支えしようという、こんな感じです。だから、欧洲はそんなによくはないけど、向きは明らかに上向きです。これからももうちょっと上向いていくので、ことし、来年は心配はないでしょう。その先にまたギリシャの問題が復活しますと、そんな感じがします。

○会場発言 税理士の板橋と申します。五十嵐先生、本当に貴重な御意見、講演ありがとうございました。本当に参考になりました。

税理士としては、中小企業は本当に産業が多くて、新規開業者が少なくて我々の業界もこれ

から衰退産業と言われているのですね。そういう点で厳しくなつていいと思います。それで何とか中小企業は生き残りをかけて、それぞれ頑張っているのですけど、今のよだな経済情勢だとやっぱり今後もなかなか厳しい状態かなと思うのです。

それと話は全く別ですが、来年からよいよマイナンバー制が実施されます。アメリカとか韓国とかヨーロッパも、マイナンバー制です。要するに成り済まし犯罪が外国ではすぐ多いのです。そういう点で日本の場合は、身分証明書とかカードを発行してもらえば、總べて写真つきになるのです。そういう点で成り済ましはなかなかできにくいシステムです。外国は写真つきではないので、そういう点で日本のほうがセキュリティーは安心できます。もいざれにしても、カードを紛失とかそういう場合に気をつけないといけないと思います。

それと、相当前ですけども、グリーンカード

制が一応法律では通り、廃止になつたわけです。

そういう点で、高額所得者とか、財産がある人

はそれが今度全てマイナンバー制で預金とか

そういうのも管理されるようになるわけです。

そういう点で大口の資産家は海外に資金を流

出することも考えられます。それでは廃止かと

云つても、そうではありません。その辺の見通

しを含めて御感想いただければ存じます。

○五十嵐氏 今、伺つたお話を触発されたとい

うか、さき程も申し上げたように、日本は財政

再建をしないといけないと言われていますけ

ど、ギリシャよりも悪いのです。ギリシャは毎

年の税収で毎年の歳出を賄なつています。これ

はプライマリーバランスというのですけど、こ

れは黒字なのです。日本は大赤字なのです。こ

れを二〇二〇年までに黒字にすると言つてい

るのです。黒字にするのは税収をふやして黒字

にするということです。それはさつき御紹介し
たような感じで、経済を成長させたら税収がふ
えるから、税収があえてこの收支が黒字になる
という話ですが、それは多分難しい。
そうすると、どこかで増税をしないといけな
くなります。去年、消費税を上げてわかつたこ
とは、家計への負担がふえると、結局消費が減
つて景気が後退するということです。そうする
と、うつかり増税もできないということなので
す。景気が悪くならない増税つていうのを考え
ないといけません。場合によつては景気がよく
なる増税だと、それはないのかということです。
あります。相続税です。相続税というものは結局
使わなかつたお金です。使わなかつたお金から
税金をいただいて、それを使うのだったら景気
にプラスじゃないかということです。だから、
贈与税というのは、贈与税を軽くしたらどんど
ん贈与されるかというと、そうでもないのじや
ないかと思うのです。私の友人の夫妻が、同じ
年代なのだけれど、友人の夫妻が二人で毎週実
家を訪問しているというのです。お父さん亡く

なつてお母さんだけなのです。毎週実家を訪問するというから何でと聞いたら、やっぱりそうしないともらえるものもらえないというのです。

「……」とは、このお母さんは、子供に贈与してしまつたら、もう子供が来なくなるわけですね。そう思つたら死ぬまで絶対贈与しないということなのです。贈与税率を幾ら下げても多分贈与というのはそつは進まないと想ひます。あるいは先行き不安で、お金を残している人にそこから税金を取るぞなんて云うのも、これも非常に酷な話になります。そこで、相続税といふのは結局使わなかつたお金にかけるものでしよう。使わなかつたお金がらいただきますよと云うことになると、決して景気に悪い影響は出ないし、むしろ景気にとっていいかもしけないという意味で、相続税が強化される意味があります。今だつて少し強化されていきますけど、もつと強化される可能性があります。そのとき

にいっぱい残す人から突然的に取るというのはやっぱり問題なので、もつと幅広く取る、百円残す人からも十万円いたたくとか、そんな感じで幅広く取ると、実は毎年数兆円の規模で安定した税収が入つてくると、そういうようなことがそのうち行われるのではないか、今すぐではありませんけど、そのときにマイナンバーがやつぱり物を言うのではないかと思ひます。

特に重要なのは、所得もざることながら資産です。所得はほとんどないけど、資産をいっぱい持つてゐるという人がいますね。だから、そういう資産をちゃんとマイナンバーで把握するというようなこと、それはなかなか難しいのです。しかし資産を動かすときにはマイナンバーがないと動かせない、というように厳しくやると、だんだん資産が表に出てくるのではないかなという気がします。いずれ背に腹はかえられないという形で、日本はそつちへ行くのではないかなという気がします。

○会場発言 もとに戻るようですが、先生は安倍政権をどう思つているか、それを聞きたいのです。もう一つ、国民に一齊にしないで、まず政治家たちのマイナンバーをやつてみて、そこを洗い出した方が増税する必要がないのではないかと思います。

○五十嵐氏 安倍政権をどう思つているかということがら申し上げますと、私は自民党にかわる政党はないのは事実だと思ひます。自民党にやつてもらつとして、安倍さんにかわる誰か画期的な人がいるかといふとやつぱりいないということです。だから、安倍さんにやつてもらうしかないと。消極的選択ですね。でも、我が家においては安倍さんはけちよんけちよんです。私は、経済政策について文句を言つているし、家内は、あの安保法制でもうダメだと。原発という言葉を口にした途端に、もうレッドカードですよ。そういう意味で安倍さんを支持しているかといふと、なかなか支持できないの

ですが、でもほかにいないから、仕方がないかな、安倍さん頑張つてねという、そういうことでしょう。安倍さんの「」がおかしいぢやないかと、いうことは機会があれば言うにしても、でもしょせん犬の遠ぼえみたいなところがありますので、それはだめなのですから、そういう意味で消極的支持というのですかね、そんな感じです。

○五十嵐氏 マイナンバーというのは、お気持ちはよくわかりますが、でも政治家以外にも結構悪いのはいるつていう感じはします。だから、そういう意味では広く国民にとってだめなことを言うというか、例えばマイナンバーでこんなに個人情報が出ていくとか、ちょっとネガティブなことを言つて、反対する声が強過ぎるような気がするのです。しかし、マイナンバーがあつてこそできることがいっぱいあるわけです。私はそういうマイナス面をできるだけ克服しながら普及していく、できるだけマイナン

バーでカバーするものを広げていく必要があるのではないかなど思います。

○会場発言 本日は五十嵐先生、貴重なお話をどうぞいました。

為替のことでお伺いいたします。アメリカ・ドル、あとユーロの円に対しても、日本は緩和を継続し、もしかすると今後拡大があるかもしれない。アメリカは逆に景気がいいということでも金利を引き上げる。私は相対する政策の違いから、どちらかというとドルが高くなっています。本当に景気がよくないではないかと思います。本当に景気がよくて、中身のいい状態での金利の引き上げだったたら、もしかすると来年末には結構また百二十五円とか、百二十円とか、考えていたのですが、先生のお考えは如何でしょうか。

○五十嵐氏 最初にお断りするみたいですが、私が半年、一年先の為替レートを予測して今まで一度も当たつたことがないということです。そこで、そこまではやっぱり行かないと思いま

す。アメリカで利上げするということはドル高の理由になります。でもさつきグラフで見ていたいたように、まだ上げてないのにQE3が終わる少し前から、二割もドル高になっているのはなぜかと云つたら、アメリカで利上げがよいよ行われることを織り込む形で、利上げならドル高だ、ドル高になるのだつたらな前に買っておくということが、ここまでドルを押し上げてきたわけです。そうした予測は実はドル高の、一段のドル高の理由にはならないと思います。でもすぐ反論があるので、将来下げる余地をつくるために上げるのだったら、○二・五上げたら十分か、そんなことはないと。最低一%、できれば一%ぐらい上げておかないと下げ余地なんかないのではないか。

ということは、これは上げのスタートなのだから一回や二回の利上げは織り込まれているかもしれないけど、三回、四回の利上げは織り込まれてないだろうと。そうしたら、いよいよ

始まつたと云うのだったら、その先の利上げを織り込む形で、もつとドル高にいつてもいいのではないかと、こういう反論もあって、それももつともだと思うのです。でも私がそこで思うのは、さつきちよつと申し上げたドル高の悪影響が出来始めているということです。そうすると、アメリカの景気が悪くなる、特にアメリカの製造業にブレーキがかかるようなドル高というのは、やっぱりアメリカも困ることではないかと思います。

一方で、日本は、これは私の臆測ですが、日銀の黒田さんが二%の物価上昇を約束したのにできてないのだったら追加緩和すべきだろうという声に対し、とりあえず必要ないと言つてているのは、あれはできないからではないかと思うのです。つまり政権から、もうこれ以上円安になるような追加緩和はあまり望ましくないというような無言の圧力が来てるのではないか。というのはさつき申し上げたように、

物価が上がっているのは何かというと、例えば食料品が上がっているというのは、今や年金收入だけで、収入はふえないにもかかわらず、どうしても買わないといけないような食料品が値上がりしているわけです。この人たちは一番投票所に行ってくれる人たちですね。そういう人たちが困るような、これ以上の円安はやっぱり票に響くから政治家としては困るというふうに思うと、日本も一度は百二十五円まで行きましたが、そこが限度で、黒田さんも普通に考えたらこれ以上の円安は考えにくいたいなこともおっしゃつたのが、ちょうどそのあたりですから、日本もアメリカも取あえず次のアメリカの利上げで百二十五円ぐらいまで行くかもしれないけども、そこから先は色々な経済的変化にかかっています。アメリカの景気がちょっと、おじぎしてきたなどか、日本はもう無理だと、これ以上の追加緩和は無理だし、物価上昇もやるやると言つたけど、結局無理だよなど

いうことになると、今までと逆の円高に行くと
いう可能性もあるのかなということで、とりあ
えずこれから一年ぐらいを展望しても上限は
いいところ、百二十五円だと。逆に下に割るよ
うなことも十分考えられるのではないかなど
いうのが一応私の見方ですが、当たつたことは
ないので。

○会場発言 前回先生のお話をお聞きした後、
私は人間というのは文化で生きているのであ
りて、経済で生きているわけじゃないのだから、
例えばそういう意味で文化と経済との関係と
いいますかね、先生の御意見をいただきたいみ
たいなことを最後に御質問した覚えがありま
す。それに絡んで、先ほど安倍政権に対し消
極的支持というお話をされました、弁護士と
して感じたことで、今度の安保法制との関係の
中で世間に言われているような問題以上に大
きな問題があるのではないかと。というのは、
安倍さんはああいうことをやることによつて

学問とか研究とか、それから経済学とか法
律学とか、そういうことに關する秩序を全部
壊してしまつたのではないかという気がする
のです。

例えば法律の世界でいいますと、憲法が最擅
上位にある法の支配という中で、みんな裁判官
とか、弁護士もそういう中で活動しているわけ
ですけど、彼はもうそんなものではないよと、
もつと従うべきものがあるのだと、憲法ではな
くて。それが現実だみたいなことをいつている
のです。現実の世界をいうと、そんな憲法なん
て言つていられないのだということで、言つて
みれば憲法とか法の支配、あるいは法の学問体
系みたいなことを壊してしまつた、という気が
して各裁判官でももう嫌になつてゐるのではないかなど、自分の仕事をするについて思つて
います。弁護士なんかも、例えば裁判官が判決
するときに、当然憲法を前提として書くわけで
すが、その憲法の価値がどーんと下げられてし

まつたわけですね。そのときにでは、何に依拠して書けばいいか、わからないのですね。当然裁判官だつて出世したいというのか、皆さんから受ける判決を書きたいというように考えるわけですから、そのときにどうしても、そういう考え方みたいなことに沿つたような方向にしてしまうという、どうしても人間のさがみたいな話があるのだろうと思うのです。そういう意味で裁判官のやる気をそいでしまったみたいなどころがあつて悩んでいます。

一方、経済の世界でも多分そうだと思うのですが、経済学者としての先生の立場みたいなことは、従来いろいろお聞きしていると非常に正当な経済学だらうといふように思つておるのですが、そういう正当な経済学をさえどもか壊されていいるところがあるのではないかと。経済学者の中に安倍さんのやつていることはアホノミクスとか、ドアホノミクスだという人もいます。そちらのほうがむしろ経済学者としては正

当ではないかというようなことを考えたときに、多分五十嵐先生でももうあんまり物が言えなくなつてしまふみたいなどころがあるような気がするのです。一種、表現の自由だとか学問の自由だとかそういうことまで侵食して、そんなところまるで入り込んでしまつたという気がして、そういう意味でも危機だという気がします。そんな意味では先生が経済学者といいかが思われるかということをお話しいただければと思います。

○五十嵐氏 ありがとうございます。私は経済学者ではなくて、三十数年銀行に勤めていた銀行員なので、銀行の実務から、実務者から見て、例えば安倍さんが指示し、黒田さんが実行しているような政策は全くの間違いだと思つているのです。今の量的金融緩和政策をさらにどんどん進めたつて何にも変わらないといふか、目指す物価上昇にならないどころか、そのうち大きな副作用が出てくるとていうのが実務者の

見方なのです。そういうことをエコノミストの一人として言つても、おつしやるようだ、だんだん居心地が悪くなつてきていることは確かにあります。私は、三菱グループの中の銀行の子会社のエコノミストなのです。そういう意味では例えば日経新聞が景気討論会を開きます、大手町でやるつていつたらそろそろたる人たちを呼ぶわけです。ペニリストとして。そのときに私がどうのこうのというよりは、私は三菱グループのエコノミストなわけです。だから、その肩書からしたら呼んでしかるべきなのです。でも一度も呼ばれたことがないのです。それは私がアベノミクスなんか駄目だとか、法人税の減税なんかしなくていいとか、そういうことをテレビでも言つたりするのをしつかり聞いている人がいて、呼んでくれないのかなど。

というのは、国会に呼ばれて証言したことがあります、それはどういうときだったかといつたら、消費税を上げるときに、安倍さんは先

送りしましたけど、先送りすべきではないという意見を持った人を呼んで、国会で証言されたというときに、これは民主党の人から呼ばれたのですけど、でも呼びに来たのは財務省の課長でした。何で私を呼んだですか、私が消費税の先送りなどすべきではないという意見を持つてあるからですかと言つたら、そうですと言つてましたので、私がどんなことを言つてるか、どんな意見を持つているかということはちゃんと見ている人がいるのです。ちゃんと見ている人は、たまに呼ぶときは都合がいいと呼ぶのだけど、普通に意見述べさせるような場には呼んでくれない。だから、三菱のエコノミストをやつてているのに政府の何とか委員会の委員だとかいうのにも一切呼ばれていない。これはサラリーマンとしてはもうちょっとと言うことを変えて政権が喜ぶようなことを言つたらもつと呼ばれるのかなと思いますけども、もう残念ながら定年も迎えてしまつたので、ちよつと

遅きに失したかなという感じです。

○・・ それでね、やっぱり自分の信念に生きる、ことですよ。後悔いがないですから。そこは国民がちゃんと見ていて、先生の評価と、歴史が証明してくれます。

○さき程、安倍さんに対する冷静な見方をされた意見がありました。私も一部にそういったところがありまして、例えば安保法案審議の問題についても、色々と国会で有識者を詠んで意見を聞いたりしています。色々な意見が合つて当然です。そうした時に、仮に自分と反対な意見を出されたにしても、一国に指導者にはそれを受け止める雅量が必要です。あれはうかつにも反対意見を述べた憲法学者が三人もそろつてしまい、これは大変だと、後、責任の追及で内部では大変でしたね。しかし人には天命があつて、悪いことはできないのです。安倍さんはそれを知つていて如何に言論の自由が大切か、自分で感じているでしょう。

言論の自由と創意工夫が新しい科学技術を生み、それが成長経済に繋がっていること、これがアベノミクスの起爆剤です。其ばかりではなく、それは安倍政権に限つたことではありません。人類のこれから重要な進歩と発展の原動力なのです。これは自由主義者の常識ですし、百も承知です。

勿論安倍さんにも焦りがあります。経済の回復が思うように達成されていないということ、これは黒田さんと同じです。掲げた物価上昇率の二パーセントがなかなか目に見えて来ません。安倍さんが掲げる一億総活躍社会、これを見ても、それから今のマイナンバー制度も、国民を捕捉するうえで効率的に見てはいいかもしれません、世の中の傾向としては好ましいものではありません。何しろ人間一人一人のこの人間的な価値観という存在を否定して、物理的に処理しようと云うわけです。

井浦先生は戦争体験者でいらっしゃるから、

当時の一億総何とかって聞きますと、一億総玉砕とかね、そういういた思想的な、右傾的で全体主義的な傾向が強い人間だと、人物だというふうにまず僕はレッテルを張つて、それをいかに国民が一つ一つ監視の目を怠らずに彼を指導していくか、それは国民の力です。今のところ彼以外に政権を担当する能力を持つた人間がないわけです。だから、それは現実的であつて、事実として容認して、しかば将来そういつたミスの過ちを一度と犯すことのないようなシステムを作らなければなりません。今、そういうグローバルで世界秩序を維持して行こうとする勢力の台頭があります。ロシア、中国も含めてそうした認識が出てきているのが現実です。一国だけで軍事力を誇示していて、やつていこうという理論は成立し得ないものがあると思うのですね。そういうたどこから見ると、安倍さんも少し、安保審議で無駄な力を削がないようにしてもらいたいと思うのです。国

内的にも独走しないで、独善的な権力主義的な利己的なものに走らないでやつていつてほしいというのが私の常々感じてるところです。

いろいろなところでちょっととした雑文を書いておりますが、そういうことを随所に勇気を持って書くよう努めているところなのです。それが國益につながるものだというふうに思つてゐるものですから、公正な冷静な見方をして、どちらかというと日本人は、感情的に走りやすい性格を持つてゐますので、ヒトラーや東条みたいな怪物があらわれないよう、極端な国粹主義に走るのが一番危険です。政権担当当时は岸信介なども妖怪と言われたくらいです。しかし賢明で、冷静な安倍さんがそういう因子をおじいさんから継承していくことはないでしよう。彼自身は既に、岸信介を越えて、それ以上に現代に生きる大政治家として成長しています。だから、余り遠慮しないで物をしゃべる。物言わざるは腹膨れるわざなりとい

うのは、兼好法師の「徒然草」にもあります。やはりわだかまりがなく、国民一人一人が自由な発言を許せるような社会、これが大事ではないかなと思っているのです。だから、僕は一億総活躍社会について、理念としても理想としても余り好きでありません。全体主義的です。もつと他の言い回しがあると思うのです。働け、働け、行け行けどんどんで号令一下、まるでかつての軍国主義一色の日本の状況を思い起こします。戦争当時は日本も暗黒時代でした。戦後七〇年、当時を体験した人はだんだん少なくなってきた。言論統制と密告主義の横行、憲兵の横暴と恐怖政治。今のどこかの国と同じです。あの時は、一億総玉碎でした。軍の発想と命令です。死ぬのが分かっていても、死ぬまで戦うことでした。そして三五〇万人からの青年たちを初め、多くの民衆が戦争の犠牲になりました。近時に至り、経済大国にのし上がった中国の脅威もありますが、以前のようにはしゃ

いだものとはならないでしょう。十三億からの国民を率いて行くことは、一面において民主主義を掲げていたら、統率がとれず分裂状態かもしれません。日本と同じように中国にしても平和な世界を背景に経済大国に成長することは出来たのです。戦争と破壊と混乱の世の中にあって、経済成長と発展を実現することはできません。國家権力を振り回す指導者の出現を阻止する努力が必要です。北朝鮮の方が脅威です。一党独裁、恐怖政治を敷いて、国民を思うよう勝手に操つて、何を仕でかすかわかりません。軍事優先、口封じ、暴走が危険です。……○・・井浦先生、同感ですね。 続く

定期講演会・講演記録

質疑応答

○質問　今日は貴重なお話をいただきましてありがとうございました。

二十年ぐらい前に北京に行つたことがあります。そのころは空港から高速道路まで夜は真っ暗でした。ホテルに泊まつても周りは真っ暗で、朝になつたら煙がもうもうとたつていて、全部石炭の煙です。道にはロバが歩いているという状況だったのです。中国はまだまだ貧しいなと思つていたのですが、あつという間に日本がGDPで抜かされて、今は日本の二倍ぐらいあります。でも、ニュースを見る限り、パキスタンのほうの港を買つたとか、ギリシャのほうの港を買つたとか、臺灣に運河を掘るとか、すごい遠大な世界戦略を中国は考へているという話ばかり聞きます。

日本はアメリカに守つてもらつといつても、中国の方がアメリカよりも強くなつてしまつたら守つたら、中国を牽制すればいいのです。中国に対

てもういようがありません……。そうすると周りの国がA.I.I.Bとかで中国に、昔の朝貢国みたいな形で、中国の覇権の下にみんなが集うような形になつてくるのではないかと思っていましたが。ただ、そこで思うのが、韓国とか、もともと朝貢国だったような国は中国の覇権の下にいてもいいのかもしれません、日本は一度中国を侵略しているので、どこかで中国に恨まれているのではないかと。中国にしてみたら、一回日本に侵略されたのだから、仕返ししたつて構わないといふべく怖く思つうところです。どこかで中国は一回日本に復讐したいのだという気持ちがあるのではないか、最近どんどん中国が強くなつていくにしたがつて怖いと思つてしまつところですが、そのあたり先生のお考へとしてはいかがでしようか。

○講師

確かに、中国と云う国は人に対して態度が違うのです。だから中国に怖い態度をとらせようと思ったら、中国を牽制すればいいのです。中国に対

して牽制するといふことは物すごく怒つてどんどん強気の強硬の姿勢になります。

動物でもそうですね。犬をきやんきやん鳴かせようと思つたら、牽制すればわんわんわんと鳴きまね。逆に、おいでおいで、かわいいかわいいとなでてやると、べろべろするんです。

生き物も含めて大体がそういうのでしようけど、実は中国もそうです。だから牽制するとむきになつて怒つてきます。特に、メントを潰したときの一番怒るのです。中国にとつてメントというの大変重要なのです。中国のメントを立てておだてるといふ豚でもいいから木に登ると。本当に登るのです。

こゝにもし中国の方がいらしたら、「めんなさい。中国に對してやるべき」と一一番賢い方法はおだてる」とです。あなたはすばらしい、あなたは立派だ、おだてるといふに登つて何でもやつてくれるので。お前、やり過ぎだぞ、ばかとか言つてばかりとやると、何だ、このやつと言つて怒つ

てくるわけです。もともとそういうなのです。

朝貢というお話がありましたが、朝貢外交といふのは、朝鮮半島なんかは王様まで全部握らせていて、皇帝の許可がないと王様になれないのです。日本ぐらいになるとそういうじやない。独立していますから、関係なく天皇陛下はずつとかわるわけです。どうするかといふと、朝貢というのは昔から、こつちから何か貢物を持っていくと十倍返すのです。中国側はそれに対し。十倍返して初めて彼らの権威が保てるのです。そういう思想なのです。だからといって我々は絶対朝貢する必要ないのですが、これを商売で考えたときに、一個あげたら十個くれると言つたら、みんな持つていつて、はい、十個ちょうどいともらつたほうがいいわけです。

今はみんな主権国家です。それぞれみんな一国としてちゃんと主権を持つた国家ですから、朝貢国になることはあり得ません。ただ、中国をうまくすぐらうと思つたら、向こうをうまくおだて

上げて、ちょっとでも何かしてあげると、向こうは十倍になつて返してあげなければまずいなど思う、そういうところがあります。これは中華思想のいやらしいところもあり、利用しやすいところもあるのです。ですから、うまく付き合つことなのです。うまくやれば中国は怖くはありません。大みたいなものです。大というか、猛犬でも、かわいいかわいいとしてやれば、手なすいで尻尾を振つてくれるのです。ぽかつとやると、わんわんわんと吠えるわけです。そういうところがあるのです。

中国人というのは友達を物すごく大切にするのです。一たん友達になつたらとこどん信じるのであります。逆に、他人となつたら徹底的に突き放すわけです。だから、信頼関係を築いて、友達になつて、それで褒められたら、何でもやってくれてしまうかもしれません。そのかわり決して裏切らないことです。裏切るというのも、むちやくちやな約束をしてはだめですが、少なくとも信義をしつかり

とわきまえて、相手のメンツを傷つけない。これだけ考えてやつたら、大体うまくいくのです。ただ、このメンツというのが物すごくわかりにくくて、日本ではない感覚なので、ついつい我々も相手のメンツを傷つけてしまうのです。私も随分やつてしましました。気がつかないとこでメンツを潰すのです。これは本当に一番気をつけるべきことなのです。

そういう意味では、中国に関する情報をもつともっと本当はしっかりと研究する必要があります。各企業、皆さんはやつてらっしゃると思うのです。私は、むしろ企業よりも、日本政府にもうちょっと中国研究をやってほしいと思っているのです。侵略したところはしつかりとした特務機関がいたわけです。その特務機関では、中国人というのはどうやつて動かしたらいいかというのを徹底的に研究していたわけです。彼らは、いろいろな戦争が起きて、軍団士がぶつかつたりしても、それをうまく仲裁して入つたり、中国人をうまくなだめた

りすることができる、そういうことができる物す
べノウハウを持つていたのです。それは徹底的
に中国人を研究して、味方をたくさんつくりて、
できるだけ敵を追い込んだり情報をとったり、そ
ういうことをやっていたわけです。

いかにして中国人を怒らせずに、うまくこちら
になびかせるかという研究を実は今やっています
ません。やつてこるところがほとんどないのです。
企業はやつているのです。成功している企業はみ
んなやつているのです。けれども、我が政府は余
りやつておりません。いつも中国のメンツを傷つけたり頭を叩くようなことばかりやるのです。それで、またきやんきやん吠えるわけです。その悪循環なのです。もうすこし賢く振る舞つたら使い手があるのです。これだけでかくして資源もあつて、我々のために相互関係にありま
すから、利用しがいのある相手なので、うまくつき合つたら、もっとおいしい汁を我々は吸えるのだらうなと思うのです。さきほど言いましたよう

に、どうせあと十年です。今の体制はあと十年で終わりなのだから、この十年頭を下げておけばあとは知つたものではありませんと。そう言つてはいのませんね。十年後もおつき合いしたほうがいいんですが、今が大切なのです。だから、今は余りけんかしないほうがいいですね。

質問 私は歴史や文化をいろいろ研究している財団の仕事をしながら、昭和経済会の理事を務めています。きょう伺つた今の中中国とは、そういうものだいうお話は、中国との共同研究の学者さんたちの中で、本当に一つずつ当てはまるお話があつて、例えば、表向きの所得は十万円以下で、中国の国立大学の教授の最初の助教ぐらいですと一万八千円というのを去年聞きました。それでながら、先生たちは大変研究活動にも資金を苦労することなく世界中を動いていらっしゃるのは、なるほど、いろいろ所得申告にはそういう方法があるのでというのを伺えて、来月、同じメンバーがまた来日するのですが、これはいろいろ観察が

いがあるなど楽しく思っています。ただ、彼らは東アジアの文化交流や思想史を主に専門にしている人たちで、中国の内部に持つてある多民族性のことや、いろいろな今の社会主义の問題については、非常に批判的です。それは自分としては表に出せないから、日本に来たときに彼らが言うのは、自分の子供たちはみんなアメリカとかイギリスとか日本に留学させているということです。そういう形を使いながら、裏得で得たものを自由社会にプールさせて、いずれ自分がリタイアしたら、魚釣りしながら、レンジローバーに乗って暮らすんだとか言いながら、日本で私の研究を手伝ってくれています。先生のおっしゃる、十年ぐらいで今の中国というのは新たな問題を抱えて、変容していくしかなければならないのではないかということの中で、逆に、私の中で思いますのは、日本の人口減少が顕在化して、労働者人口が非常に減るものですから、どちらが我慢し続けるのだろうかといふのが、日本の未来像も不透明感があり、なつて

みたときのお楽しみと言われますと、私も、自分の高齢時代が大丈夫かということで、今、非常に不安に思います。

ことしの九月に、欧洲の日本研究をしている研究者の学会に招かれておりますが、その学会のテーマが「日本研究のバリア」というものです。日本人は既に国際社会の一員となつて、国際社会できちつと理解されている國だという認識を持ちがちですが、彼らから見ると、一番わかりにくい、一番當てにならない國というのが本当のようです。私の友人の研究者から聞かれましたのは、今、アメリカの大学では、日本研究をしているセクションの予算カットと、閉鎖が相次いでいるようです。魅力に欠けてきている証拠だとも思ひます。そのうち、十年しないうちに日本を研究する大学はなくなるよと言われております。その辺を含めて、中国という大国の隣りの小さな島国で、日本はどうにこれから考えていいたらいいのか、先生の御意見を伺いたいと思います。

○講師

私も同じような悩みを抱えております。アメリカ人で中国を研究している人は物すごく多いのですが、今、日本研究者が本当に減つてしまつて、それがまずいことに、アメリカで日本に顔を向けている人、ジャパンハンンドラーと言つてゐる人たち、こういう人たちの意見がアメリカの意見だと日本に伝わつてゐることなのです。日本には残念ながら、中国に顔を向けているアメリカ人の気持ちが全く伝わつてないことです。日本の外務省ももう少し頑張つてほしいのですが、いわゆるジャパンハンドラーの人たちとばかりつき合つてゐると、アメリカが、日本はこうしてほしい、こうやつてほしいという都合のいいところはしつかりと伝わつてくるのですが、アメリカの全体、あるいはオバマ政権とか、民主党政権も特にそうですが、中国に向いてゐる人が多いのですが、何を考えているかが伝わつてこないです。残念ながら、報道でも伝わつてこないことです。

私がいろんなアメリカ人に對して、日米同盟を強化して、もう少し中国を牽制するということが必要です。よねということを言うと、君、もし何かあっても、俺たち中国の味方しちゃうからね、なんていうことをアメリカ人が平氣で言うわけです。えー、といつて驚いてしまう始末です。アメリカ人が、日本人よりも中国人に對して強い興味を持つてゐる、彼らにしてみれば、そっちが儲けられると思つてゐるわけです。日本から絞りとれるものはもう絞つてとつちやつたど、TPPで少しまたとれるかも知れなけれども、もつとおいしいものが中国にあると思つたら、日本人なんかどうでもいいやと思つちゃうところがあるのかもしれません。それは本当に残念なことです。

もう一つ、これは私の反省でもあります。マスコミが世界の対日感情を正確に伝えてない。日本の社会で一番嫌われるのは、自己中とKY、その空氣を読めない人。ところが、世界の中では日本は自己中でKYだと思われてゐるのです、実は。

「これはすゞしく大変なことなのです。私たちが一番嫌いな自己中とKVYというのが、世界が見る日本の姿で、これはちょっと心配です。

「そういうことを言つていいのかどうかわからぬのですが、世界の人たちはもつと冷めて日本を見ているのです。日本は、自分たちは先進国であり、アジアの中の唯一発展した国であり、G7の一員であり、先進国と同じだという立場で自分たちを考えるのです。けれども、彼らはそう思つてないです。むしろ、今おっしゃられたように、これから先は中国だ、その後はインドだ、そういうふうであって、日本はだんだん忘れられてきている。しかも、何か知らないけれども、日本つてやっぱり自己中だよねと思われるのです。

「どうしてそんなことを思われるのか」というと、日本のニュースを見ていても国内のことばかりやつっている。まるで瓦版みたい。どこかの村の瓦版みたいと。日本人は、アフリカとか中東とか、そういうところいろいろなことが起きている」

「とにかく全然関心を持たないし、世界じゅうで何が起きているかもわからないし、世界じゅうの中の自分たちの地位についても余り考えてないと思われているのです。これは、もつともつとそういうものを伝えなくちゃいけないのかもしれないし、我々にとつてはもうちょっと耳に痛いような情報を伝えるのですが、日本はこんなに嫌われているというのですか、日本はこんなに嫌われているという情報を伝えなくてはいけないのかもしれないのですが。最近はそういうことをするとまた自虐的だとか何だとかという話になるので、自虐的にならない方向に、自分たちを余りおとしめないよう、日本はこんなに立派だなんていうことをやつてゐるわけです。

NHKでもそうですが、昔はよく中国に行つたのです。中国に取材に行きました。そうすると、中国の汚い農村が出てきて、そこでこんなことをしています、あんなことをしていますと、日本人たちはみんな大喜びです。わー、我々よりもおくれている。こんなすごいところがある。最近、

余り中国に行かなくなつたのです。立派になつちやつた。結構きれいな格好をしてやるから。じゃ、どこへ行くかといったら、よし、アフリカだつて、今、アフリカに行く人も多いのです。アフリカで取材して、アフリカはこんな汚いところに住んでいます、大変ですねなどとてやつてているわけです。こういう番組をつくつて喜んでいるようじやだめなのです。「クールジャパン」なんていう番組があるのですが、どういう番組かつて御存じかもしませんが、日本に住んでいる外国人、アメリカ人とかイギリス人とかフランス人がいて、日本のクールなどころをみんな見て回るのです。いろんな討論をして、いかに日本がすばらしいかというのを彼らに言わせるのです。それで、最後に、わし、日本はクールですね、いいですねと言つて終わるのです。

これを見た外国人はどう思うか。何という番組だと。こんなに日本人つてあほなのかと思うわけです。それはそうでしょうね。彼らから見たら、

アメリカ人の代表みたいなのが日本へ行つて何かやらされているなということしか思わないし、自分たちのいいところばかり宣伝していく、全然わかつてないのじやない?という感じなのです。でも、実は、「クールジャパン」というのは国際放送の番組なのです。外国人に見せるよりは日本人に見せたほうがうれしいのす。日本人は大好きです。わし、外国人がこんな褒めてくれる。最近、民放でもやつています。

外国の駅長とかがやつてきて、それで、日本の駅を見て回るのですが、ヨーロッパの駅長とかが出たりして、おー、こんなに日本はすばらしい工夫をしているとか、あるいはまたヨーロッパの医者とかが来て、日本の病院はこんなにすばらしいとか感想を述べています。こういう番組をやつていると、日本人はみんな喜んで見るわけです。日本人は世界中から褒められて褒められてなくてしようがないのです。でも、そういうので自分たちが本当の今の立場にあるかと思つたら、全然違

うわけで、我々がいかにして逆に出ていくアピールしなくちゃいけないか。留学生もどんどんアメリカ人は減っています。日本からアメリカに行っている留学生が激減しているのです。中国人ばかりです。アメリカの大学の中では日本人が隅つこのほうにちょこちょこといるだけで、あとはみんな中国人で、わーわ、わーわやつていて。そういう状況になっているのです。

アメリカ人の留学生というのはほとんど中国に行つちやうのです。最近でもみんなびっくりしましたが、フェイスブックのCEOが北京に行って講演をやつたのです。アメリカ人ですから、どんな講演をするのだろうとみんなで興味を持つて聞いていたら、なんとフェイスブックのCEOが中国語で講演しちゃつたのです。これはみんなびっくりしちやつて、えつ、何だと。彼は中国語がペラペラできちやつたのかと。他にまだたくさんいるのです。ガイドナーさんも中国語ができるし、アメリカ人の中で中国語がべらべらな人が「」

ろ出できちゃつているのです。

昔は、日米中でシンポジウムみたいなものをやると、大体みんな英語でやつていたのです。ところが、最近は、アメリカの発言者、学者、若手の学者は中国語でしゃべる連中がいるのです。これはやっぱり時代の変化というものを感じまして、もつと我々はアピールしなきやだめだよねということになります。

日本でも日本人が一億以上いるわけです。一億人口がいる国、一億三千万ですか、いる国ってそんなにないわけですから、まだまだ大きな国なのです。隣にたまたま十三億とか十四億いるから、比較すれば小さいけれども、でも、世界の中では大きいわけですから、それなりの存在感というものが見せなくてはいけないし、そのためには、まず国際的な自己中と国際的なKYにならないようにしようと。まず国際的な空気を読もうよねと、それから、国際的に自己中になつていると思われる

「じんな」と言つてゐるかといふと、皆さん、恐らく「反対される」とあるかもしませんが、ちょっとと傷ついたら、「めんなさい」ですが、例えば、核拡散防止条約のNPTの会議で、日本は今回、広島、長崎に世界の主要国のリーダーが来るよう求めめるという言葉を一文決議文に入れさせようと無理やりやつたわけです。日本は唯一の被爆国だから、世界のリーダーは来るべきだ」ということを入れさせようといました。これは当然、日本の立場としては、原子爆弾というのは絶対だめだ、核は絶対廃絶なのだから、みんな長崎と広島へ行つてもらうように決議に入れなさいよと強く申し入れました。これはわかるのです。でも、世界の人たちは、広島、長崎に対してもう見ていいか。日本が戦争を起したから、その結果やられてしまつたのだと。パールハーバーをやらなかつたらやられなかつたのだというのです。そういう見方しかしないわけです。もし世界の人たちが、NPTの条約の中に、広島、長崎に行きなさいという

ことを、日本が主張して入れるのだったら、その前に、日本の総理大臣なり天皇陛下がパールハーバーへ行つたり南京に行つたり、それをやることが先ではないか?というのが、彼らの一般的な認識なのです。それを忘れて、そういうことだけ入れましょとやつたりするところに国際的に違和感を生じさせているのです。今回、何とか通りましたが、世界文化遺産の推薦と指定などについても、あれで明治維新とかやつたら韓国がきやんきやん言いましたね。韓国だけじゃなくて、実は、中国もおもしろくないのです。

八幡製鉄所も入つています。八幡製鉄所というのは、日本が日清戦争で分捕つた金でつくれたものです。そういうところを世界遺産にしたりするでしょう?世界遺産にするときには、きやんきやん言うから、しようがない、じゃあ、負の歴史の部も書きましょうということで妥協するわけです。何のための世界遺産なのかわからなくなつてきます。ここはかつて朝鮮半島から強制徴用した人が來た

ところで、確かに負の遺産で、そんなものわざわざ張り出さなかつたら世界遺産にならないなんてばかなことないぢやないですか。そんなことをするのだつたら世界遺産なんかするなよなど云うことになるのです。日本の国宝にしたらしいのではとすら思うわけです。

そういうことになることがわからずに出してしまつて、言われてから大変だ、じやあ、しようがないから手を打とうと言つて、そんなことにして決めてしまうのですが、しかしこれはある意味で失敗なのです。そんなことを言われるぐらいだったらやらなかつたほうがよかつたのです。みんなそこに張り出さなければいけないのです。ここは何とかで強制徵用だつて書かされてしまうのです。こういうのが、世界的に見ると自分中心になつて考へているから、相手から何かわからないままでてしまつて、どこかからびしやつと打たれるということなのです。だから、何かやるときには、どういう反対が、リアクションとしてあるかを全

部わかつた上で、来たらばこう対応する、そこをうまく抜けられる自信があつたら突つ走る、しあくしだめだつたら、逆に変なことはしないほうがいいねということなのです。だから、まさにKY、空気が読めない、国際的な空気が読めない、あるいは、自己中と言われないようになつていく必要があるなという感じがしてなりません。

最後にもう一つ、中国を見るために物すごく重要なことです。私たちは、どうしても、中国の政権というのは、習近平というものがトップにいて、それで、あの人だけが一人で頑張つて見えております。伝えられておりますし、そういうようになつてゐる。しかし、現実は習近平というのはそんなに強い人ではないのです。

四人組というのがいるのです。必ず政策決定には四人の人間が、中国の中心部で会議を開いて決めていきます。その四人組というのは、実は、一人が胡錦濤 前任者です。それから習近平、李克強、

そして王岐山、この四人です。王岐山と習近平というものは物すごく仲がいいのです。李克強とは仲が悪いのです。李克強と習近平というものは仲が悪くて、しそつちゅうけんかばかりしている。李克強は全然自分が習近平に負けたと思つていないのです。自分のほうが上だと思つているのです、今でもそう思つてゐるのです。それを間に入つて胡錦濤が、おまえたち仲よくしなさいとやつてゐるわけです。実はそういう状況があつて、だから時々、李克強さんなどが弾き飛ばされて遠くにいると思つてゐる人もいるのですが、全然違うのです。そこだけは内緒の話としてお伝えしておきます。もしどこかで、何か変だなと思つたときには、習近平の周りに胡錦濤と李克強がいるぞといふことも、ちょっと覚えておいていただければ参考になると思います。

○税理士をしています。僭越ではありますが、御指名でござりますので、閉会の挨拶をさせていただきます。先生、今日は中身の濃い、おもしろ

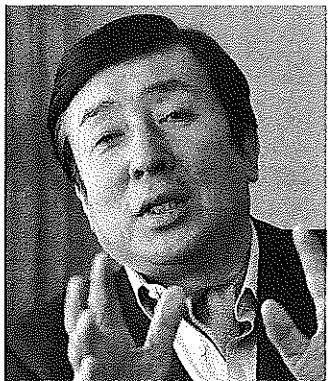
い話で、本当に参考になりました。それで、中国もあと十年ぐらいということで、本当に安心したのですが、日本も、今、安保法制で他国防衛とかいろいろあります、アメリカは日本をそれほど重要視してないようですから、アメリカ一辺倒でもよくないと思うのです。そういう点で、日本もこれから世界に目を向けて、いろいろ情報収集をして、もっと世界に知つてもらう、そういう努力が必要なのではないかと思います。そういう点で、日本もこれからもひとつと、我々もいろいろな知識を吸収して、それぞれの分野で頑張つていかなくてはいけないと思いました。本日は本当にいろいろな貴重な意見をありがとうございました。
今後とも昭和経済会のますますの御発展、本日御参加の皆様方の御健勝、それぞれの事業の御発展を祈念いたしまして、閉会とさせていただきます。

定期講演会

国際情勢と日本経済

ジャーナリスト・作家

手嶋 龍一



皆さん、こんばんは。暑いさ中、しかも突然降り出した夕立であります。よつゝそおいで下さいました。ありがとうございます。

昭和経済会はおかげさまで一昨年、創立八十年記念を迎えることができました。ひとえに会員各位の御尽力の賜物と厚く御礼申し上げる次第であります。

2001年の世界同時多発テロ、9・11事件の生々しい報道は記憶に新しいところであります。あれ以来、世界はがらっと変わりました。政治情勢、国際情勢、経済情勢も大きく変貌を遂げて今日に至っています。昨日もテロがありました。ダッカで20名からの被害者が出来ました中に、日本人も7名含まれています。JICAから派遣されて関連した産業に従事している人たちです。当会からも4社ほどダッカに支店を出して活躍している企業がありますが、将来の不安を隠し得ないというような状況であります。

さように世界は混迷度を深めておりります。

経済問題もしかりでござります。新しくは、英国のE.Uからの離脱等が、経済的なショックを与えております。いろいろと問題山積するところであります。

皆さんの顔を見ながらお話ししていきますので、一時間余り、それで余りにも次々にいろんなことが起つておりますし、一時間におさまるかどうか、ちょっとそれは僕の責任ではなくて国際情勢のほうの責任ですので、8時になりましたら、もう予定どおり食事はしていただきながら、僕はお話をしますので、どうぞそのように進めさせていただきたいと、いうふうに思います。

沢山いろんなことが起つてゐるのですが、先ずダッカの事件ということになりますけれども、そこから、ちょっと御心配ですね、お話をさせていただければというふうに思います。2001年の9・11同時多発テロ事件、これはやつぱりどうですかね、戦後の歴史の中で、いうと大きなターニングポイントとなることがあります。大きなタ

ーニングポイントといつのは、いうふうにとかといふと、それ以前と以後とでは、世界の風景が一変をすることです。その点ではどうでしょか。1945年の日本にとって8月15日がまさにそうです。それ以前と以後では風景が一変をしているということになります。ヨーロッパでは1989九年のベルリンの壁が落ちる、そこで冷戦が終わつたわけですから、その以前と以後とでは風景が違うということになるのだと思います。もう殆どそれと同じ位の意味を持つ9・11同時多発テロ事件というのは、世界を変化に持ち込んだ大事件であつたといつることになるのだと思ひます。それは、約5千人と言われるような大量の犠牲者がニューヨークで出たといふことだけではありません。あの事件を機に、世界の風景が文字どおり一変をしてしまつたのです。ここで、テロの世紀と言われます21世紀の幕が上がつた、ということになるのだといふふうに思ひます。

それ以降ずっとテロの世紀の中に、私どもは身

を置いているということになるのですが、今回、一連のIS、イスラム国というものが出現をして、新しい形のテロの時代が始まっているのです。

9・11事件と今回のダッカの事件、そのほかに

パリの事件や、そして、カリフオルニアや、この間フロリダで起きた事件というのも、よく考えてみると、その9・11事件以後、テロの時代の幕は上がったのですけれども、その後、そのテロの時代の様相も、「」で2014年にIS、イスラム国というのが、まさに神の国を建設するというふうに宣言をするのだと云つております。その以降と以前とでは、またテロの時代の中の、言つてみれば第一期の幕が上がったというふうになつていています。

今度のバングラデシュの事件もそうですが、バングラデシュの中の膨大な若者たちの海の中に埋もれていた、今回で、7人犯人がいたといふふうに言われているのですが、バングラデシュの外から来たわけではないわけです。つまりバン

グラデシュの中でひそかに育まれた過激派といふことになりますから、英語でいうとホームグロウン・テロと言われるものだつたというふうに思います。

これは、9・11事件のときと比べて、とにかくと、話は非常にわかりやすくなります。9・11事件というのはアルカイダという組織があつて、その頂点にはウサマ・ビン・ラーディンという、もともとはサウジアラビア出身の大富豪であつたわけです。その人が頂点にいて、いわば参謀総長ともいうべき人物で、アイマン・ザワーヒリーという、カイロ大学の医学部を出たお医者さんで、大変な秀才なのです。この人が過激派でといふことがあります。この人が参謀総長として頂点にて、そして、ハブルクとかエジプトとかいうようなどころから、まさに戦士、ジハード、聖戦の戦士をひそかにリクルートしてきました。そして、それを訓練し、やがて超大国アメリカにひそかに送り込みました。それで、例えば主犯格のモハメ

ド・アタというような人は、ハンブルク工科大学で建築を学んだ青年でもあります。この人はアメリカの飛行機学校に入学をして、そこで操縦技術を学び、そして、ついにあの9・11事件を引き起こすことになります。彼らは全部アメリカの外から侵入してきます。そして、自動車学校にも飛行機学校にも行つたりして、フロリダに潜んでいたというようなことになります。

全ての資金はということになると、頂点のウサーマ・ビン・ラーディンが、言つてみれば調達をし、そして、クレジットカードを渡し、そしてひそかにということになりますから、これというのは全部ピラミッド型の頂点があつて、そこから指令も資金も出ているということになります。最後はラスベガスに集つて、そこのインターネット・カフェでウサーマ・ビン・ラーディンからの最後の指令を受け取ります。どうしてかつていうと、人がたくさんいて目立つにくいところです。アメリカの捜査当局の目を隠れるのは絶好の場所と

いうことになります。そこで、最後の指令を受け取つて、9・11、その日、誰が実行犯としてどこから飛行機に乗つてということが指令されて、そのとおりに行われたわけですね。

このことが示すように、非常に整つた垂直型の組織の上から指令が出て、そして、その人たちは超大国アメリカにひそかに侵入していったということになります。これはホームグロウン・テロではありません。外からということになりますので、問題は更に深刻です。超大国アメリカはといふことになると、アメリカの外交、それから情報機関、これを以てインテリジェンス機関といいますが、CIAなんかもそうです。そして、もう一つアメリカの国内にスペイやテロリストが侵入していくことを防ぐ、これがFBIの仕事ということになります。海外での情報を集めるのはCIA、内外の情報機関、それらの存在をぶち壊された上に、3千人からの人々の命が失われたということになりましたから、アメリカ政府の威信をか

けて、しかも10年の歳月をかけて、その頂点を踏み潰すということになつたわけです。

キューバのところにアントナモ海軍基地というのがあります。そこにテロリストの予備軍といふのはどんどんどんどん、ヒンドウクシユ山脈から連れてきて収容しました。そこで徹底した尋問を行い、情報を集めて、10年の歳月をかけて、ウサーマ・ビン・ラーディンというのがどこかに潜んでいるらしいのですが、アメリカの盗聴を恐れて、こここのところでいうと一切電話とかインターネットなんかを使わないということになりましたから、誰かが連絡役をしていることになります。これをリエゾンと言います。その連絡役をついに見つけ出すということ。その連絡役を追跡しているうちに、パキスタンの軍事都市なのでですが、アボッタバードというところに、どうも外界と全く連絡を絶つている、しかも大変高い塀がめぐらされて、どこからも中が見えないと、いう怪しい屋敷があります。そこに何者かが出入りをして

ているということを見つけて、「」み箱をあさり、そこから出てくるDNAを鑑定するというようなことになつて、どうもそこにウサーマ・ビン・ラーディンはいるらしいということを突きとめました。これはほんじ忠臣蔵の世界なわけです。最後にアメリカ海軍の特殊部隊シールズというのが、ヘリコプターでそこに降りたつて襲撃をして、ウサーマ・ビン・ラーディンという人をつかまえて、その場ですぐDNA鑑定をして射殺をし、その遺体を飛行機でアラビア海に運んで、そこから海で埋葬するという電撃作戦に出ました。陸で埋葬すると、そこがジハード、聖戦の聖地になってしまいます。

その後、アルカイダはどうなりますと、ほぼなくなつたわけではありません。影を潜めています。だから頂点を攻撃し、首謀者をつかまえるということになると、これの対処の可能性はありかどうかということになります。今、これがテロの世紀の第一期だとすれば、敵は大変に強力で

あつたけれども、対処のしようはあつたということになります。ところがそれを見ていたイスラム過激派は、当然、教訓をまさに学ぶということになります。こういうふうにピラミッド型の組織で、どこかに総司令部があるというのは危険だということを学ぶことになるわけです。その結果どうするかというと、垂直型の組織に比べて、横にずっと広がるような水平型の組織を作つていこうということになります。そうであればどこをやられても、モグラたたきに似た結果ということになります。そういう組織を徐々につくるということです。イスラム国のイラク、イスラム国のシリアにも同じような形を作り上げていきます。そしてそれを統合した形で2014年に、神の代理人と云つた具合で表現し、神の国をつくると言つたのです。どこに明確に作るかということは明らかにしていません。アメーバーのように広がつています。しかし当座のところ、最大の拠点はシリアからイラクにかけて拠点を置くことにしてい

ます。何故かと云えば、これも大戦で国自体が荒れに荒れているわけです。ちょうどエボラウイルスなんかと似ていて、体力が弱つているときに多く発症するわけですよね。そのように体力が弱つているところに、まさに住みついで増殖をする。これがイスラム国ということになつていています。

当座、それで2004年からということになります。まして、全世界からインターネットなどで、現状に不満を持つイスラム過激派の青年たちを集めることになりました。今、大体2万5千人とか3万人の兵士がいるというふうに言われています。これは国家ならざる国家です。別に国境もちゃんと決まつてないわけではない、アメーバーのように網を張つているという状況です。そして、攻撃されれば別なところでということになっています。ですから、イスラム国外のところでいうと、テロの時代でいうと、その水平の組織、第一期の組織に活動の拠点が置かれているというのです。

キリスト教徒の方もこの中にいらつしやると
思いますが、カトリック教会はローマ法王の法王
院を頂点にして、全世界に張りめぐらされていま
すが、そこには頂点があります。バチカンという。
ところです。独立化の教会というのは、横にずつ
と大まかな組織はあります、どこが頂点ではな
いというキリスト教会というのは、幾つかあります
。それにちよつと似ているかもしれません。し
かしISは、シリアからイラクへかけての一帯に
散らばって、国境をまたいで存在するのです。国
家ならざる国家ですから、従来の国境なんていふ
のは物としない、そこに広がっているといふこ
とになります。それを、アメリカを中心とした多
国籍軍が、今、猛烈な空爆を加えているといふ
うな形になつてゐるわけです。

これは、たたけばたたくほど、今は少しずつ拠
点も縮小してきていますが、一部ファルージャと
いうようなところを陥落したり、少し全体に縮減
はされてきています。なくなつたわけではありません

せん。むしろあんなに攻撃されても、よく踏みと
どまつてゐるということです。その最大の理由は
何かといいますと、兵糧があるからです。資金源
はというと、人質とかいろんなことがあります、
主としてナユタヤの油田地帯です。その油田の地
帯を目がけて、ずつと増殖してきているといふこ
とになります。アメリカ財務省の試算なんですが、
年間でざつと6百億円位の収入があるといふこ
とになつています。6百億円といいますと、皆さ
んの感じでは少ないようと思われるかもしれません。
彼らの感覚では、皆さんと比べて収入レベ
ルで100分の1以下です。ですから、大体6兆
円位の実入りという感じだと思います。石油を密
売することによって、トルコとかヨルダンを通じ
て売つているということになります。簡単にこれ
を根絶できないということだけではなく、そこでい
ろいろインターネットを通じて、全世界の若者た
ちにジハードを呼びかけているといふことにな
っています。

一連のところに広がつて、独立的にテロが起きています。パリでも、ブリュッセルでも、もう言いつ切れないぐらいです。オーランドでもカリフオルニアでも、そしてダッカでおきているというわけです。それは別にイラクから派遣するわけではありません、アルカイダと違つて。まさに、その国にいる若者が立ち上がる、これを、ホームグロウン、つまり自國で一般にいる、移民の二世、三世というような人たちがやつているのです。今回で言うと、ダッカの7人の若者たちもそうですが、そこで立ち上がりてくるということになります。もう一つは、やっぱり別に明確な攻撃の指示を受けていない者も、それは一匹オオカミ型の者で、そうした一連のテロでは多いということになります。まさにローンウルフ、つまり特にカリフオルニアの事件はまさにそうですが、イスラム系の人ではあるけれども、別に一般の普通の市民でした。特にカリフォルニアの場合は公務員だったわけですね、御夫妻とも。一般的には全く普通の人

として生活していく、しかし、心のどこかに過激思想を蓄えて、現体制に対する憎悪や、イスラム国に対する共鳴というふうに表面化して来ます。それで一斉に銃を蓄えて銃撃戦に行くというふうになるのです。

これはまさしく心の中に抱く憎悪ということですから、ますますそれを除くわけにはいかないということになります。インターネットで若干のコミュニケーションはするということになりますが、それならもつとちゃんととした形の資料を残していくればいいのですが、そうではないので、これもう大変難しいということになります。

ダッカのケースで、一言御説明をすると、去年の9月に日本人も殺されているのです。イタリア人が比較的治安のいい地帯をジョギングして、9月に殺されているのです。今回も一連のイスラム国、これバンガラデシュ支部と名乗る組織が犯行声明を出しています。その中にはイタリア人を中心として、まさに自分たちISに向かう

もの、これをまさに十字軍に見立ててテロの攻撃対象に扱っています。十字軍というのはキリスト教徒です。そしてイタリア人というものは大半がカトリック教徒ということになりますから。それはイコールで、その前哨戦は、実は去年のうちに起きているということになりますから。それはデシュ政府の治安機関は、犯人がもうほとんど特定できていたということです。前回の事件を追つているうちに、怪しい青年たちは誰かというのを特定していたという可能性があります。そうすると、しかし変ですよね、20人の人たちに犠牲が出たうちイタリア人も多いのですが、7人は日本人ということになります。

それでは、なぜ日本人がということになるのです。一方で、そういうイスラム過激派現体制に対する憎悪ということになりますから、今のハシナ政権というものを倒す、それを揺さぶるというためには、バングラデシュに投資をしている国を標的にして揺さぶればいいということになります。

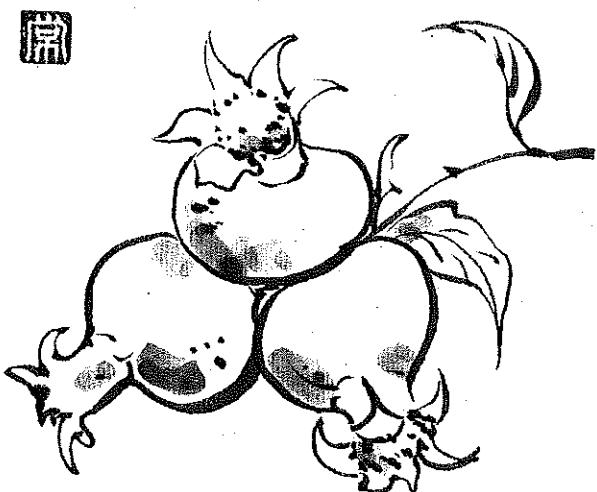
投資をしている国は、今、中国と日本が最たるものですから、これで日本人を殺害するということになると、バングラデシュ政府に相当な痛打を浴びせることができるということになりますので、バングラデシュにはIS、イスラム国の関連組織はないというふうに一貫して、今でも言い続けているのはそういうところなのです。ですから、それを真に受けるわけにはいきません。そのようにして、アメーバーのように弱いところに点々と新しい組織が横に広がっているということになります。

大変深刻な話になりますが、それじゃあ海外旅行に行つたりするのはどうか、仕事の時はという何か有効な対策はあるのかというと、大変お役に立たなくて申しわけないのですが、全く無いというようなことにならざるを得ません。ただし、一つだけ言えるのは、どうも9・11事件の時よりも更に状況が予測しにくいということです。即ち、テロの第二期に入っているということふうに自覚を

して、日々の仕事やいろいろな行動にという人とそうでない人との差があるということになります。やっぱり一々恐れていっても仕方がないのですが、皆さんはそのような自覚を持つて、様々なお仕事にいるんな御判断をされることが賢明な方法であるというふうに思います。

テロのことで25分も過ぎてしましましたが、次に英国のEU離脱ということに話を進めさせていただきます。 文責 佐々木誠吾

続く



作品 関根常雄

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

動する人間であつてほしい。一年間の大学生活で得られた知識や技術の量だけで、この変化の激しい時代に一生間に合うはずはない。ここで学んだいちばん大切なものは、学問の方法論、物の考え方の根本である。それを活用してほしい。

第一に、世界市民（world citizen）としての自覚をもつこと。世界共同体、世界市民という概念は、以前から使われていたが、昨年から今年にかけて現実的な意味を持つってきた。

その理由は、一つには、科学技術の急速な発達、それにもとづく政治・経済・文化など各面での国際交流の緊密化で、世界各地域の相互依存性が深まつたことである。

もう一つは昨年の INF（中距離核兵器）全廃条約以来の、戦争から平和へ、対立から協調へといふ世界史的な潮流の変化。それが人類に、「一つの世界」の問題を改めて考えさせた。

おめでとう。諸君が前途に各人それぞれの希望をもちながら校門を去るうとしている。この人生の節目に二つのことを話したい。

第一。自分の責任において自主的に判断し、行

散する炭酸ガスの「温室効果」、森林破壊、砂漠

世界市民としての日本人

十五日は大月短大の卒業式だった。短大には珍

しい経済学だけの単科大学なので学生は全国から来ている。今年の卒業生は二百十七人、そのうち長野県出身者が七十八人いた。以下、学長としての私の式辞の要旨。

おめでとう。諸君が前途に各人それぞれの希望をもちながら校門を去るうとしている。この人生の節目に二つのことを話したい。

第一。自分の責任において自主的に判断し、行

化、第二世界に対する援助問題などが前面に押し
だされてきた。

「そういう時代に、われわれは世界市民としての
日本人という立場で考え、行動しなければならな
い。それには三つの視点が必要である。」

第一。唯一の被爆国民である日本人は、軍縮と
くに核軍縮を推進する歴史的任務を背負つてい
る。

第二。技術先進国、経済大国である日本は、地
球環境保全 第二世界援助問題で、世界から期待
を寄せられている。

第三。日本国憲法は思想、良心、宗教、集会、
結社、出版その他の自由を保障している。「いつ、
う自由が完全に与えられていないため、苦悩し紛
争を生じている人々がまだ多いなかで、われわれ
は真理と自由の支配する一つの世界を目指す先
頭に立つ」という気概をもちたい。

「世界市民」としての自覚など小さな個人とし
ての自分には無関係だ、と思つてはならない。」

の急速な国際化の時代には、諸君の生活そのもの
がいろいろな面で国際化し、それへの対応が必要
となつていくだらぬ

(89・3・18)

スポーツマンと「う人種

最も単純な人々は、スポーツマンは「明朝」だ
から好きだと云ひ、或は「運動をやる奴なんて、
馬鹿が揃つてるよ」といふ。幾分でも批判的であ
り、公正であると自負して居る人々は、大抵、「ス
ポーツマンは、確に、他の人の持たない長所を持
つて居るが、勉強しないのが、一番の欠点だ」と
考へて居るらしい。「スポーツマン」に対する、
こう云つた単純な・平面的な規定は、勿論当つて
居ないとは云へないが、余りにも大ざつぱだ。
スポーツマンといふものを、把握する網としては、

余り目が租過ぎる。私は常々、人々がスポーツマンを、このやうに簡単にステロタイプ化して、平然として居ることに、不愉快を感じて居る。私は、スポーツマンの中にも、世間並の人々の中に於けると同様、馬鹿も居れば、利口も居るといふ」とや、又、スポーツマンとしての駄目な人間は、普通の駄目な人間と、どう違つて居るか、或は、スポーツマンの中の優秀な分子は、どんな点で特徴的であるか等々を、最も具体的な事柄をお話しそる」とに依て、諸君にお知らせしたいと思ふ。

学生が一五〇人集まつた時よりは、確に幾分知能的に低劣な、ガサツな空気が感ぜられたのである。——自分が、その一五〇人の中の一人でありながら、こんなことを考へて居たんだから、随分厚かましい話ではあるが。

* * *

私が今年の春、極東大会へ出場する日本代表の一人に選ばれて、神戸から乗船した時のことである。約百五〇人の選手が一個所へ集まつた。その時、皆をズラリと一渡り見廻して、私が最も強く感じたことは、「全般的に云つて、知識的には、レベル以下の顔が多いな」といふことだつた。普通の

我々の乗船、平洋丸が、香港へ寄港して、愈々出帆といふ時だつた。埠頭に堵列した在留邦人達は、恐らく我々日本代表選手の中に、國旗を高く掲げたオリンピック船「平洋丸」の中に、遠く離れた故国日本を見附け出したやうな気持であつたに違ひない。彼等が、埠頭を離れて行く平洋丸に浴せ掛けて呉れる「万才」の声の中には、涙ぐましいものがあつた。我々も舷側の欄干に身を乗り出して「万才」を熱烈に交換する。船は埠頭から一丁程も離れた。その時、舷側の一隅から「バカヤロウ！ バカヤロウ！」と連呼する声が起つ

た。振り向いて見れば、数人が、最早万才と云つたつて、馬鹿野郎と云つたつて、同じやうにしか聞えないだらうといふんで、盛んに手を振り乍ら、面白半分に、「馬鹿野郎！」と怒鳴つて居るのだった。何といふ、センシビリティに欠けた人々だらう！ 僕は一瞬、ハンカチを振つて踊り廻つて居る彼等の姿を見詰めて、凝然と立ちつくした。

これは、スポーツマンの最悪のタイプである。彼等は必ず勉強もしないに違ひない。午前十一時起きで、朝飯と晩飯を兼ねた食事を済まし、グラウンドへ出掛け、一日の練習を終れば、帰りは新宿へ寄つて、球を撞き、麻雀をやつて、夜十時に帰宅する。試合に負けた日には、自棄酒を呑んで、銀座でポストを二三本倒す。」といふ生活を送つて居るに相違ない。「運動やる奴なんて、馬鹿が揃つてるよ」と云はれる、責任の九十九パーセントは、こういふ八達が背負ふ可きだ。」といふタイプが、可成り多いことは、僕も認める。

或る港で、知り合ひの某選手が、船のサルーン

で、面会に来た人と挨拶を交し、種々話をして居る。その某君は平常、どう見ても取柄のない、ノラクラした男なんだが、こうやって他人と応待している所を見ると、なかへキへキした、しかも当りの良い応待振りである。一寸見直した。

スポーツマンの中には、こういふタイプもちらり／＼見受けれる。Knowledgeに放ては零だが、Intelligenceとか、世才とか云ふ点では、すぐれて居るといふ人々だ。スポーツマンは、種々な人と多く接触する機会を持つて居る為に、社交的な才能等を伸ばすには、恵まれた条件の中に置かれて居る為であらう。

* * *

僕達は毎年夏休みになると、東伏見の合宿所へ籠つて、猛練習をやる。一日の辛い練習を終つて、自由な時間を得る」との出来る夜、これが一日中で一番楽しい時だ。此方では将棋を指して居る二

人を囲んで、三四人が、傍から口を入れなどして、見物して居る。向ふの隅では、クタビレテしまつたのが、早くも蒲団へ潜り込んで、モダン日本をバラ／＼とめくつて居る。隣りの部屋では蒲団蒸しが始まつた。ドタン、バター／＼、ガタ／＼、「オーライ、そつちの部屋の奴、加勢に来いよう」……等々といふのが、所謂合宿所風景なんだが、此の時、試みに階下の読書室を覗いて見給へ。どんなどといふのが、疲れた身体を引き立てて、机に向つて居る姿が見られるから。

最善を盡し、相互に絶大の信頼を持つてプレーしなければ、やつて行けないサッカーといふゲームが、我々に与へる、その眞剣な雰囲気、精神の靈火である。又、その中に生まれる眞の友情、労苦を俱にした者のみが持ち得るお互ひの愛情である。これは、スポーツをやつたことのない人には、どんな名文を以てしても、分らせることが出来ない感情だが、同時に、ほんとにスポーツをやつしたことのある人なら、誰でも、すぐ分つて呉れる気持ちである。

英國の或る蹴球選手が、蹴球と縁を切る決心をして、シーズンが終わつた日に、ロンドン橋上に立つて、愛用の靴を、テムズ川に葬り去つた。だが、来年再びシーズンが訪れると共に、彼は矢も盾も堪らず、又懐かしいグランドの芝生に立つたといふ。九年間サッカーに親しんで來た私には、此の選手の気持ちが滲々分る。

最後に、我々が、どんなに辛い・苦しい練習や試合の数々を重ねても、否、重ねれば重ねる程、スポーツに対する愛着を増すのは何故だろう。私は外のスポーツに就いては知らない。が少なくともサッカーに於ては、僕をこのゲームから離れ難くして居るものは、人間が赤裸々になり、自分の

蘭子の心情

米ジャーナリスト

ランコ 岩本

「このフィルムは一体なんたるこつた？！」

予定通りにソールとポーラが2日後そのフィルムを持つてやつて來た。ジエトロでは、所長始め各部門の部長達も集まつて、番組最後にジエトロの協力を感謝する言葉が出るという滅多にお目に出度い話なので、私を含め皆ニヨニヨしていた。

しかし、試写が始まり、ものの30秒経たぬ中に、私は嫌な予感に襲われた。まずピンときたのはこのフィルムの品質が、あらゆる意味で、最悪ということだった。変にケバケバしい風景

を描いた絵がまず出てきて、「オヤ」と思つたら農村のシーンとなり、ナレーターが「日本の農村では近代的機械は殆どみかけません」とやつていた。シーン自体がまことに古かつた。最近撮つたものではなく、どこかで眠つていた昔のものを掘り起してきた感じだつた。

「れナニ、一体？ わざと戦前物を引っ張り出して、後で「でも今はこうです」とやるのだろうか？

でも次のシーンはもつと悪く、その次のシーンは更にもつと悪いモノが出てきて、もう全くキモを潰すものばかりだつた。

知らぬ間に宗教の話となつて、アメリカの宣教師がマイクを手に、日光の左甚五郎の猿をして、これは日本人が信仰する「マンキー・ガッド」です、とやつていた。そして如何に、東洋の宗教は殺伐で、「イーブル・スピリット（悪靈）」に満ちていて、それが如何に仏教信者である人々の行動を左右するかの解説に移つて

いった。例えはとなつて、東南アジアの何処かで、頬の片側から片側に細い棒を突き通した人達の顔のクローズアップが出てくる。「これは日本ではありません」と断らないから、受ける印象は当然「現在の日本のシーンです」となる。

「日本のお盆」の話となつて、また東南アジアのシーンである。祭壇の前で、手振り足振り踊り狂う人達の姿、そしてまた「これが日本です」の暗黙の了解。そうかと思うと突然、黒装束で身を包んだ人達が号泣しながら柩の後を行列して歩いているシーンが出てきて、「これは泣くことが専門でその為に雇われた『泣き女』です」

いやはや全く昔の、そして何か特別な目的で創られたに違いない記録写真を見つけて、切り貼りしたものだ、と開いた口がふさがらなかつた。一方、良くもこれだけ滅茶苦茶なものを創つたものだ、と変な感心もした。私はただただ呆然としてこのフィルムを見ていた。

最後の方で全学連のスネーク・ダンスが出て来て、またあの宣教師がマイクを手に登場し、「惡靈」に触れて、ことある間に、「ロング（間違つた）宗教を信じると、こういうことになります」とやつたのだ。

そこ迄くると、私の堪忍袋も破裂寸前となつた。

「惡靈の呪いを逃れる唯一の道は・・・」と彼は続け、シーンは小川の辺で10人ほどの日本人が讃美歌を歌い、2〜3人が流れの中で洗礼を受けている場面と変わり、「キリスト教です」という彼の言葉でこのフィルムは終つた。始まる前と終つた時の部屋の空氣は、対照的にガラリと変わつていて。微笑している人は1人もいなかつた。ソールとボーラは雰囲気から全てを察して、可哀想なほどしよげていた。部屋の中は、死んだような静寂で、息が詰まる様だつた。

「ソール・ジス・イズ・ナシト・ジャパン！」

(これは日本ではない……)」。口を切ったのは私だった。

ソールは助けを求めるように部屋の中を見回したが、みな私と同意見だった。「ミス・ランコの言う通りだ。これは日本ではあります

ん」「残念ながら、これはねエ……。本当の日本じやないですよ」ガヤガヤ、ガヤガヤ……。困り果てたポーラが打開策を提案した。「スケジュール上、Aテレビではこれを見せざるを得ないので。悪い点は出来るだけ取り除いて、間違ったインフォーメーションは出来るだけ訂正して放映したいのです。どうすれば良いか教えて下さい」

(また始まつた……)、と私は苦虫を噛みつぶした気分だった。こんなフィルム、「何處を直せばいいか?」と言つたつて、そう簡単に直し様がないではないか……。

その時、所長が、「こんなフィルム、直すにしても限度があるでしょう。しかも来週やること

になつてゐる番組だから、撮り直す時間もない、ということになるんでしようなあ……。仕方がないんじゃないですか? だからそれでおやりなさい、としか言えませんねエ……」と言つた。

これらの言葉が耳から入つてきて、言つてることを信じられない私は、ただただ呆然としていた。しかし、彼の次の言葉、「でも、番組の最後に出てくるジェトロのクレディットはとつて下さい。間違いなく除去して呉れれば、これでいつたら良いでしょう」で、我に返り、カツとなつた。

氣付いたら、「お待ち下さい」という日本語が私の口から飛び出していた。そして、私の左手が上がり、左側に坐つていた所長を制する形となつていた。しかし顔は、私の右側に位置していたソールとポーラの方に向いたままだった。氣付くと、私は大声で、彼等に言つていた。勿論英語で、相当な早口となつっていた。

「こんなファイルムを、間違いだらけのファイルムを見せたらAテレビの恥となりますよ」

そして、怒り心頭だったので、「アイ・ウイル・マイク・イット・ソウ！（私がそうします！）」と付け加えて、ソールをハッタと睨み付けた。

ソールは無言で、マジマジと私の顔を凝視していた。瞬きひとつせず彼を見据えている私の形相と視線から、（これは本気だ。この人間はそれをやる）と悟った様だ。当たり前だ。私はつたりでものを言う人間ではない。私は確かに我慢強いが、それは「仕方がない」と泣き寝入りする種類とは話が違う。

事実、若しAテレビがこのファイルムをそのまま流すなら、私はジャーナリストとして、自分の言葉で自分が思うままにその事を書いて、アメリカのマスコミに流して、ニュースにする積りだった。その為、もしR社が私を首にするなら、それも良かるう。

そこにいたジェトロの殆どの人は、所長を含めて、私がソール達にぶつけたこの「爆弾宣言」を聞き取ることも、理解することも出来なかつたと思う。早口の英語だつたから、例え聞き取れても、理解出来なかつただろう。但し皆、私が凄い勢いで、ソール達に「怒つている」らしきことは分かつたようで、シーンとしていた。

「氣まずい沈黙を破つたのはボーラだつた。

「もうこのファイルムを見せるのは怖くなりました」と言つて立ち上がり、まだ坐つたままで私の顔から目を離せないソールの腕を引つ張つて、そそくさと帰つて行つた。「どうも済みません、本当に済みません」と繰り返しながら、そして握手するのも忘れて、2人は姿を消した。

一方私はといえば、2人が帰つてしまつた途端に、涙が堰を切つたように溢れ出した。トイレに行つて様子を見たが、一向に止まりそうにならない。これは困つたことになつた。6時から、下のショウルームでカメラ・ショウのリセプシ

ヨンが始まる。もうその時間は迫っている…。やつと何とか気を落ち着けて、無理に普通の顔をして、広報部に戻つたら、広瀬氏と十河氏だけがそこにいた。2人の顔を見た途端、また涙が、咽るが如く、み上げ流れ出して、隠すのは無理となつた。

2人は、元気で知られる私の涙に驚き、直ぐ「どうした、どうしました？」と立ちあがつた。私は涙で声が出なかつた。2人は途方に暮れて顔を見合わせていたが、部長の広瀬氏が「何か僕達が、いけないことを言いましたか？」と質問した。（どんでもない！）と私は首を横に振つた。「じゃ、さつきのフィルムの件？」（そりなんです、そりなんです！！）と激しく首を縦に振り、私はひときわ激しく咽込んだ。「なんだい、ラシコさん！」と傍に来た広瀬氏が私の肩に腕を回して言つた。「あんなことで泣いちやダメだよ。僕が助けてあげるよ。だから、泣くんじやないつてば！」

何がどの様に展開し、どの様にこの人達に助けて貰うことになるのかは皆自分からなかつたが、心境を共有する人達が出来る限りのベストを尽くして助けて呉れると知つたのは、その時の私にとって、何という心の支え、そして慰めだつたことだらう。

私の涙には、色々な意味があつたと思う。ひとつは、疲れがどつと出たのだと思う。それ迄の努力が、全て灰燼に帰すのか・・・とガッソクリきたのだろう。ひとつは、仕事に生きる仲間同士として近親感を抱いたソールドボーラに対する涙だつたと思う。そういう仲間に對して、キツイ言葉を吐かねばならなかつた自分の立場を哀しんで、ということだつたのだろう。しかし私の涙の最大の原因は、所長の言葉であったと思う。厳格にいえば、私が感知した彼の言葉の意味するところ、となる。あのようなフィルムを、「それでいくより仕方がないでしょう」と言つた彼は、それがどういう結果をもた

らすか、を知らなかつたか、気にしなかつた、と解釈せざるを得なかつた。彼にすれば、たかが30分番組で、しかもエンターテイメントじやないか、といった気分があつたのであろう。しかしそれが何であれ、日本を知らない人達は、「これが日本」と思つてしまふ。見たこと聞いたことが、そのまま「事実」となつてしまふのだ。これが情報活動の怖さである。

天災や人災で、多くの人命が失われ、建物が崩壊する場合と異なり、「情報の被害」は目に見えない。数値におきかえることも出来ない。その上、その被害の影響が現れるのに時間がかかる。先になつて、「どうしてこういう事になつてしまつたのか?」となつた時は、事態は相当悪化していく、それを改善するのに要する時間や努力は数倍、数十倍かかることになる。

「戦争と平和」のようなものだ。「築く」には途方もない時間と間不断なき努力が必要だが、築かれたものを「破壊」するのには一瞬しかかかる。

らない。私は、「安からう悪からう」のイメージ打開を役割の1つとするジエトロが、自分達の使命をサポートージする事態に加担することを、見るに耐えなかつた。所長や彼と同思考の人達には、破壊活動に「加担」することになるという意識はサラサラなかつたであろう。それ迄この番組をヘルプした、という証拠のクレディットさえ除去してしまえば、後はAテレビが勝手にやつたこととして済んだわけだ。そこが、彼等と私の基本的相違だつた。破壊活動となると知りながら、それを防止しようとせず黙認するのは、それ自体が既に加担となる、というのが私の考え方だからだ。

「あなた達日本人は、全く何たるこつた!」

翌日早朝、出勤前でまだアパートにいた私に、ソールとポーラから電話がかかつて來た。同じ

内線で2人同時に代わるがわる話すその口調
が以外と明るく希望に満ちていて、オヤと
思った。「実はね」とソール、「あのフィルム
は見せないことにしました」「そうなんです」
とボーラ。「私達は非常に恥ずかしい思いをし
ました。あなたの真実に満ちた忠言を心から感
謝します。」

「何ですって？あのフィルム見せないって、
今言いました？！」と私。

「見せません！！」電話の向こうで、2人が
同時に叫んだ。

かくしてこの件は、新事態へ展開することに
なった。全く予想だにしなかつた展開で、無理
やり巻き込まれてしまつた善意の人達が、太平
洋の両側でハラハラすることになるのだった。
初対面のランチの際、ソール達に「何かのご
参考に」とジエトロと日本領事館の貸し出し用
日本紹介映画のリストを渡してあつた。ソール
達はその中に、代わりに番組で見せられるフイ

ルムがあることに気付いたので、「元氣を取り戻
したのだった。希望するフィルムと、そのEM
トラックを日本から取り寄せて呉れたら、「フ
ィルムを20分に短くして」番組に使えると言
う。」

彼が希望するフィルム「ジャパン・ツデイ
イツ・ランド・アンド・ピープル」その他3
本の名をあげた時、私は（しまつた！）と思つ
た。それらはみな、領事館のフィルムだつた。
ジエトロと領事館が扱う貸し出し用フィルム
のテーマ分野は厳格に規定されていた。ジエト
ロは産業・経済・ビジネス分野のフィルムで、
領事館は文化・教育・伝統芸術・・・。領事館
はジエトロ以上の「お役所」だから、交渉はよ
り複雑迷路的となる。映画は全て30分の長さ
だった。「助けてあげる」といつてくれた広瀬
氏に助けを求め、領事館に掛け合つて貰つたが、
予期した通りで、「規定で絶対、フィルムは切
れない」といつている。どうしてもという場合は、

先にシナリオを書いて、切り方を書類で提出したら、それを審査してOKするかも知れない。

『かも知れない』だよ」と彼は念を押した。

この段階で、私はハツキリと、「領事館はダメ」と認識した。原稿を書いたり書類作成したりする時間もなければ、無駄な努力と分かっていたのでやる気もなかつた。その番組を克明に説明せよ。視聴率は? 対象視聴者は? 実績は? プロデューサーは誰? 今迄手がけた番組は? となり、二つの時間を浪費させられるのが落ちと分かつていてからだ。

「若しジェトロのフィルムを見せられるなら、僕が今夜東京に電話し、そのフィルムと音と音楽のテープを送るよう頼んであげられるよ」と広瀬氏が言つた時、私は直観で、（それだ!）と思つた。それしか無い、それしか無いのだ! ジェトロもフィルムを切つてはならぬという規定だったが、広瀬氏は、「僕が何と

かしてあげるよ」と言つてくれた。地獄で僕とは、まさにこう言つることを言つのであるう。

ところが今度はソールが渋つた。ジェトロ映

画は産業テーマばかりで番組向きではない!

「文化も入っています。そして規定を曲げてフイルム・カットも許すって!」 渋りに渋つた

ソールがやつと「Rankoが今日の午後サンプル

を持つてくれるなら、検討しよう」と折れ

たので、私は5時間かけてジェトロ映画の全てを早送で見たのだが、文化面は長くても数分が精々なので、ソールが欲しいという「30分位」を捻り出すには最低4本分からくる必要があつた。目が壅み出した頃、新作「大阪」が2

日前に届いていたことが判明。これも「東京」同様、経済、産業、工場地帯、近代施設で最初はピンとこなかつたが、暫くすると問屋風景となり商人がソロバンをはじいたり、反物を大風呂敷に包んで背負つたり、インドの留学生が布地の染め方を習つている場面が出て来たり、商

店街は活気に溢れ、10人分のソバの出前、神社の御神籬、お地蔵さんの前のお饅頭……（これだ！）と思つた。たまたま70年の大阪世界博用に創られた映画だった。

「東京」の方には朝の通勤地獄、東京駅に溢れる通勤者の姿があつた。日本経済を支えていたる人達の姿、とりも直さずそれは、資源に乏しい日本の唯一の財産は「人間（人的資源）」であることを如実に物語るものだつた。溢れながらも駅の「上り」側にはみ出さず、「下り」側を整然と駆け足に近いスピードで下りていく人々の姿は、豊かなアメリカ生活に慣れてしまつた私の胸を打つた。日本人は、何と辛抱強く生きていることか……。でもこの人達はそれを意識していない。辛抱する、我慢する、耐える、はこの人達にとっては「当たり前」のことなのだ……。そして何と懸命に「秩序」を守ろうとしていることか……。日本の国際化が進むにつれこの姿勢を維持することは難しく

なつていくだろう。しかしこれは、これからの人類にとつて大事にすべき姿勢ではないだろか……？

私はこの「東京」のシーンを何とかして「大阪」の社会風俗のシーンと組み合わせたかった。でも広瀬氏はそれはダメと言つた。「1本だけなら」何とか出来るが、2本切ることは許されなかつた。

ソールは「大阪」を気に入つてくれた。しかし他のフィルムのシーンと繋ぎ合わせてならないという私と同じ考え方だ。それがダメと分かると、番組を「前編・後編の個立した2部作として別々に（繋ぎ合わさず）見せよう」と譲歩した。私はそれもダメと言わねばならなかつた。それでどうとう、彼の堪忍袋の尾が切れてしまつた。怒り心頭にきて、ドカンと私の目の前の椅子に跨つて、その背を殴つた。「貴方達日本人は、何ということだ！」とまた椅子の背を殴ると鬼の形相となつて、私をハツタと睨み付け

た。許されるものならば、私を殴つていただろう。「何故貴方達は、それ程までに融通がきかないのだ！米最大ネットワークの1つが土曜夜のプライムタイムの30分を提供しているというのに！領事館は素晴らしいフィルムを持つているのにカットは許さん！ジエトロはカットは許しても1本だけと言う！」貴方達はそんなことでこの国でビジネスが出来ると思つてゐるのかツー！」私も無性に腹が立つてきただので、ここ迄が協力できる限界で、これを超えることはできないし、超える気もない、と明言した。無言のメッセージは、「私達の協力を受け入れるかどうかは貴方次第です」

ソールは「大阪」1本を20分にカットして見せることに合意した。彼がオリジナルか未使用の無傷のフィルムと音響効果のテープを3～4日中に東京から取り寄せて欲しいと言つた時、私は初めて顔がこわばるのを意識した。ここから先は広瀬氏にバトンを渡し、彼に全て

を委ねることになる。東京本部は未だ何も知らないのだ。今夜の広瀬氏の電話で、東京は寝耳に水となる。時限内に動けるだろうか？いや、動いてくれるだろうか・・・？

夜中に広瀬氏から、本部の広報部長が休みだつたので連絡は明日となる、フィルムとテープを時間内に送れるかどうかは「明日分かるだらう」と連絡があつた。翌朝は、「やっと連絡がとれた。十中、八、九迄大丈夫らしい。『八、九』ですよ。そして『らしい』ですよ。明日確認のテレックスを入れるって」。ところが、それが来なかつた・・・。後になつて分かつたことは、ジエトロ東京本部が引越で、要請したフィルムは倉庫の中。それを広報部のスタッフが「我々の広瀬部長の為に！」徹夜で探し出したのだという。

続く

昭経俳壇

三郎

千鶴子

横丁に真砂女の卯波かな

丸ビルを日傘彩る昼下がり

土佐日記手に放浪の夏休み

岬より波を飛びゆく揚羽蝶

黙々と後を来る妻浴衣着て

えり足の長くみえたる浴衣かな

十字架に供へてすがし百合の花

水打つて青鬼灯のなお青し

信濃路に佐千夫の碑あり夏薔

北陸路闇にはじける薪能

老鶯や姿見えざる別れかな

陽の落ちて侍宵草に灯がともり

格子戸の影銳角に京の秋

長谷川

早乙女や紫紺の帯を胸高に

螢火や二人の時を刻む宵

尺蠖の畳のへりを計る宵

野天湯てんゆに白き月影ほととぎす

掌に遊ぶつきては消ゆる螢の灯ひ

慈雨となる台風縱斷大八洲

螢の夜思はず胸に触れにけり

油蟬熟女瓜彈くこぼれ三昧

郭公のゆつくり数ふる吾が余命

強情に生きてくるまるまむしかな

富貴男

酒瓶に納まるまむしのさだめかな

台風や日本列島涙雨

山人

月の夜の波に浮かれて水海月

はぐれ鮎川瀬の石をすべりゆき

閑古鳥鳴けど忙しき畠仕事

今日ばかりは土用鰻の登亭

山寺の尼僧ひとりに牡丹咲く

粹筋の大正ロマン麻羽織

どんぐり

ごろ寝して雷雲かみなりぐもと睨合ひ

天道虫マントに家紋の七つ星

玉虫の光妖しき旅の宿

百日紅禪寺修業若き僧

酒まろし駒形どぜうの赤提燈

文筆家の徒然俳句日記 佐々木誠吾

め

こ

向きあひて踊る女の子は隣の娘

盆踊り輪に入り踊る月の雲

風の盆踊り上手の女の子

つややかに描く画伯の風の盆

踏まれても美しく咲くれんげかな

さすらひの古城の道や草の花

豪放に遊びて終る夏休

宿題を残して賞める爺やかな

喜雨を越し豪雨となりて襲ひけり

引き継ぎて着る兄の服冬支度

仰ぎ見て渡りゆかまし紅の橋

悠久の宇宙に命の覚ゆ秋

シルバー代いよよ元気のまさる日々

更に又高みを目指す敬老日

小池知事罵倒のとんま慎太郎

何となく母の日迎ふ小池知事

サツチャヤーを凌ぐ才知の秋の陣

鴨川や夕日の里の靄雲

名月は蟬の亡きがら赤く染め

日差しさす雨大粒と厄日かな

蓮の花支ふ泥田の下司男

泥放げて男をはねて蓮の花

蓮の花咲きて盛えし八幡宮

蓮の花ひらき夕べの八幡橋

白妙のはためく里の掛大根

野分来て豪雨の末の土砂災害

つり橋や山村孤立の野分なり

悠久の星のきらめく八ツ岳

仲秋の月にむら雲惜しむべき

山烟は大根干しの里帰り

ひまわりの咲きて鬪志の燃ゆ都知事

演出に非ず葵の小池知事

伏魔殿慎太郎の居た東京都議

演出に止めず連航民進党

麦をまく海拔百の潮の風

麦めしは大好物と父の膳

戦争と平和の書棚秋の宵

悪靈の本が眠れる書架の棚
安保法成立一年無交戦
天の川かすみの網に聞く吐息
天空に住める女神の天の川
轟るやかに銀座の空を赤とんぼ
赤とんぼ中国人はじっと見て
赤とんぼ物干竿に一匹をり
秋の海波打ち際の九十九里
秋の海松の木の間に広く見て
秋の海天と地の間に静まりぬ
秋潮の岩を刻みて引きにけり
新蕎麦と穀立つ日の中山道
新蕎麦を打ちてむこ嫁を迎えてけり
女房を美しく見て暮れの秋
すつきりと化粧の妻の夜寒かな
うららかに晴れたる空や十日すぎ
うつりゆく一百十日の空の雲

店頭に渡きひかりの丹波栗
丹波栗籠では多く二つ欲し
名月や白き乳房の恋しかり
名月や金色夜叉のくだりとも
名月や貰一お宮は遠くなり
手を伸ばしいかにも取れる宵の月
触れしかと手を伸ばしけり今日の月
満月や我にも添ひぬかぐや姫
名月に冴えたる妻の寝顔かな
十五夜の雲の我にもたわむれよ
菊枕我に力を与えかし
目覚めては頭鎮めよ菊枕
菊枕浅間の山の音も消ゆ
我に良き事あらまほし菊枕
願ひミとかなえてほしき草枕
扇置く千秋と芸伎の名を記し
捨て扇とぞ思へかし座敷の伎
扇置く名残りも遠き熱海の夜
稻架を組み去年の竹出す野分あと

稲架かけて筑波の嶺の近く見ゆ
稲架かけて父の姿の遠く見ゆ
稲束を田母木に分けてつるしけり
稲架遠く長く組みたり日暮るまで
稲架かけて豊かに眺む遠日かな
刈りしあと寂しく光る稻を扱ぐ
脱穀機借りてせわしき秋の暮れ
新蕎麦の匂ひ広かる納屋のうち
新蕎麦を振れば匂ひの空に舞ひ
新蕎麦の束を積み上げ豊かなり
新しき蕎麦の匂ひに命燃ゆ

米俵編む楽しさの少年期
懸煙草疎開先での少年期
懸煙草軒のすだれの夕日かな
畔道もぐぐり抜けゆく掛煙草
わらなわでぐくりつるして掛煙草
葉煙草の山とつみたり納屋の奥
暗闇となりぬ母屋の掛煙草
萱をふく農家の少なくなりけり

萱の屋根ふきたるあとの馬肥えて
暖かく冬場を萱の家に住み
凌ぎよく夏場を萱の母屋にて
舟遊び百景絶景最上川
舟あそび日本海まで最上川
朝寒し出羽三山の裏街道
桐一葉落ちて全山鎮まりぬ
嵯峨の道一葉落ち寂れけり
落日の道一筋の枯野かな
柿紅葉我れが館の際立ちて
山里の雜木の紅葉深みけり
ふるさとの雜木紅葉の燃えさかり
柿の実の色ずく富有のこの館
柿の実の鈴なる里の譽れかな
柿の実や午後は晴天となりにけり
柿の実や午后の日差しとなりにけり
柿の実の色づくころのしぐれかな
芝刈りてひきの王様まかり出る
誕生日皆集ふ日の金木犀

誕生日全員集合ぶどう房

秋茄子を取る庭畑の紺の色

札押に夫唱婦隨の敬老日

十字架に日差うみのりに敬老日

台風の発生多しこの年の

災害に備ふ道の奥に野分来る

魚河岸のさんま汚染や豊洲の地

残照に工場跡地の有害物

うじのわく豊洲市場の魚のセリ

石原とドンの内田の金漁り

秋深し巨額の金を漁る奴

化け物のばつこす秋の魚市場

豊洲市場謎解き秋の週刊誌

小池知事台風の目の週刊誌

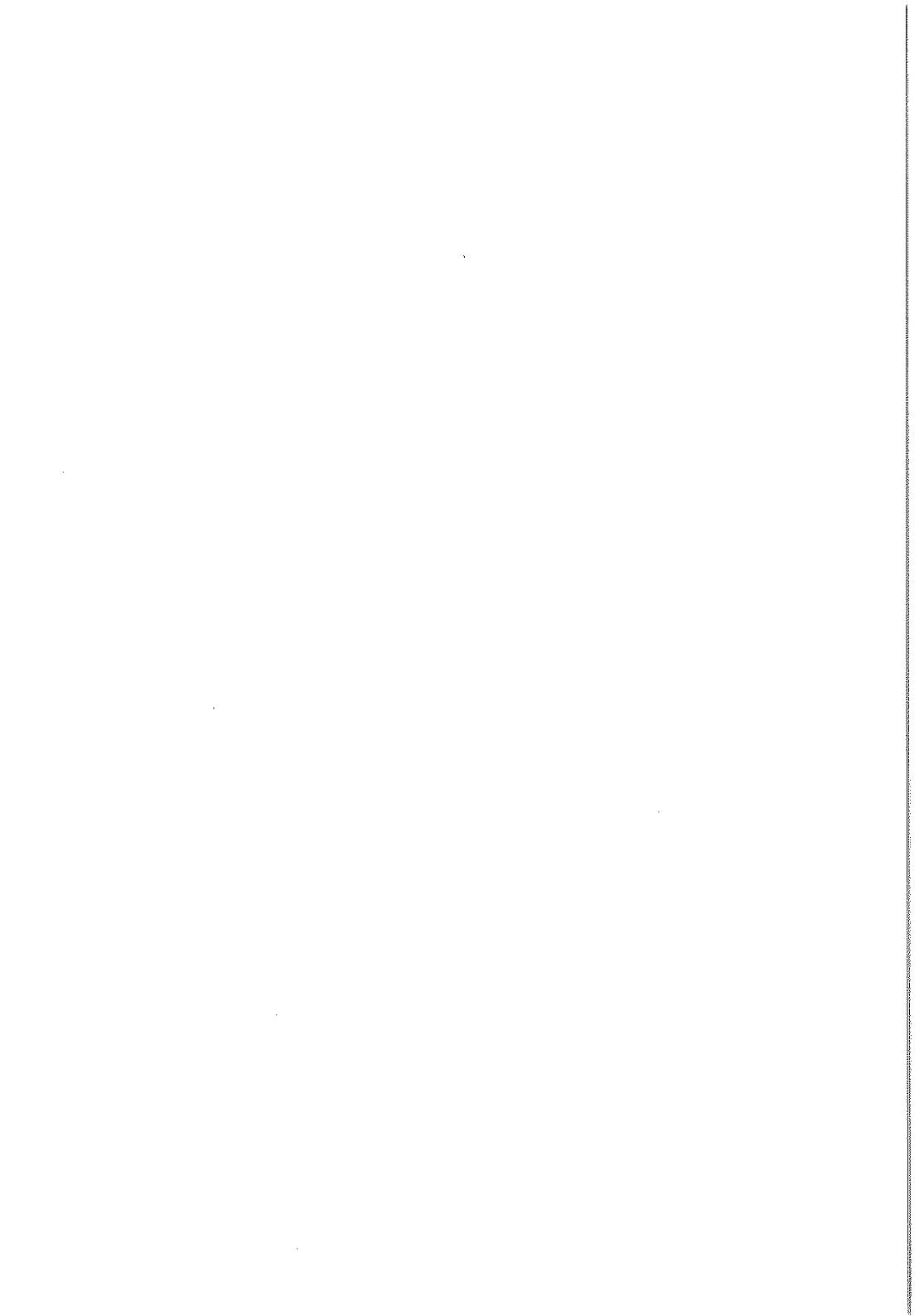
ちようちんの袋下りしぶどう棚

思ふよにならぬ気ままな秋の雲

熊を追い日高山越え秋の空



作品 関根常雄



猿澤の池

猿澤の池もに映つる興福の
倦り美しき春の宵かな

地酒をのみつ歌を詠みしにて

わが株子をともなひ月の小夜なかに
きく松の間のふくろふの声

ほとけのみ手に招かれしゆくらがの
ほとけの旅こそよけれいかるがの

にしへの天つ乙女の美しき
舞ひを夢みぬ猿沢の池

猿沢の池面に映つるやうら
かぞら高き興福のたう

幅広き五十二層の石段を
登りあはぐ興福寺のたう

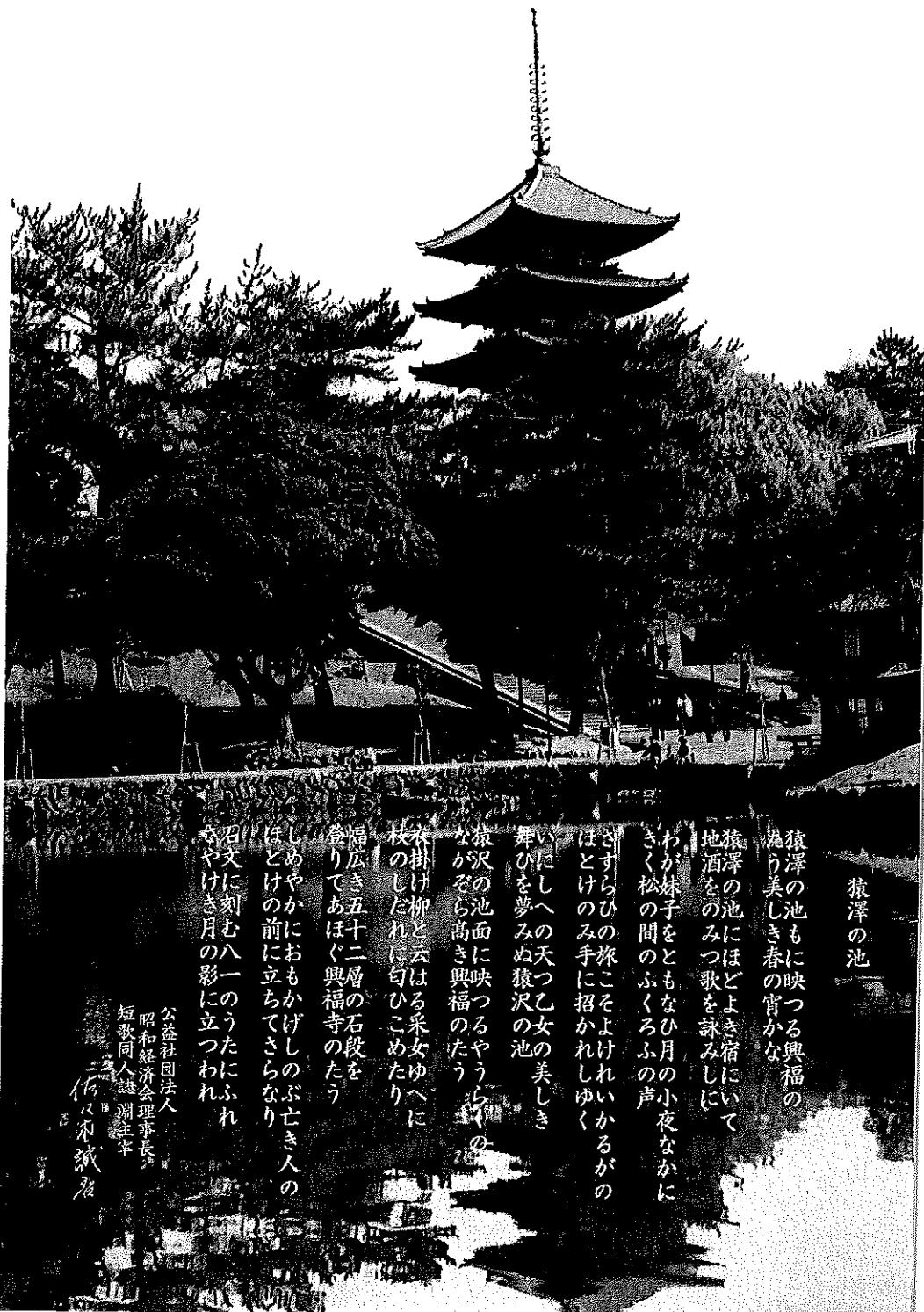
枝のしだれは匂ひこめたり
かけやかにおもかげしのぶ生き人の

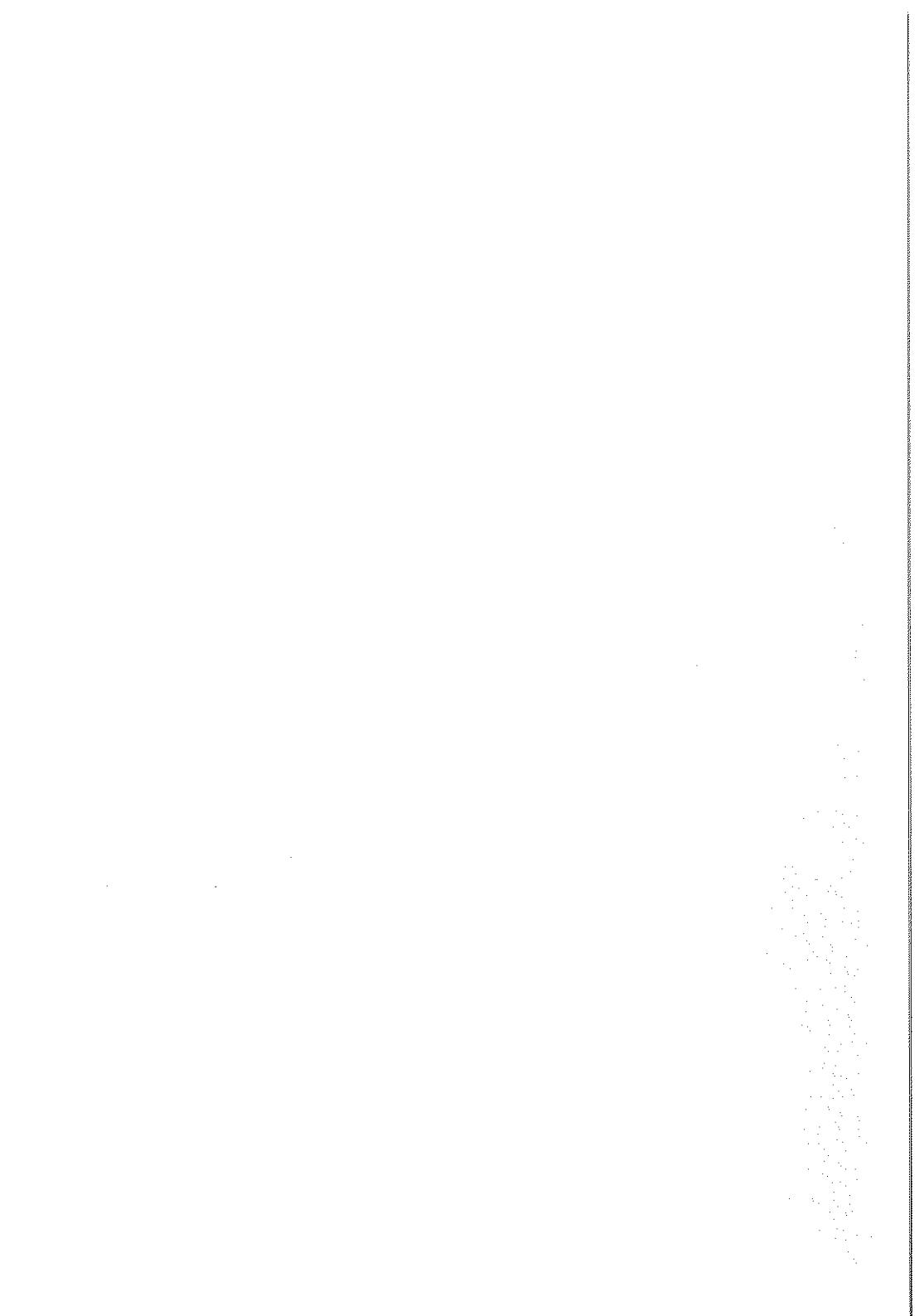
ほとけの前に立ちてさらなり
やけき月の影に立つわれ

日又に刻む八一のうたにふれ
公益社國法人

昭和經濟会理事長
短歌同人謹
淵主半

佐々木誠君





都知事選に投票しに

その一

都知事選の候補については公示以来、連日熱戦が繰り広げられて、明日投票が行われば即日開票の結果遅くとも午後10時には大勢が決まるはずである。いよいよ新しい都知事が生まれることになる。二代にわたる都知事の金にまつわる议案で嫌疑をかけられ、醜態の末に辞任に追い込まれた。期待する都民にとっては毎度のことながら、全く傍迷惑なことだと思っている。

都民をたぶらかし詐欺同様の選挙戦を行なった。トップ当選で都知事の座を射止めながら、舌の根も乾かないうちにこの始末である。こうした連中は都民を侮辱し、都民をないがしろにした、罪を負うべきものであり、犯罪行為として徹底的に追求されるべきである。決してうやむやにすべきではない。さもないとまた同じようなことが繰り返される結果になつて、都民のため、国民にとって迷惑千万、被害を蒙ること甚だしきものがあるからである。日本を中心である大都市の東京がこの始末だから、地方自治体の容態は一体大丈夫だろうかと、汚染の拡散が懸念されてくるところである。旧式のしがらみから脱却できない体制で、唯々諾々の行政が馴れ合いの内に行われて、住民の生活を侵食しているのではないかと心配されるところである。相当の謙がたまっているかも知れない。

今回の選挙戦では、都政始まつて以来の女性都知事が実現するか、その動向が注目されるが、元気のよい清潔なイメージの小池百合子候補が抜群に強い感じである。大いに期待したい。明日の投票を目指し、立派な都知事の誕生を祈つて、是非とも貴重な一票行使したいと思つてゐる。ここで真剣な判断を以て選挙に臨み、この一票を活かしたいと思つてゐる。

大年増に厚化粧とは甚だ怪しからん鞘當だが、石原慎太郎はある人に依れば半ば痴呆が進

んでたるんだ面相ではないかともいう。自分を顧みず、たびたびの放言とは云いながら無責任によくぞそんな下衆な言葉が吐けるものである。毒舌舌鋒で来た男子だから、あまり気に解きないことだが、相手に対してもいがかりをつけるにもほどがある。打って返した小池百合子の方が大人である。街頭演説では、今日は薄化粧できましたと返され、もともと顔に薄いあざがあるので医療的化粧で少しかくしていくままで云わせた。人身攻撃は良くないことである。男もここまで落ちると台無しである。あの捨て台詞で、自公推薦の増田候補の女性票の方々が小池候補に流れると見ていい。

云いたい放題の責任無しで、そのせいか近頃「天才、田中角栄」という本を出して世間を煽り立て、出版元と一緒に金儲けに転じている。老醜をさらしていとまがない。今更田中角栄でもあるまい。慎太郎個人については大いに評価して決して嫌いではない。歯に衣を着せずに庶民的に話すところに親愛感があるのだが、この角栄を持ち出されて以来、老醜を見るのが嫌になった。饒舌をはいているには破天荒などころがあつて、社会的必要性は大いにあると感じているが、不必要的発言が多いのが玉に傷である。その最たるもののが、天才・田中角栄であった。無節操は、行き着くところに行き着いてしまった感じである。右顧左眄の拳句に、弱者いじめが多すぎる。そうではなくて、理不尽な世間を跋扈してはばかりぬ輩を非難していく方が、あつ晴れな感があつて胸元が涼しくなるのであるが、方角を間違えるとどんでもない方向にすつ飛んで行ってしまう。どうしようもない男子である。都知事選は、彼の厚化粧の一言で決まってしまった。老人と云えどもまだ精力的に活躍するだらうから、テレビ番組の笑点のメンバーとして出てもらっていたらどうだらうか。放言は兎も角、番組は当たり障りなくいいのかもしない。

先日、天才・田中角栄の本についてあるテレビ局が特別番組まで組んで報道していたが、政治家としての人生の晩年を悲惨な姿をとらえて締めくくっていた。表題もそのものだが、角栄を天才扱いしているこの本を、お粗末ながら読む気にもならないので、著書については読んではいないが、読書を促すかのように新聞広告がいまだに掲載されているところを見ると、如何にも商業的である。青年諸君がこれを読んでどのような印象を持つのか、認識上聊か危惧するところである。慎太郎の過去の足跡を見る限り、違和感を抱くのである。事は戦後の日本の政治史に汚点を残す、一大汚職事件である。どう見ても良いことはないであろう。言論と表現の自由はあるが、角栄の歴史をあたかも英雄視するような著書を出版して、意外性を売り物にしている感じで、不快感を抱くのである。

日本は言論の自由の行き渡った民主主義国だから構わないが、今になって角栄の賞賛、英

雄視するのは若者に対する教育上も、あまりよくなない。角栄については個人的には非凡の努力家、天才として評価することも出来るが、努力していく目的が問われるところもある。概して権力志向の政治家として世の批判を浴び、金権政治家の権化として世間から糾弾されて、結果、刑事被告人として有罪判決を得て収監された人物である。世間の人々はその事実関係やことの結果を良く知っていて、今更田中角栄を持ち出さなければならぬような世相ではない。むしろ逆である。

貧乏からの出生街道は美談であるが、いつまでも金の威力に頼りすぎた。貧乏から立ち上がって努力の末出世街道を築進し、政界に打つて出て人々を啓蒙し指導し、その活動は人々に尽くすそれなりの成果も業績もあった。しかし全体像としては地域誘導型の政治を行つて蓄財に努めた結果、日白御殿の大邸宅に居を構えた。あれは元をただせば全て国民の税金であると

云つても過言ではない。地元から出てきた貧乏人たちを陳情団として招き入れ、地元に税金を合法的に還流させた。それは選挙に旅に効を奏して帰ってきたし、選挙地盤の確保に役立つた。税金を合法的にかすめて巨万の富を築き、それを以て世間と政治の世界に圧力を加えた。庶民型政治家を演出し、下駄ばき着姿で庭に立ち、池の緋鯉に餌をまく角栄の姿は、今太閤のシンボルとしてマスコミにもてはやされた。それはそれで途中までは結構な美談として良いとしても、しかし挙句にはロッキード事件で、巨額の賄賂を懐にして沈没した。ブレーキが利かかなくなってしまったのである。

今、石原慎太郎をいじめてみても仕方がない。老醜をさらけ出し、毒舌だけを残して醜い演出をして得意満面の爺さんによやかく言つても始まらないことは、國民がよく知つてゐる。面白おかしく泳がしておけば、餌に当たることもある。その時は褒めてやればいいことである。

無責任放題の慎太郎だが、都知事時代に猪瀬を副知事として招いたのは慎太郎である。猪瀬は慎太郎の威を借りて彼と共に勝手に、都が經營する銀行を立ち上げて失敗し900億近い損をだした。経営者としては能無しである。金を儲けたければ政治家にならず、商人をめざして、志を果せばいい。ソフトバンクの孫さんは事業家として大成し、企業家の見本みたいである。企業活動を以て現代にふさわしい業績を齎して世界を変えた男でもある。人間である以上、油断大敵、晩年を注意してもらいたいと願つてゐる。魔がさして穴に落ち込まないようにしてもらいたい。大きくなればなる程苦勞も増して、心労も増えてくる。強靭な心身の持ち主に違はないが、過信は油断につながるのだとえだからである。日本の經濟界から世界に向かた大經濟人の風格を以て、真に成功者として世に臨んでもらいたい。古くには松下幸之助や、井深大、本田宗一郎といった人々がすぐに浮かんでく

るが、それなりに説得力のある業績を世に残している。金と灰皿はたまれば溜まるほど汚くなる、とは古くからある諺である。篤と肝に銘じたいものである。人として多少は、一部は徳で残したいものである。

ところで慎太郎は涼しい顔をしているが、今日の都民の税金を使い果たし、都政の混乱と渋滞を招いた元凶を作った人物である。猪瀬は慎太郎のあとをついで都知事になつた。いわば猪瀬は慎太郎の子分である。都知事を任命したようなもので、それにしては副知事時代の教育が足りなかつたのではないか。彼はもともと金に目がくらむ人物ではなかつた。副知事になる前は作家として、その後は政府の信頼を得て、行政の改革の風雲児として活躍した人物である。政治の世界に入つたがゆえに、魔がさして金縛りに合つて落馬した。それを非難しながらあとに舛添が都知事になつた。あの時、もっと情報公開に徹していれば、舛添がどんな性癖で略歴

がある人物かを分かつたはずだが、それが徹底されなかつたがために、長所ばかりが喧伝され都民がだまされたことになった。斯様に経過をたどつてみると、慎太郎にも責任がある。その息子の石原伸晃経産大臣が、自民の都連の会長を務めている結果が、今回の選挙の結果となる。自公の推薦する増田は元総務大臣、岩手県知事を3期務めた行政のベテランである。田舎の都知事をしたからと云つて、巨大な東京都知事が務まるはずがない。都民はそれを早くから見抜いているのである。彼ももしかすると取り巻き立ちに囲まれて身動きできずに、同じ墓穴を掘つているかもしれない。都知事なんかには、ならない方が良いのではないかと思つていい。素朴な田舎者だから、目ざといと都会人に取り巻かれて、金縛りに合つて、動けなくなること必定である。

そして鳥越俊太郎はジャーナリストとして期待されていいはずだが、有権者を落胆させた

のは、余りにも高齢である」とが歴然としている。都知事の激務には耐えられないものである。その上に立候補の弁を聞いて、参議院選の結果を見てこれではだめだと思つて、藪から棒に、突如として発作的に立候補する決意をしたという。何がダメなのか説明なしの余りの唐突さで、あっけにとられてしまつた。我々有権者は軽くあしらわれて舐められた感じである。記者会見でも自分の政策を掲げる準備は未だしていないという始末で、ジャーナリストとしての感覺も疑わしく感じて、最初から失格だと思った。これにたやすく飛びついて背中に乗つた野党共闘の連中も迂闊とは云いながら、さすがに思慮分別なしの馬鹿な連中だと思つた。こんな体たらくの野党だから、とてもじやないが今の安倍政権には歯が立たない。情けない話であるが、政権交代など、夢のなかである。

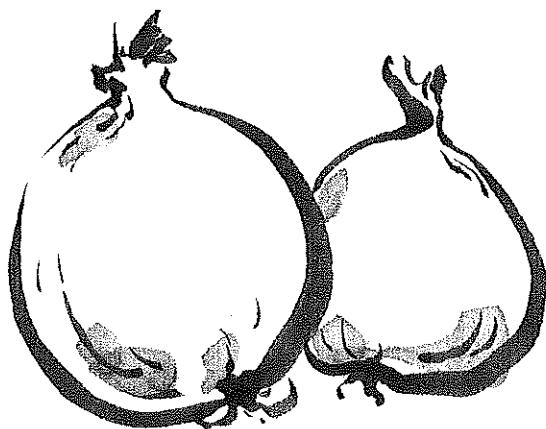
かくして熱い選挙戦は終わって都民の厳肅な審判が今日の投票日に行われつつあるが、結

果の発表はまじかである。出口調査ですぐに判明するのではないか。都連を敵に回した小池の最初は豹変過ぎたが、次第に腹が据わつてきて落ち着いてきた。岩から飛び降りるつもりで決断したからには、そのつもりで戦つてきたはずである。幸いに都民の信任を得た暁には、都民のそうした期待に応えて欲を出さずに頑張つてもらいたい。その暁はまじかと確信するがゆえに、初心貫徹、忘れるべからずの信念堅持で、未来に臨んでもらいたい。

巨大な都政は難問山積であり、これをこなしていくには並大抵なものではない。良識ある改革には、都民の強力な支持と協力が必要である。まずは云うところの情報公開から始めてもらい、透明度の高い行政を行うことである。そうすれば自ずと削減すべき経費も明らかになつてくるし、行政改革につながつて、国の行革と財政再建の道筋を示して、国の参考にしてやると良いだろう。利権に群がる奴らを一網打尽に

して排除し、新風を吹き込んでもらいたい。新しき酒は、新しき皮袋に入れると云われている。先ほど近くの人幡中学のもうけられた場所で投票を済ませてから家内と尾山台の商店街のハッピーロードで行われている盆踊りを見てきた。帰りに行きつけの喫茶店でコーヒーを飲んで7時に帰宅したばかりである。今日はお昼過ぎにも田園調布まで妻と買い物に出かけて、神戸屋の店に入つて昼食を済ませたきた。熱い戦いが終えて、選挙戦を戦い抜いてきた人たちには大変ご苦労様であった。めでたく都知事になつたにしても、今日の真夏の天候の様に暑い日差しが照りつけて、時には黒々とした入道雲が覆つて土砂降りの大霖となることがある。街なかを行く夏の日盛りは激しく、麦わら帽子をかぶり日照りのなかを歩いた。今日の休日の午後からは、かんかん照りの空のもと、湧きのぼる入道雲を眺めながら、夏の醍醐味を味わってきたのである。

七月三十一日



作品 関根常雄

都知事選の勝利は小池氏に その二

予想した通り新都知事には小池百合子氏が都民の代表をつかさどり、都政に辣腕を振るつてもらうことになった。画期的な出来事であり、歴史的快挙である。何と二百九十一万票を獲得して、二位の増田を百万票近く引き離した。東京都にとって初の女性知事の誕生である。女性に対しても最初から都政に「辣腕を期待する」と云つた表現は適切ではないが、しかしそれが現実である。彼女が選挙に立候補した時には既に自覚してのことであるから、「辣腕」と表現しても差し支えないだろうと思う。岩から飛び降りて、とのブラックボックスを暴きこれを破壊すると云つた小池氏である。その勇気を讃えたい。従来型の男の政治では果たせない。「女の細腕」という言葉があるが、最近の男は頼りなくなってきた。それどころか器がせこくなってしまった。

選挙中に公約したように、この際都議会を解散して古いやつを一掃した方が良いという都民は多い。利権にしがみついている胡散臭いやつらを追放することが先決である。そうした残骸のその結果が、先の金で失脚した先の二人の都知事のだらしない姿であったが、それを象徴して、禍根はかなり根深いものがある。あのモンスターの建物に入ると人間が代わってしま

う。ましてや蟻のような物体の人間が、旧来型の流れの一粒子とはめ込まれたりすると、見る影もない。謂うところのブラックボックス、そうちした巨大化した組織と機構の仕切ることも、がいる。そうした奴らの一掃が肝心である。急ぐ必要はないが、しかし間髪を入れず着手すべきである。改革には妥協が許されないと、都是強く感じている。小池新都知事の健闘を祈るばかりである。

か弱い女性に群がつて都連の連中は、ドンだかパンだか知らないが、旧態然とした、前時代的な組頭みたいなやつがさつそくいじめにかかるだろうが、小池は孤立無援ではない。29

1万票を投じた都民がいるし、小池の孤軍奮闘の様子を見て、援軍は更に膨張するはずである。分裂選挙となじられながら、小池氏はよくぞ戦い抜いた。地方から連れてきた俄かの候補者が立たなかつたら、もっと票は伸びたであろう。強力な情報公開を以て汚点をあぶり出し、白日

の下に晒すことである。自分がだけが報酬を半額するのではなく、無駄な議員の報酬や経費をカットして足元から行革を示し、良い結果を国家に及ぼしていくべき。例えばオリンピック、パラリンピックにしても杜撰な予算の計上が多々ある。工事請負業者や、丸投げのブローカーを排除して経費削減に努め、都民の福祉や、都民のための前向きの投資に活用すべきである。名前だけでなく、こうした検査にたけた友人は沢山いる。資金を有効に使って行くことは、今重要な岐路に立つアベノミクスを支援することにもなる。

斯様に超巨大化した都の行政組織は硬直化しており、一朝一夕に改まるものではないことは十分承知の上であるが、それを乗り切つていかないと都民の支持と信任を得られないところまで來ている。昔大学で教鞭を取つていた吉村正教授がいた。著名な政治学者であつた。教

材に「現代政治の解説」とした自著の本を使っていた。目に付いたのは行政の膨張と云うことであつた。今懐かしく目を通して見たりしているが、吉村の云つたことはその後歴然と連綿として続いている。予算、人口、官僚・職員の数、組織と機構、外郭団体の整理など、どれをとっても大きく複雑多岐にわたつていて、行政改革に大ナタを振るうことは難しいが、敢えてここにメスを入れて行かないと、行政は膨張するばかりである。社会が情報化し、機械化し、自動化し、簡素化して行くのに、効率化されるべき行政組織が反対の方に向に進んでいるのは理不尽である。行政そのものが、国と国民を丸呑みするような化け物に変わつてきていて、桃太郎の鬼が島の「鬼退治」ではないが、この化け物を誰が退治してくれるか、その人物こそ天才政治家・角栄である。慎太郎が崇める男の道は誤つており、晩年を汚す亡者としか言いようがない。火に油を注ぐように今、愚かな人身攻撃を

行つているが、誰も相手にしていない。出世街道を進んだがむしやらな男を世間に押し付けたり、崇めるような風潮を以て扇動して時代錯誤であり、間違つた本を出している。天才・田中角栄とは聞いてあきれる。前半は貧乏物語でよかつたが、後半は土建屋の金の亡者となつて利権をむさぼり、最後には巨額な賄賂を外国企業から受け取つて墓穴を掘つた。地方自治体も、国や中央省庁もそうだが、今や東京都が率先して、この大改革に取り組んで範を示す絶好の時もある。行政改革は、いつの間にか忘れ去られようとしている。女性都知事の静かな、棘腕の見せ所である。それに今も、都の見合う計画も山積し膨大且つ目白押しである。そこにたむろする怪しいやつらが小池知事の行く手を阻んでいるかも知れないが、敢然として進んでもらい、腐りきつた膿を出し切つてもらいたいものである。

頂点の座を占めた知事には強大な権力が付

与されると云つても、それだけに内閣總理大臣にも勝るとも劣らない力量と才覚と信念がもとめられる。初志貫徹をめざし、邁進してもらいたい。今回の選挙では、都民の均衡のとれた良識を示した結果である。だらしない男では期待が持てないと、最初に手を挙げた勇敢な小池氏に都知事の栄冠を授けたのである。右顧左眄しない、実行力があると見た結果である。然るのちは都民も良く熟慮して、志高き知事に対しつては、これを理解し協力していく責任がある。

今日のNHKニュース・ナインに出席して質問に答えていた小池氏であるが、集中砲火を浴びることも無きにしも非ずである。先の一人の知事の轍を踏むことのないよう、失礼なことを申して恐縮だが、事ここに至つては私利私欲を離れ覺悟の上で、誘惑に負けないよう努めてもらいたいと思った。まさかの時は岩から飛び降りるどころではない、貴殿を支持した都民が崖から飛び降りる心境になつてしまふ。カイロ大学

に学びアラビア語を得意とする小池知事に、聖書の詩編を取り出して期待しつつ感想を和歌に詠み、明日の登庁に備え、祝福と激励の言葉として贈りたい。

勇ましく詩編百編に呼びかけぬ全地よ歓喜の声を挙げよと

主を讃へ知恵と啓示を与へかし混迷の地に生きる吾らに

八月一日

事件、犯罪が多すぎる現代社会

世間を、世界を震撼させるような凶悪殺人事件が後を絶たない。多様化する社会と国際関係、連鎖して繋がっている社会と世界関係、同時化が急速に進む社会現象、スマホが人間生活を折檻し、ポケモンがいろいろなところで発生、出没する事案が象徴している現代社会である。自己埋没する中で、多くの矛盾を抱えている複雑な現代社会に今、私たちは、否、世界の人々は置かれている。犯罪者もひそむ危険な渦のなかである。映像社会の情報化された生活様式が、複合的にそれを加速させている。

謂うところのI.Sテロ集団が、世界各地に爆破事件を仕掛けるたびに、誇らしげに犯行を声明するテロ事件も怪奇そのものだが、こうした事案に刺激されてだろうか、個人的に反感、怨念を以て一般社会に対し挑みをかけ、自己主張に利用し、挙句の果てに無差別に多くの人を殺

傷する事件の続発が気になる。犯罪捜査班のような知識や手腕がない小生にとって、こうした事件を論じる資格などないが、こうした凄惨な犯罪が日常的に起きる世の中を、ただ脅威に感じて憂慮していることである。日本でもこうした凶悪事件が起きなければいいがと、常日頃思つてはいる一人なので、今日の未明のこと、相模原市の障害者擁護施設で起きた十九人の殺人事件は史上最悪の事件であり、最も憂慮すべき同類の傾向を帶びてはいるので、一層不安に思うのである。深夜熟睡時間に、身動きのできない障害者を刃物を持って次から次へと殺傷していく凄惨なさまは、身の毛の立つ思いで想像することができない。犯人は元同施設の二十六歳の職員である。一定の動機らしきものを持ち、ナチスピトラーの残酷な思想に影響されたところもあるようである。犯行を示唆し、早くから実行をほのめかす奇怪な行動をとつていたことも知られていた。犯行は計画的であり、確

信犯であつて、障害者を排除しようとする搖るがし難い事件である。平和で治安のよい、教育レベルの高い日本で起きたことに世界が一様に驚愕し、日本人として恥じ入る様な心境で残念である。

I Sのテロとは違つた個別的犯行で、動機は独善的なことが特徴である。関わりは一方的な個人的なものである。同じような事件は三日前にドイツのハンブルクで起きた銃乱射事件があつたばかりである。九人が死亡した。もともと鬱病的疾患を持つて自殺志向の強い人物だつたそうで、単独犯であつた。無関係の人を巻き込んで、自らを殺めるといった理不尽、無慈悲、無軌道の暴れ方である。犯罪を犯すものは自分を正当化するための理論武装をしたりする。内容は浅薄で一面的であり、偏向的思想を頑なに持つ傾向がある。今回もそうした異常性格の病状に、自分の主張が重なつて犯行に及んだものである。こうした現象は、感化されても

やり出すと抑えようがない。一種の連鎖反応を起こし、大なり小なり、潜在していた動機が表面化する結果である。

この凶悪性を堂々と演じた事件について当然のことながら、世界が驚異を以て意外に受け止めているのであろう、各国がこの事件を取り上げて論評している。妄想の上に便乗して連鎖的に起きないことを祈るばかりである。事件の報道を見る限り行政も、警察も事前に注意して適切に対応していた事案だけに、起きてしまったことは非常に残念である。犯行を明らかにほのめかし、場所と時間まで周到に指定しているさなかに起きた事件である。当局の、やはり反省すべき点がある。こうした犯罪者の潜在化している現代において、その深層は複雑怪奇であり、いつ暴発するとも限らない性格を帶びているので、社会的にも深刻である。テロ対策も然り、憎悪をむき出しにした冷酷非情な姿勢を排除していくことに努め、善惡のわきまえを心得

て行く教育そのものの重要性を自覚すべきである。

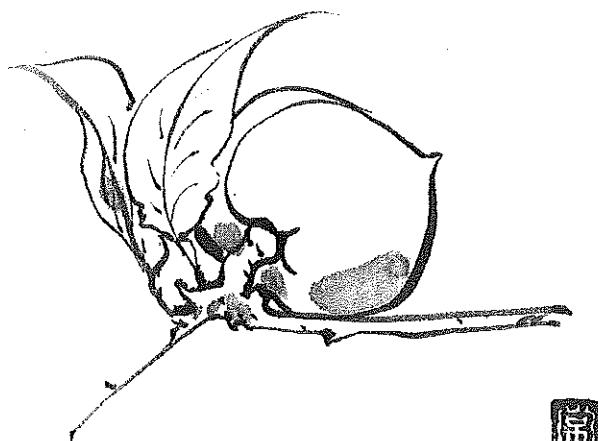
格差社会が深刻化する現実の中で、不満を持つ人が沢山いる可能性を否定できない。犯行は色々な形を以て登場してくるだろう。そうした人たちが自己本位の主張を正当化し、衝動的にいつ犯罪者に急変しないとも限らない深層を理解し、お互いが帮助関係に立つて社会を構成する一人間として、根本的に、啓蒙的に考えなければならぬ事案である。今の時代は、自己の存在を過大に評価して、社会がこれを受け入れないと孤立して被害妄想に走り、社会に対する反抗心を自分に煽り、厳しい犯行に出る場合がある。哲学者のサルトルであつたら、どんな人間を想像して人物像を描くだろうか。

喜怒哀楽の激しさは、昔は比較的大らかに表現したものであるが、近年はそれが内向的になつて一般的にこもる傾向がある。人間の内的心象を研究している心理学者も、複雑多岐にわたる人間社会の、人間の在り方を真剣に研究していくと、貴重で改善的な解決策が具体的に得られるかも知れない。これから急速な社会の変遷と共に、一種の社会現象となるのであるうか。スマホの社会が、それをますます加速していく様相である。従つていつの間にか鬱積して、表現を躊躇えてある日あるとき、一気に噴出する時が常軌を逸した形になつて表れてくる。二律背反的な事象の中に、矛盾を内包した人間が沢山いることである。難しい問題ではあるが、現代社会に内在するこうした人たちの教育指導も顧慮しなければならない。

かよう難問山積ではあるが国内的には、われわれの日常的安全と平和を守つていくには、お互いの立場を尊重し自制する精神の涵養に努めること、国際的には日本政府の世界に発信する平和と自由の基本精神を広めて、国際協調の尊重に努めてもらひしかない。即ち簡単に言うならば国内的には、暴力の排除と凶悪犯罪の

防止であり、国際的には力による他国の侵犯の禁止と、戦争反対の目標を掲げていくしかない。地球上に住む我々の身辺に、暴力沙汰の起きない環境作りに努めたいものである。

七月二十八日



作品 関根常雄

台風が三つ続々に列島に

台風九号、十号、十一号と太平洋上に発生しさまざまに進路を取りながら、結局は日本列島に上陸する気配である。九号はそれぞれ関東に上陸して大量の雨をのこし、各地に土砂災害を齎して東北を縦断、更に北海道の釧路に上陸して、ここでも未曾有の大雨を降らせて熱帯低気圧に変わつていった。十一号も列島に沿つて東側を北上し東北北海道を指して進んでいった。北海道では近来にない大量の雨に見舞われて、収穫を前にした農作物に多大な影響を与え、インフルに甚大な被害を及ぼしている。八月中旬ごろまで連日、快晴と炎暑、熱帯夜に見舞われてきたが、ここにきてお天気は一変して様変わりである。まちなかは滝のような激しい雨に見舞われている。地方では河川の氾濫や、土砂崩れや冠水が起きて被害が続出している。順番が

逆になつたが、残る十号の進路がもたつき、沖縄の東方海上をゆっくりと進んで日本に向いてきている。

今年のこうした特異な現象は地球規模での気象上の大きな変化によると云われている。南に張り出した高気圧と西に置かれている高気圧の間に、南下してきた冷たい空気の大きな渦（寒冷渦と称しているが）が出来て、その間を台風が進路を決めて北上しているらしい。十号は最初に本州の東海上に発生した。そしていつたん沖縄付近まで南下した後、急に向きを変えてまたぞろ北上してきた。ところが北に高気圧があるため行く手を阻まれて、そのまま日本に向けてきている。身動きが取れずに停滞している間に、海上の温かい湿つた空気を十分に吸い込んでエネルギーを蓄えているので、でかい勢力の台風に膨張してきている。海水の温度が例年よりも五、六度高いことが、気象状況に大きく影響してきて

いる大きな一因である。十号の動きがと進路がまた、複雑怪奇である。日本周辺の大気の気圧配置で、特別で異常な気象状況になつてゐる結果である。気象庁の予想でも、危険な進路を示していて不気味である。

銚子沖遙かな海上の地点で、急に四五度に向きを変え関東地方を狙つてくるようである。まるで野生の虎が生きた獲物を狙つて居ると同じで、文字通り虎視眈々としてひそかに迫つてくるようにおもえて不気味である。何しろここ一週間はこの三つの台風の直接・間接の影響を受けて、空の動きが実にめまぐるしい感じである。九号、十一号は先に東北地方を北上し大きく東にそれでいくのが、そうではなくてそのまま北海道に上陸し稚内にまで達している。台風が東北地方に上陸すること自体、今までになかつたことと聞いた。台風の異常発生と進路は、今までとは違つて、確かに異常である。それだけの現象を見ていると、男性的に活動する闘達

な空の動きがあつて、その変化を楽しんでいたりするが、状況はそんな悠長なものではなくなってきた。勢力を増しながら十号は明後日あたりに接近するらしいが、今はその余波を受けて風雨が激しく変化しているところである。

同時に台風そのものの規模だけでなく、この特異な気圧配置で周辺に南北に帶状の前線が発生して大きくなり、大量の雨をもたらしていくことである。北陸、中部地方に発生した大きな雨雲が原因である。これが東に移動してきているので、それに伴つて台風と二重の雨量を降らせている。こうした現象は、専門家からすると将来にわたつて観測される気象上の変化であるというから、長い目で見た防災上の対応も必要になつてくるだろう。今年の気象は異常だが、これが常態化するとなると、今後の台風の発生と進路について良い研究、教訓となるはずである。台風は今まで赤道以南に発生して、それが大きくなりながら北上してくるものであ

つたが、今年は台風のすべてが赤道以北に発生しているという。エルニーニョ現象とか、海水の温度の上昇と云つたことも考えられる。更是地球温暖化との関連も指摘されてくるだろう。問題は複雑である。これも大きな変化である。いずれにしろ、この風変わりな正体不明な台風十号が迷走してきたが、これから銚子沖東から突如向きを変えて、関東、東北沿岸に接近していくことに気を付けなければならない。

この台風はそのまま先に通過していった九号、十一号、と同じようなコースをたどつていくとなると、東北、北海道にかけてさらなる被害をもたらすことになり心配である。願わくば銚子沖海上から右折しないで、そのまま三陸沖海上を北上して太平洋に出て、速度を増して「さよなら」してもらいたい。そうはいつても太平洋側に依然と強い高気圧が控えているので、それが今年の気圧配置のおおきな特徴である。それ故、それに進路を阻まれて東北地方に押し

流されて上陸し、日本海に抜けていくコースも十分考えられる。十号の被害が軽微に収まつてほしいものである。台風が通過した後は、秋晴の快晴が訪れよう。しかしこれからが九月である。残暑が続き、それは確実に、実りの収穫を齎してくれるに違いない。

雨が止んで晴れ間が覗けた間隙をぬつて今夕、妻と一緒に買い物を兼ねて、尾山台商店街に出かけて行つた。一雨過ぎた後だったので、すがすがしい風が吹いて、涼しいくらいであった。節氣では既に立秋をすぎて処暑もすぎた。セミの鳴き声もみんな蝉ではなく、オーシンツクが昼間から鳴いている。夜になると、草むらで虫が鳴き始めている。台風が去つた後は、又残暑がぶり返すかもしれないが、秋が静かに近づいてきていることは確かである。尾山台に行く途中、仲良くして近所の三井さん夫妻に出遭つた。三井さんは帰るところ、こちらは出掛け行くところである。こんな格好でお互い

に夫唱婦隨、行きずりに出会うと云つたことは珍しく、今までになかったことかもしれない。休日の午後、元気で散歩を楽しむとは、平凡なことながら全く理想的な姿で、贅沢かもしけない。健康で、ありきたりな平凡こそが人生の幸せであると誰かが云つていたような気がする。

*

もくもくと入道雲の湧き立つて怯える馬の目
玉光りぬ
馬の背を分けて打ちつく夕立のしばらく耐えて草むらに立つ
近づきぬ野分の気配に気づく馬野づらに居れば風の伝へに
台風の一度に三個列島を目指してくるは驚きなりきぬ
台風の九、十、十一号と續くなが十が遅れて膨れ襲い来
夕立にひとり外見る女かな其角の一旬に想ふ
下町

くさむらに小さき虫の音を聞きて野分のくるを知らせけるかな
尾山台商店街への道すがら三井夫妻と相まみえけり
善人の固まりなりき人がらの信厚くして範とせるなり

人がらの良き夫妻にて頼りけり何か助けの時に甲斐あり

庭畠を専ら手伝ふ三井さん農家育ちの専門家ゆへ

夕立の雲の浅間の山ちかく離れて宿にとどく大雨雲の峰続きし果てに夕日さし今しも俄かの雨の襲ひ来

千天に滋雨となりせば文字通り夏の猛暑もありがたきかな

もくもくと湧き立つ雲の大らかに大気の軌道
を走りくるなり

麦を刈る畠に飛びだす鳥影にふと立ち留まる
近き巣ならば

八月二十八日

台風十号は予想通り東北を襲つて大量の雨
を降らせ、各地に甚大な被害をもたらしている。
台風十号は、三十日岩手県に上陸した。そして
秋田県を通過して北海道の道南地方を襲い稚
内方面に抜けて行つた。各地で、がけ崩れや河
川の決壊や氾濫に見舞われた。収穫を迎えた田
畑が冠水し、農家の打撃は大きい。川の氾濫で
岩手県宮古地区の高齢者施設に土砂が流れ込
み、九人が死亡した。北海道を襲つた台風は、
これで三個、先に上陸した七号を含めると四個
にもなる。日高山脈に降つた大量の雨は、広大
な十勝平野を流れる十勝川に一気に流れ込み、
支流の川が氾濫したりしている。

北海道には知人がいる。昔、仕事のことで二
人の知人に連れられて北海道に行つた時に、初
めて飛行機に乗つた。

羽田から苫小牧の飛行場に降りたち、札幌に向
かつた。その日のうちに札幌から帯広に立つ
飛行機に残念ながら間に合わなかつた。帯広へ
行く列車にも間に合はず、仕方がなくタクシー
を使つて帯広に行くことになつた。今で思えば
乱暴な行程であつた。日高山脈を越えて行くこ
とになつた。途中からすぐに砂利道となつて、
しかも長距離の走行となつた。車に終始揺られ
ながら山道を深くひた走りして、ようやく晴ら
しきところを越えて、眺めた十勝平野の素晴らしい
景色をいまだに忘ることはできない。山
を延々と下つて行つて十勝平野のたもとに就
いたときは、みんなほつとして胸をなでおろし
た。タクシーの運ちゃんが、途中クマに襲われ
るかもしれないなどと云つたりしていたくら
いである。嘘か本当か知らないが、日高のヒグ

マは物凄くでかく凶暴だとも言つていた。広々とした十勝平野を眺めながら、何時間もかけて越えてきた日高山脈を振り返つて、奥深く深遠な山があるものだとその時は思つていた。

台風十号が北海道に上陸し、他の前線と日高山脈に折り重なつて豪雨、未曾有の雨をもたらした。その雨が峻険な日高山脈から一気に流れ落ち、十勝平野をゆつたりと流れる十勝川に濁流と化して注がれた。地元の人は歴史的にも記憶にないというくらいである。今日の新聞やテレビ報道でも、生々しく残していく台風の爪痕のひどさを終日報道している。その昔、日高山脈を越えて行つた思い出を改めて思い起こし、暴風の惨状を見て嘆かわしく感じているところである。

仕事に行つたついでに、帯広に在住して地元で古くから不動産業を営む末谷女史に案内されて、上土幌に二十万坪近い、地目が山林と原野の土地を買つてきた。広大な平原は大陸的で

あり、氣宇壯大な感じであつたし、緑に輝く草原は優雅な趣きすらあつた。帯広の街を出て、草原を北に向かつて一直線に伸びた道を何時間か突つ走つていった先に、上土幌があつた。美しい然別湖が、近くにまで迫つてきていたようないい感じである。買った動機は衝動的なものもあつたが、そうでもなかつた。原因の一つに小生が胸に抱くロマンのようなものがあつた。広々とした平原と清冽な土地の魅力にひかれでである。その時の夢が大きかつた。ドイツやアメリカに行けなかつた代わりに、そうだ、緑豊かなアメリカ大陸の大地を買うような感じで案内された広大な土地を手に入れよう、当時はそうしたロマンがあつた。氣概を大きく持つた、アメリカ開拓時代のバイオニア的精神に横溢する時期であつた。人生に何度も訪れる漠然とした動機である。馬を初め家畜を放牧し、農作業に従事して心身ともに大自然の中につつて、豊かな田園生活を夢見ていたのである。紹

介してくれた末谷さんはまだ健在で、帯広で活躍している。台風の相次ぐ上陸で、十号の被害を見て見舞いの電話をしたところ元気に電話に出てきた。彼女からは、時折気が付いたように電話がかかってくる。台風十号の影響を心配しながらふと思いついたのである。

八月三十一日

「文筆家の稻雀日記」

枝豆を口にはじきて飛ばしけり

野分去り爽快の空広がれり

天高し神は虚空を見通して

大荒れの野分のあとの茜雲

山里の日暮れて深し草いきれ

真夏日のアフリカ開拓安倍首相

嵐去り妻とつかみし鱗雲

汗だくの孤軍奮闘阿部首相

魚屋の店にさんまの氷樽

汗だくのアベノミクスに休みなし

さんま焼く匂ひ恋しく焚く炭火

首相のみ他の議員らの昼寝かな

七輪を出して久しくさんま焼く

首相のみ働くほかは休暇中

風情良きさんま焼く日の軒の下

天高くジャンヌダルクの小池知事

魚辰に青きさんまの入荷して

プーチンと領土返還夏の陣

威勢良き店にさんまの入荷せり

魚辰で刺身に鱈賣いにけり

ブーチンを迎える里の安倍首頭

魚辰で買うひとぞやの黒マグロ

アーメンと祈る秋の日の仰ぐ空

景氣よく熊手掲げてさんま売り

キリストの頬に触れ行く秋の風

親戚の改装終了実る稻

頑張れど小池都知事の豆台風

見渡して黄金の稻の波の寄す

木守柿われか心を見て通す

世の中は取越苦労案山子立つ

法師ゼミしきりと鳴きて世のたより

蟬がらを拾いて寂し声を聞く

懸命に鳴く蟬の音に励まさる

法師ゼミ南無阿弥陀仏と聞きしかな

懸命に身を振り絞りみんな蟬

うぐひすの南無阿弥陀仏といれも聞く

やま開く手向ふ峰の穂高かな

みんみんとせかしうながら油蟬

青空にお花畠の溶け入りて

もう手上げ大空近きお花畠

登山客數珠つなぎ行く富士の山

山肌をぐの字に登る登山客

山合いに登山を招くこだまかな

花火咲く湖畔の宿に妻ときて

三味線を聞く下町の植木市

浅草寺いらかにしどじ秋の雨

秋の日の氣遣うこともなく過ぎて

霧雨にともるランプの酒場かな

街灯の霧の波止場にともりけり

江ノ電のくるま過ぎゆく草の花

鶴頭や海の匂いの近くまで

波音を聞く海近き座敷かな

絶え間なく聞く波音の近き宿

アフリカで将来を説く安倍首相

アベ首相乗るジェット機の天高し

安倍政治剛速球の野分去り

民進党叱り飛ばして案山子立つ

お気持ちを明かす天皇の秋の風

良くやるぞ小池都知事の爽やかさ

久しぶり娘明子どうなぎ食ふ

何事も愚痴はよそうぜ秋の虫

みんみんも南無阿弥陀仏と聞くタベ

ひと雨の過ぎてタベの暑さかな

汗だくに今日の芝刈り終へにけり

庭はたの完熟トマト口にして

女房と調子合せて薦を引く

労働は健康維持と汗をかき

聖書読むタベひととき法師蟬

赤とんぼ竿に止まりて日暮るかな

赤とんぼ夕空に飛び群れをなし

赤とんぼ雲につかまりいづくやら

稻雀われは机に向かいをり

田螺とり腕白小僧の泥相撲

案山子立つ腕白小僧と同じ顔

思い出は百姓ぐらし揚げひばり

手前まで稻の穂ぐらの一エーカー

束ねねれば稻の穂ぐらのさわさわと

稻を刈る宅の近くへ六反歩

当たらなくて幸い

*

立て続け台風三つも上陸し東北地方に荒れ狂ひけり
台風の早くも新たに発生し本邦に又十三号の
来
大量の雨をともなひ上陸す今年の野分の異常
発生

今年の台風の発生と、日本への上陸の様子は
異常である。この気象異常と向き合つて逐次、
台風の進路を予報し、発表する専門家は立ち往
生している。分析と予想に基づいた発表が當た
らずに、困惑している様子がうかがえる。予報
官の発表をそのまま流すマスコミを初め、それ
をまどもに信じて備える国民も又てんてこ舞
いである。不意打ちを食らつた東北地方と、北
海道の被害が甚大である。台風九号の進路の予
想が関東を直撃し、日本海に抜けるものであつ

たが、実際には関東に上陸しなかつた。それは
幸いなことであつた。しかし九号は東北沿岸を
北上し、関東北部から東北地方に上陸して北上
を続けた。大量の雨を齎して、そのまま勢力を
保ち北海道に上陸、稚内に抜けていくものであ
つた。こんな台風の進路は過去の歴史にもなか
つた由である。そして東北、北海道に甚大な被
害をもたらしたのである。異常気象は、様々な
分野に大きな影響を及ぼしている。

太平洋上で発生した台風は通常北西に向か
つて針路を定め、最終的には沖縄に上陸、一方
本邦に向かつて北上し、九州、四国、近畿、関
東に上陸するのが常道であつた。しかし、今年
はこのコースを踏んだ台風が一つもない。原因
は複雑であり様々だが、大きく分けて地球温暖
化による海水温度の上昇と、海流の変化、そし
て大気の気圧配置を挙げる専門家が多い。素人
の私もおおむねその三つを考えてきているの

で、大方の人は、この先の自然と宇宙の変化の、我々に及ぼす影響について心配している。

異常気象は、何も日本だけに限つたことではない。地球全体がそうした異常気象の災難を受けているから、どうしようもないのが現状である。台風十三号の接近で、関東地方の今日は朝から終日大雨、洪水予報が昨日から出されてい

るが、今日午後二時半現在、そうした兆候は見られず、皮肉ながら、予報が百パーセント見事に外れ、これは誠に持つて幸いな結果である。事務所の窓から見渡す空の様子では、台風は熱帯低気圧となつて、太平洋上に去つて行つたと思われる。

円で買つてきた。黒マグロの刺身のひとつさく五百四十円也も一緒に買つてきたが、さんまは矢張りこの時期に食べるのが一番おいしい。この間は確かにイワシが取れなくて、高級魚の値段がついていたように思う。イワシと云い、さんまと云い、こちらは予報が当たらなくて、庶民は困つているだろう。

気象予報が当たらなくて良かつたと思つてるのは関東以南に住む住民であつて、東北、北海道に住む人たちの被害は予想だにしなかつたことで、甚大であり大変困つている。河川の氾濫や、がけ崩れ、道路の寸断などの土砂災害、田畠の冠水や家屋の浸水など、更なる追い打ちとなつていて。被災地では被害甚大で、救済、救援活動は十日以上も経つた今も続いている。予想を越した被害状況である。孤立状態の集落も見つかっている。たて続けに襲う大雨で現地の状況がさらに心配である。九月八日

昨日も近所の魚屋の魚辰の店で、さんま三匹千

夏季・講演親睦会

テロの拡散 英国のEU離脱

昭和経済会の夏季の講演親睦会を7月4日、月曜日の午後6時から銀座三笠会館で開催した。講師には元NHKワシントン支局長で、外交ジャーナリスト、作家の手嶋龍一氏を招き演題は、現在進行中の時局に鑑み「国際情勢と日本経済」とさせていただいた。手嶋さんはNHK出身の名取材記者として活躍したことは周知のことおりで、多忙の中、同氏にお越しいただいたことをありがたく思っている。的確な取材と情報収集と調査、それをさらに検証し精緻に分析して報道するといった姿勢を貫いてきている。

私は冒頭の挨拶で、最近の国際情勢の複雑な動向がきわめてリスクに富んだもので、憂慮しがたき事態であることを述べた。そして具体的

に、昨日起きたダッカのレストランでのテロ集団の無差別銃撃の状況と、経済的な問題としてイギリスのEUの離脱の一いつを取り上げて、いずれも現代の危機を象徴する事件であると申し述べた。そこで今夜は手嶋氏に、国際情勢の分析と判断に卓越した意見を披瀝していただきたいとお願いしたのである。手嶋さんは私の挨拶を取り上げて、時局は今理事長が述べられた様に、二つの大きな事件に象徴されるけどまずテロの問題を取り上げて30分ほど熱弁をふるい、それからEUの問題、別けても英國のEUからの離脱の問題が如何に愚かしいものであり、経済的な混乱を世界にもたらし、英國にとつても大きな損失であるかを説明されていかれたのである。一時間の予定が何と二時間に及ぶと云つた雰囲気で、出席者も固唾をのんで質疑応答すると云つた熱気であつた。加えて最初から最後まで、手嶋さんの穏やかで優しい人柄が十分に窺える会であった。

六月三十日、バングラデイッシュのダッカに起きた人質立てこもりのテロ事件では、犯人たちの銃乱射で20名の犠牲者が出てしまった。悲惨である。7名の日本人が含まれていた。同国の経済建設のために情熱的、献身的に従事していた。専ラインフラの建設に携わり、ジャイカから派遣された優秀な職員たちである。事件発生の状況は最初から生々しく、現地から報道されて戦りつを禁じ得なかつた。レストランに立てこもつた犯人たちと、出動した治安部隊との銃撃戦となつて目を覆うばかりであつたが、最後には装甲車がレストランに突入し犯人たちを射殺、ひとりを拘束した。

実行犯は七人であつた。いずれも裕福な環境に育つた若者たちだと云われている。事件とのかかわりは今のところなぞであるが、ISが犯行をほのめかす発表をしている。ISと関係のない人物が、犯行に及ぶこともある。社会に対して個人的に反感を抱く人物が、ISの狼藉を

見て自分を模擬的に錯覚した犯罪人が、犯行に及ぶことも出て来る。バングラは九割以上の人々がイスラム教徒だと云われるが、宗派の対立もあつたりして互いにけん制し合つているところもある。今回の事件が引き金になつて、タガが緩んだりしても困る。比較的治安のよい国とされており、親日的で知られている国だけに、日本に与える影響は無視できない。

連日のように各地に的を広げて起きるISのテロ事件であるが、国際的な攻撃の包囲網に窮屈に立たされつゝあるISの焦りが窺える結果でもある。しかし安閑とした評論的観測をしているどころではない。こうした悲惨な状況を未然に防ぐためにも、各国が英知を絞つて強調し合い、有効かつ強力な対策を講じてもらいたいものである。ISの残虐無謀で、妄想的な思想に若者たちが染まつていかない啓蒙運動も必要である。被害に遭つた六人の犠牲者に対しては、誠に痛恨、沈痛な思いである。心から

哀悼の念を以て、「眞福を祈るばかりである。テロの拡散を何としても防止しなければならない。そしてテロの温床を根絶するべく国際社会が、貧困をこの地上から除去していかなければならぬ。そして難民の発生を食い止めて行くことが必要である。

EUが行つた愚かな国民投票の結果が出た時、私はすぐさま自分の感想を述べてホームページに載せた。そして書いていく途中次のように述べてあつたので、今それを思い起こしながら、それを転載する次第である。

しかしその結果は、大きな痛手になつてしまふことを恐れるのである。人間の努力には糾余曲折がある。艱難辛苦に耐える根性と忍耐が必要である。国家にしても同じである。共同体の形成過程にも同じことが言える。各国が好き勝手なことを云つていたのでは、皆の主張が統一されない。離脱は、賢明な決断ではない。利己的主張を優先して、国益中心を露骨に押し出したものである。国際的協調主義を破棄するようでは、EUの理想と、世界の潮流に逆らうものとなってしまう。経済の国際的統合をめざし、

英國は昔の大英帝国を夢見ようとする、国民の妄想に陥っている。うぬぼれと妄想である。今回の投票結果についても、真剣に考えて投票した國民は少ないに違いない。EUが英國に義務付けしたり、制約を課したりしている取り決めについて多少の不満を持つていても、政府に多少お灸を受けてやろうという軽い気持ちで離脱派に投票したのが、大きな東となつ

然るのち政治的統合へと進めるべき壮大な人類のドラマをくじくようなことをしてはならない。残り二七カ国が結束してEUの体制を守り、各国が協調して動搖を避け、ドイツ、フランス、イタリアが、EUのみならず世界の秩序の確保のために賢明な指導力を發揮していくべきである。

英国が離脱を決めて以上、これ以上の混乱は許されない。去る鳥あとを濁さず、ということわざがある。少なくとも離脱の責任を果たすためにも、早く離脱の手続きに着手し、離脱交渉の上でもEUに迷惑をかけないことである・・・・・・

しかしEUとの取引には関税がかかることになれば、置いておく理由がなくなってしまう。活動の拠点をロンドンから、広く英国から引き上げて撤退していくに違いない。そこから上がる税収を英国は逃してしまった結果になる。金融面でも、既にポンドの急落にもみられる。いたずらに悲観論を以てリスクをあおるわけではないが、更には英國での関連産業の活性化を失っていくことになり、直ちに雇用にも響いてくる。そうした悪循環の痛手は大きい。経済的には、英国はEUとは無論のこと、国際社会から孤立無援の道を歩いていくことになる、と云つた極論さえ出て來るのである。

今日の講師の手嶋さんは、私の冒頭の挨拶でわずかに私見を述べたことに就いて、重大かつ深刻な案件だとしてこれを取り上げて話を進められていったのである。いみじくも手嶋さんは、講演の冒頭に、「今日の話の重要性は、理事長さんが今お話しになつてしましました」と斯様に、今も私の思いは変わつていなかばかりか、現実はもつと速いスピードで各方面に深刻な影響が現れてきている。例えば金融、商業都市のロンドンに拠点を置く日本の企業は沢山ある。そこでEUとの商取引を行つてゐるが、

ユーモラスに前置きし、広く問題を取り上げて

参議院選舉

自公の圧勝か

わかりやすく話されていったのである。しかも明快に問題意識を提示されて、熱氣あふれる意義深い講演となつた次第である。手嶋さんの素晴らしい、爽やかな人柄が強く印象的であった。
忙中のなか、このホームページを書き終えて庭に出て猛暑襲来の夜空を眺めたが、一陣の風に一息つく思いであった。今日の午後、教会の中山女史が見えてしばし庭で寛ぎながら家内と団らんして帰つたそうである。涼しくてきれいな庭で気持ちいいわねえと楽しんでいたそ
うで、それもそのはず気分転換に私は前日の夜、庭の芝を刈つて隅々まできれいにしたつもりでいたからである。7月7日の七夕も直ぐだと
思いながら、夏の暑さに茂りだした芝草を刈つて、すがすがしい気持ちになりたかつたからである。

七月六日

猛暑の日照りを避けて、夕刻六時過ぎに家内と一緒に近くの人雲中学の講堂に設けられた投票場に行つた。沢山の人が投票に訪れていた。選挙では、前回に増して政府与党の善戦が目立つ、投票前の予想である。選挙民にはきわどい選択肢を突き付けられた、今回の選挙であつた。というのも一般的には、アベノミクスの是非を問うことと、憲法改正の論点が、国を二分する形で意見が鮮明に対峙しているからである。自公の戦術に対し、野党の諸君の挑む論戦に今一步迫力に欠ける気がしてならない。

野党は民進党と共産党まで含めて四党挙党の選挙協力体制を組んだものの、当初から緊張の度合いが欠けて見える気がしていて、その当座しのぎの違和感を衝いて、自公の攻撃に晒されてきた。思想的なものは随分変化を遂げてきて、それなりの役割を果たしてきてるけど、

そもそも共産党という名称そのものが暗いイメージを抱くという妻は、今の時代に、今のこの日本になじめないものであり旧態然としたものだと、妻が云つていた。志位さんの奮闘も真面目であり説得力があるものの、国民に支持が得られなければ絵に描いた餅になってしまふ。はつきりものを言つたにしても成長に限界がある。現実論に傾く国民は、舞台に立つ安倍さんも好男子だし、片や野田さんも男前だし、押し出しは同じレベルながら、選挙民に対する説得力に若干の落差があると思つてゐる。問題は掲げる政策の内容次第である。

自公は憲法論議をことさらに避けて、経済政策を前面に出した。これに対し野党4党は専ら憲法改正の是非をめぐつて、これを阻止しなければならないと論戦を挑んだ。議論がかみ合わないところがあつて、どうも自公があえて焦点をぼかして憲法改正問題を避けて経済政策、景気政策と云う問題に絞つて逃げ切つたようで

ある。社会保障、雇用、介護、待機児童、人口問題、少子高齢化などなどどの政策課題を表向きに、前向きに論議しようとする限り経済、景気問題を根本的に論じないで実現することはできない。ましてやただでさえ国際情勢はリスクに富んだものとなってきてゐる。中国の海洋進出、英國のEUからの離脱、ISによるテロの続発、難民の問題と世界情勢の課題も枚挙にいとまなしだ。若者に対する政治思考も不透明さを増している。この点で自公の問題意識を国民に提示する戦略的な技術性は上回つていた。若者の有権者が二四〇万人も加わつたりして、彼らの考え方が進歩的かと思いきや、意外に保守的な傾向を持つてることが分かつてきた。生きている時代的背景もあるし、生活環境の齋しめる結果かもしれない。戦争と貧困の生活体験を過ぎてきた我々と、戦争の時代を経験せず、戦後の成長経済に乗つて経済発展の中で比較的恵まれて育つてきた人間とでは、価値

観や人生観、世界観が違うことは言うまでもない。情報通信機関の発達した世界で、広がりを見せており、社会である。保守的傾向は何も中高齢者ばかりとは限らない。多くの若者たちが、現在の内外の情勢を見ても当然と思われる認識と意見を以て、選挙に臨んだとも言えそうである。このままでいて、日本はいいのだろうかと云う素朴な疑問である。

即日開票の結果が、午後九時から始まり、テレビ各局が総力をあげて投票結果を報道してくれる。特別にこれと云つた個人的な支持者がいるわけではないが、貴重な一票の行使の結果を、与党と野党の勢力分野の動向だけを大いに注目するゆえんである。政権を単労使又、委託する方も、政治的安定こそ重要である。自公合わせて過半数を獲得するかどうかであるが、過半数は間違いない感じである。安倍さんの政治的活躍から見て、現在のところ安定をも齎すには自公連立しかないのである。野党の諸君は、も

う少し勉強をして国民の負託に耐えられるような人物の養成に時間をかける必要がある。押しなべて議員の資質低下が懸念されるところで、余りこうした傾向がひどくなると、無能とは云わないが反って人気タレントが出てきたりして国會議員の質的低下を招いて困る。自公の飛びぬけた優勢は将来の政治にとって危険である。政治勢力のバランスがあまりかけ離れるようだと、むしろ心配な感じがしている。

七月十日

即日開票の結果がどんどん入ってきて、自公の優勢は鮮明になってきた。過半数の獲得票は六一票である。しばらくデータがストップしていたが、これが同数になり更に一票が加わって過半数制覇が報じられると憲法改正反対派の勢力が崩れるように、自公の票が上乗せされていった。この時安倍さんも満面に笑みを湛えて、

自民党の選挙本部事務所に姿を現した。破竹の勢いで進む開票結果は、注目の三分の二を突破するかどうかである。憲法改正の発議権を手中に收めるかどうかの分岐点である。もはや戦後ではないと時間的経過を云々することは自由であるが、悲惨な戦争体験を積んできた人がだんだんと少なくなつてきて、今ではその悲惨さを物語る人すらいなくなつてきている。

戦争の恐ろしさを知らない時代に戦後七年の歴史が事実を物語っている。巷で歌われている「戦争を知らない子供たち」が、現実に沢山増えている。幸いなことに日本は戦後七年間に亘って平和を守り続けてきた。銀慈悲の余計な金を使わず、ひたすら経済発展の道を進んできた。明らかに戦後に築いた日米同盟のおかげである。これは何人と云えども否定しえない事実である。沖縄基地問題の浮上は、長らく日本の国威論を分ける論議的になつて今日まで来たことも事実である。基地の存廃を巡つ

て大きく意見が対立しているが、先人たちが残していく唯一の国益を果してきたことは歪めない。これを国論の分立に帰せず、国の存立の維持確保の糧と認識育成して、然るべき時に適宜冷静に存廃を決めて行くべきが必ず来ると思う。北朝鮮や中国の挑発的海洋進出などもあつたりして、現地では緊迫した状況が展開されている。弱腰になる必要はなく、そのためにも国際社会との連携がより重要なになってくる。

グローバル化の波に乗つて、国際化は経済だけではなく各方面に及んでいる。テロの脅威にだつて晒されないとも限らない。地政学的には悲惨な局地戦争が各地に起つていて、大国同士の代理戦争をしながら、ガス抜きを図つている。本当に大国間で戦争などし始めたら、この地球はことごとく、一瞬のうちに閃光で破壊されてしまうことを良く知っているからである。しかし一方でその分、我々は平和を享受し、再び世界戦争が起きないようなスキームに組み立て

てきていることも事実である。安倍さんは内心はどうか知らないが、衆参議席の三分の一以上の議席を獲得したからと云つて、はしゃいではない。むしろ緊張して心の中に抑えていて表には出さないようにしている。政治家としてさすがに当たきつての切れ者であり、役者である。選挙結果は、自民党だけで単独過半数を取ることは間違いない勢いである。盤石の基盤を固めたことで、自信のほどは長期政権を視野に入れ、ふんぞり返っているに違いない。

しかし名君はここでうぬぼれてはいけない。

能ある鷹は爪を隠すほどに、内輪にして懷に隠し持つていた方が安倍さんらしく、大方の見方に反してむしろ人間味がまして評価されるものと思う。現実を直視する国民の判断は、素晴らしい平衡感覚を持つている。ここで安倍さんの冷静な対応を期待している。

七月十一日



作品 関根常雄

日本文化の源

私が同人短歌誌淵を主宰して十年になる。淵は早稲田大学名誉教授の植田重雄先生が三十年前に創刊したもので年六回発行して現在二百十三号を数えている。十年前に植田先生が逝去されて後一年後に私が引き継いでいくことになり今に及んでいる。淵はその系譜を近代の大歌人、会津八一に置き、万葉調の調べを追つて格調高いものがある。八一が著した名著、「自註鹿鳴集」は岩波文庫から出版されたが、今は絶版となっている。私は淵の社債者だからでなく、会津八一の名歌を深く知るに及んだのは、植田重雄先生の歌人としての名歌を詠むに至つてからで、其れまでは八一の名歌に親しみ学ぶ機会はほとんどなかつたと云つても過言ではない。ほとんどが自分の趣向から出た独学であり、師事すべき先生たるものはいなかつた。従つて和竜であり、それを以て良しとし、自らの道を独創的に切り開いていったものである。

但し伝統とすべき和歌の語句の配列は古来家電等として良しとされたものであるゆえ、一つの定型詩としてこれを尊重し、その語呂の良さに心酔し、詩を吟じ朗詠しているわけである。私の持論であるが、即席で当意即妙に詠んだ歌ほど瞬間のひらめきを詠んで、これ以上の出来栄えはない。と云うのが歌人としての我的持論である。会員の人たちの歌を拝読して、それぞれに思いを歌に詠んで、日常生活も含めて大いなる教訓を得、学習すること大いなるものがある。人生いろいろな事象に出会い、しかも一期一会の機会もある。その時の気持ちを素直に記録して、後に溜めておくことは何と素晴らしいことか。私は自分の実体験から皆に歌を詠むことを奨励している。

先日、明治神宮獻詠会の主催者から秋の大祭奉祝の一首を頼まれた。その場で詠もうと思つたこと柄は、沢山浮んできた。しかし明治神宮境内の、深い森を頭に描いて、清浄にして静寂

な雰囲気を思い浮べて即座に
奥山を深く分け入りさまよへる先にかそけ
き水の音きくかな

と詠みあげて投函しようとした。この事象を
把えて、何首か別に詠むことができた。

奥山の道を分け入り訪ねゆく先にかそけきの
音かな
深々し森を分け入りさまよへば我ゆく先に水
の音きこえ来

音かな

こうした形で自分の思いの丈を詠んでいく
と、一つの事柄についてさまざまな思いが浮か
んでくる。それを即座に和歌にとどめておくと、
表現の広さと奥行きに、限りない感興を覚えて
きて、幾つもの和歌が創造的に湧き出してとど

まるところを知らない楽しさになつてくる。會
津八一は、歌題について深遠な和歌の核心をと
らえ、そこから丹念に一首をとぎすまして和歌
を完成させたのかなと推測するのである。植田
先生は、八一の生涯で詠んだ歌は、極めて少な
く三三〇首程と常々申していらした。本来なら
八一の才覚からなる名歌をもつと沢山後世に
残してもらいたかったと思うのであるが、それ
についての八一の心境を推しはかる術はない。
万葉調の流れるような調べと、和歌の奔流をつ
いた作品は天下一品右に出る人はいないと思
つている。例えば

かすがのにおしてるつきのほがらかにあきの
ゆふべとなりにけるかも
ゐかるがのきとのおとめはよもすがらきぬは
たおれりあきらかみかも

おほらかにもろてのゆびをひらかせておほき
ほとけはあまたらしたり」

和歌のしらべの、優美にして典雅のおもむきは、云うべくもがな、美しい大和ことばの使いわけは絶妙である。即席で当意即妙に詠んだ歌ほど瞬間のひらめきを詠んで、これ以上の出来栄えはない、と云うのが歌人としての私の持論である。会員の人たちの歌を拝読して、それぞれに思いを歌に詠んで、日常生活も含めて大きな教訓を得、学習することの大いなるものが人生いろいろな事象に出会い、しかも一期一会の機会もある。その時の気持ちを素直に記録して、後に溜めておくことは何と素晴らしいことか。僭越ながら私は、自分の実体験から皆に歌を詠むことを奨励している。



作品 関根常雄

日本文化の源 和歌

私が同人短歌誌淵を主宰して十年になる。

淵は早稲田大学名譽教授の植田重雄先生が三十五年前に創刊したもので年六回発行して現在二百十三号を数えている。十年前に植田先生が逝去されて一年後に私が引き継いでいくことになり今に及んでいる。淵はその系譜を近代の大歌人、会津八一に置いている。会津八一是日本文学の源流を成す万葉調の調べを追つて、独自の格調高い調べをうかがわせる和歌を詠んで残している。詠んだ歌は限られており、わずか三百七十余種である。東洋美術の研究に大きな業績をのこしている。そうした影響もあって、奈良のいかるがの里を訪ねて詠んだ和歌が沢山あり、いずれも名歌と云うにふさわしい調べを醸している。奈良の古寺や仏像を初め、繊細優美な趣きは、いかるがの里の情景描写にも伺うことが出来る。

和歌を詠む姿勢においても、一首を何度も校正し、究極に至るまで研ぎ澄ましたものである。納得のいくまで磨き上げている。その辛抱強さには頭の下がる思いだが、逆に技巧的になる危険性もあつて、全ての人が賛同しているとは限らない。八一が著した名著、「自註鹿鳴集」は岩波文庫から出版されたが、今は絶版となつていて。私は淵の主宰者でありますながら、会津八一の名歌を深く知るに及んだのは、植田重雄先生の歌人としての名歌を詠むに至つてからで、其れまでは八一の名歌に親しみ学ぶ機会はほとんどなかつた。

そもそも私が短歌、和歌を詠むに至つた経緯は、誰か先たちに師事したわけでもないし、ましてや結社に参加したこともなく、ひたすら独自の道を歩んできている。即ち独学独歩である。古くから伝統として生きてきている五・七・五・七・七の定型は厳守して、比類なき和歌の調べに乗つて詠んでいる。

会津人一を語りながら

中宮寺・半跏思惟像を前に

宗教的思索にありし瞑想のほとけのかほの安らげ
きかな

足を組み前にかがみてみほとけのまなこをとじて

物思ひけむ

彫りふかき妙なる人に相まみえ深き思ひに触れし
我が身よ

八月二十日

みほとけのかすかな笑みに慰めを得てこの寺をた
づねけるなり

この寺に静かにおはすみほとけの姿にひかれしば
し通へり

物思ひにおはすほとけのみ姿にひかれてけふも訪
ひにけるかも

みほとけの指さすほほのつやめきてほのかに笑み
てなにを思ひし

日曜礼拝

八月一四日の日曜礼拝に出席した。家内が礼拝の司会を務めた。玉川神の教会の牧師は二年前から女性の牧師が務めている。藤原智子師は、長年バーナード・バートン牧師のもとで副牧師を務めていたが、そのあとを継いで玉川神の教会の牧師を務めている。バートン牧師は活火山のマグマのような激しい語り口調であつたが、藤原牧師は、森を流れるせせらぎのような静かな語り口調である。今日の説教題に従い「イエスの教えの広さ、長さ、高さ、深さ」を説いている。その教えとは即ち、イエスの愛である。

今朝は聖書エペソ書の第二章十四節から、その

みことばの取り継ぎを受けて「すべての聖徒と共に」と云う説教題であった。今朝は、たまたま玉川聖学院を五十年前に卒業した女性たちが、まとまって出席していて、さながらクラス会の様

に賑やかであつた。華やかな服装で、会堂は晴ればれとした雰囲気である。礼拝が終わつたあとのお茶会では、いつものように持ち寄つた菓子を囲んで、まるでクラス会の本番のようになつた。

これらの女性たちは教会では古く、それ／＼個性豊かで、教養にあふれた人たちである。誘われて私もその仲間に入れてもらつたが、話題を聞いていると驚くほどに程に話題が共通しているので、話がはずんでくる。共通するところは必ず時代性といふか、戦後にすごした青春時代に痛快な味わいがあつて、現代の若者にとつては、むしろ垂涎の的ではないだろうか。否、我々が体験したような天真爛漫な学生時代を、今の若い学生諸君が現実に味わうこと出来ないことを氣の毒に思うのである。

われわれの学生時代は、まだ戦後の混乱期にあつた。生活物資に事欠き、苦しい毎日の生活であつたが、心は充実していた。未来に希望があつた。現代は物が豊富に出回つており、何一つ不自由な

ことはなく、贅沢な感じすらするが、人の心は荒んでいる。機械化、組織化された大量生産時代に生きることは、むしろ大変かもしれない。スピードでも後れを取ることはできないが、パソコン、スマートと云つた機器を駆使した情報化時代の競走の中に生きていると、人間性を失いがちになつてくる。チャシプリンの映画、殺人狂時代の画面をそつくり見るようなものである。人間的な付き合いが、希薄になつてきているのは確かである。

今日集まっている女生徒たちが学生の頃、学校での催しをさぼつて、四、五人の仲間と渋谷まで二本立ての映画を見に行つたりしたそうである。結構不良少女だったんだなあと、私は合点して思わず話に乗り出したらしくらいだ。団体行動を拒否して、個人主義に傾倒する辺りは、魅力的な思想と行動である。それをきっかけにいろいろなことに飛び火して、爆笑のお茶会になつてしまつた。しばらくは昔話に花が咲いて、懐古趣味に酔う感覺であった。お茶会と云えば、岩金さんは教会の古

くからの会員で長い間役員をしていた。同時にお茶の先生で、神田の湯島天神近くの自宅から教会に来ている。下町育ちで気つ風も良く、センスのある服装は若々しい。和服の時が多いが、グレイス・ケリーに似ている。

アメリカのインディアナ州から一時帰国中のアドコック・恵子さんは、結婚してすぐにアメリカに移住した。それまでは玉川聖学院で英語の教師をしていた。英語はペラペラで明るい性格である。話題は限りない。津田さんは眼鏡をかけていて頭のよさそうな人である。クラス会のメンバーのなかでは眞面目な女性で、模範生だったそうである。いつもお母さんと一緒に映画を観に行つていたそうだ。大室さんはピアニストである。讃美歌をいつもきれいな声でうたつていて、音楽に造詣が深い。ピアノ演奏はプロ級である。松本さんは岩金さんと同様、家内と仲の良い友達の一人で、主人が教会の役員で活躍して下さつている。

女性グループの仲間では他に比較的若く、涼し

い趣きで氣性のさっぱりしたスマートな中山さんがいる。教会では、いつも進んで裏方の仕事を手際よく済ませている。多彩な知識を持ち、世間のことをよく知っている。とりわけ自由が丘の街の界隈について聞けば、生き字引のようなものである。最近は初めてできた孫の世話を忙しく、お茶会の世話を終えると、孫を連れて早々と帰ってしまう。中山さんと家内は、玉川聖学院卒の経験ではないが、彼女たちと仲良しで、よく一緒に旅行にいったりしている。お茶会では、大武先生と大沼夫妻、金城氏と小生が加わって女性たちに紛れこんだ形だったが、今日の礼拝後のお茶会は、ひときわ華やかな楽しいものとなつた。

話題は、渋谷の映画館に一本立ての映画を見に行つたことに加え、学校で決まったクラスの旅行に参加せず、別に五人グループが別行動をとり、西湖に旅行にいったりしたことなどもあつたそ�だ。それを聞いた小生が、その勇気ある行動に感嘆して、あつ晴れだと私はコメントしたのである。ま

ことに大らかで、健康的な女学生たちの思想と行動である。尽きない話に、これからが私の出番だと思ったが、帰宅する時間となつたので打ち止めとなつた。仕方なく席を立つて一同と別れた。

みんなの学生時代の出来事の話があつて、私もふと自分の学生時代を思ひ出すことになつて、久しぶりに懐かしく思いおこすこと多かつた。次々に思い出すことをエッセイにまとめて書いてみようど、机に向かつた。戦後間もない貧しい社会であつたりしたけど、やはり僕らの時代は学習はもちろんだが、人間的に充実していく良かつたなあと、しきりにうなづくばかりであつた。

今日の礼拝は家内の司会で進められて、小生はいつもより会堂の比較的前の方の席について、藤原牧師の内容の深いみことばの取り継ぎを得たこと、そして往年の女学生たちの、今は上品な熟女たちのはしやいだ話も聞くことができ、神様の恵み豊かなひと時を得て、素晴らしい日曜礼拝であつたことに感謝したのである。

11月講演・親睦会 のお知らせ

演題 2017年 内外政治・経済の展望
講師 TBS「ニュース23」コメンテーター
政治評論家 岸井成格 氏
日時 11月24日(木) 午後6時00分
会場 三笠会館本店 6F「高千穂の間」(東京メトロ各線銀座駅歩2分)
中央区銀座5-5-17 TEL(03)3571-8181

2017年は内外の政治・経済情勢はどのように推移してゆくのか。明快な論調でおなじみの、毎日新聞社特別編集委員でジャーナリストの岸井成格氏をお迎えします。混迷する我が国の現状から、あるべき道を展望していただきます。是非奮ってご出席ください。

公益社団法人 昭和経済会

理事長：佐々木誠吾

おどろがに
いらふの門る
くぐり見え

もみぢ

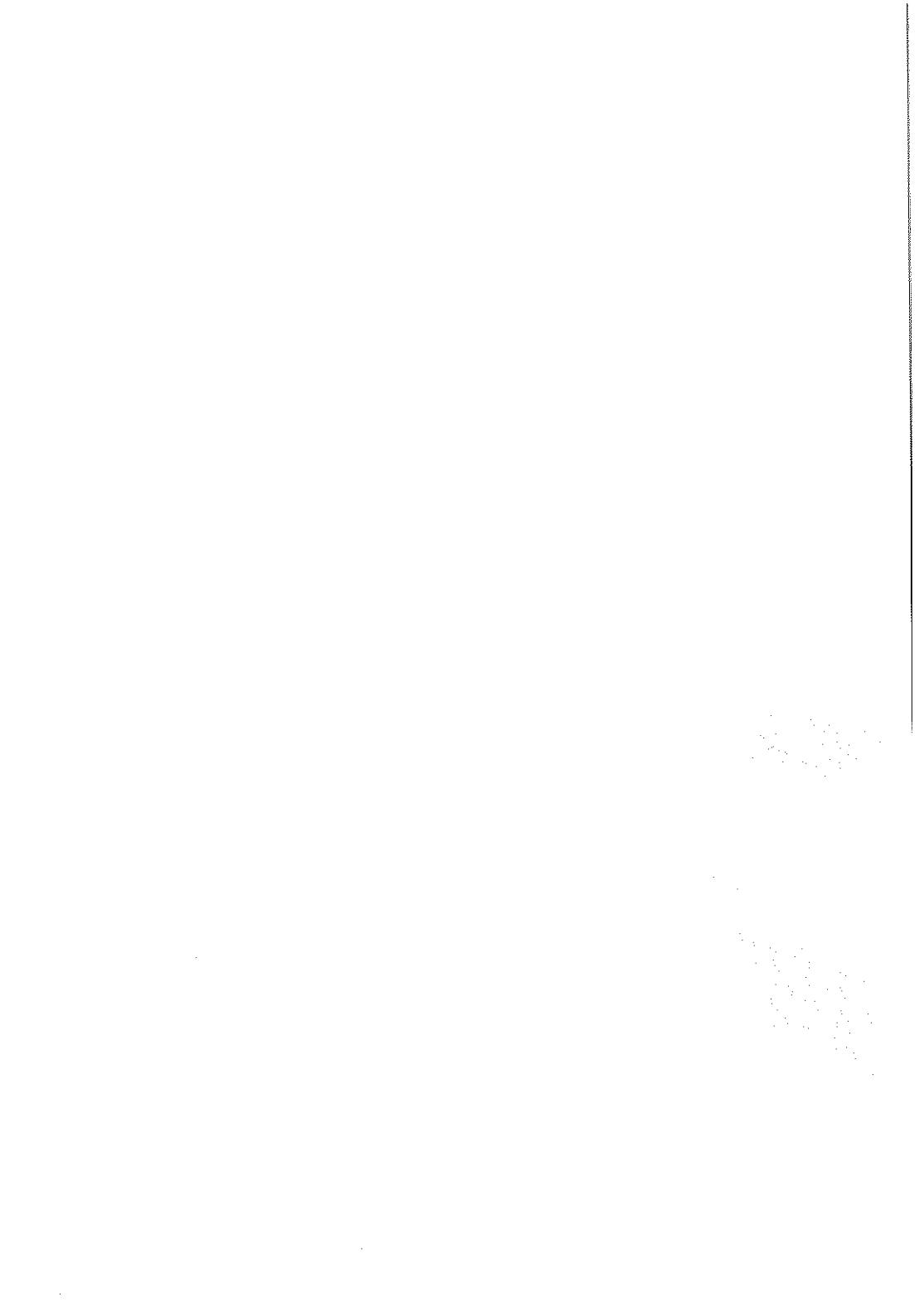
映ゆ

法輪寺の

トシ

佐木誠秀





月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十八年九月）

大内義一	早稲田大学名誉教授（卷頭隨筆）	堺谷太一	作家
荻原伯永	（述）日本經濟社 日経専務	原田正一	
牛場信彦	外務省顧問	豊田雅孝	大正大学教授
広瀬嘉夫	NHK解説委員	安井謙	当会顧問
安井謙	参議院議長	窟田真也	第一勵業銀行産業調査部長
加藤寛	慶應義塾大学教授	宝生あやこ	劇団手織座
豊原兼一	NHK解説委員	山本幸助	通産省産業政策局長
斎藤宗三郎	参議院議員	山田勝久	通産省資産課長
岡村和夫	NHK解説委員	岡松壯三	通産省政策局国際経済部長
石井義昌	㈱桂川精螺製作所 社長	村山祐太郎	通産省電子政策課長
糸川英夫	組織工学研究所所長	堀江忠男	鈴木金属工業㈱会長 当会理事
宮本四郎	通産省産業政策局長	寺島祥五郎	早稲田大学名誉教授
豊田雅孝	（社）日本中小企業団体連盟	安井謙	当会顧問 自民党最高顧問
安井謙	前参議院議長 自民党顧問	田山晃	参議院議員
大来佐武郎	対外経済関係 政府代表	鈴木三子郎	元 読売新聞政治部次長
藤原弘達	政治評論家	竹下登	元 税務大学教官 税理士
		福田赳天	衆議院議員

斎藤榮三郎	商学博士 法学博士 文学博士	水谷研治 東海総合研究所 理事長
	参議院議員	バツラフ・ハベル チエコ大統領
河野洋平	衆議院議員	平野憲一郎 日本経済新聞 マニラ市局長
前川春雄	前 日本銀行総裁	吉田和男 京都大学教授
黒田眞	通商産業省 通商政策局長	石川忠雄 慶應義塾大学名誉教授 学長
堀江忠男	大月短期大学学長	中曾根康弘 元首相
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中山素平 日本興業銀行 特別顧問
鈴木俊一	東京都知事	北岡伸一 立教大学教授
田村次朗	米国企業公共政策研究所 所長	島田晴雄 慶應義塾大学教授
目良浩一	東京国際大学教授	吉田和男 京都大学教授
行天豊雄	東京銀行会長	塙野谷祐一 一橋大学名誉教授
吉川洋	東京大学教授	宮沢喜一 元 首相
竹中平蔵	慶應義塾大学教授	山田伸一 N.H.K.解説委員
加藤寛	慶應義塾大学教授	石井明 東京大学教授
原田和明	三和総合研究所 理事長	加藤覺 千葉商科大学長
鴨武彦	東京大学教授	伊藤裕章 政府税制調査会会長
大山冥人	東京国際大学教授	朝日新聞ワシントン特派員
元N.H.K.解説委員		小宮隆太郎 東京大学名誉教授
企業コンサルタント		青山学院大学教授
井浦康之		

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ岩本	ランコ・インターナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジエームス・D・ウォルフエルソン	
奥野正寛	東京大学教授	山口光恒	慶應義塾大学教授
橋本大二郎	高知県知事	シモン・ペレス	イスラエル外相
福川伸次	電通総研研究所所長	山口光恒	慶應義塾大学教授
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	岡崎久彦	元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学教授	ポール・サミニュエルソン	経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
佐和隆光	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
金大中	京都大学教授	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
吉田和男	慶應義塾大学院教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
榎佳之	京都大学教授	山本清治	経済評論家
高橋伸彰	東京大学医科学研究所	朱建榮	東洋大学
月尾嘉男	立命館大学教授	アレクサンドル・パノ	駐日ロシア大使
北岡伸一	東京大学教授	林光夫	ナショナル日系博物館
石原慎太郎	東京都知事	ハワード・H・ベーカー	(前理事長) 日系プレース基金理事

山本清治	経済評論家	大田弘子	経済財政担当相
スティーブン・ゴマソール	駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名誉教授
山口義一	立教大学経済学部教授	曾根泰教	東京大学客員教授
公文俊平	多摩大学情報社会学研究所所長	平野雅章	慶應義塾大学教授
伊藤元重	東京大学教授	若田部昌澄	早稲田大学教授
アルビン&ハイディ・トフラー	米未来社会学者	山内昌之	東京大学教授
中曾根康弘	元首相	大西隆	東京大学教授
ハワード・H・ベーカー	前駐日米大使	浜田純一	東京大学総長
竹森俊平	慶應義塾大学教授	中西寛	京都大学准教授
岡部直明	日本経済新聞 論説主幹	高木新一郎	前産業再生機構委員長
加藤寛	千葉商科大学学長	野村證券顧問	東京大学教授
山口光恒	帝京大学教授	諸富徹	京都大学准教授
斎藤惇	産業再生機構 前 社長	入江昭	ハーバード大学名誉教授
渡辺智之	一橋大学教授	林良造	東京大学教授
土屋堅二	お茶の水女子大学教授 (哲學)	クリスティーナ・アーメージャン	一橋大学教授
山崎正和	中央教育審議会 会長	伊藤元重	スタンフォード大学名誉シニアフェロー
福江等	前ナザレン神学大学学長	今井賛一	吉川弘之
井深記念塾ユーライ	東京大学 元 学長	東京大学	元 学長

池尾和人	慶應義塾大学教授	山本勲	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稲田大学教授
脇坂明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関満博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	カナダ財務相
古谷浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨貴	東京大学教授	清家篤	日本私立大學連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾大学
西垣通	東京大学院情報学環教授	緒方貞子	（JICA）理事長
山内昌之	東京大学教授	田中素香	中央大学教授
高安秀樹	明治大学客員教授	申珏秀	駐日韓国大使
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	神戸大学教授
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	東京大学准教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
松本紘	京都大学総長	若宮啓文	朝日新聞主筆
大西隆	東京大学教授	中沢克二	日本経済新聞社
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長	猪木武徳	青山学院大学特任教授
深尾京司	一橋大学教授	長山浩章	京都大学教授

石川城太	一橋大学教授	竹森俊平	慶應大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授	磯田道史	静岡文化芸術大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト	橘川武郎	一橋大学教授
篠崎彰彦	九州大学教授	伊藤元重	東京大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授	山内昌之	明治大学特任教授
横山彰	中央大学教授	白石隆	政策研究大学院学長
小林慶一郎	一橋大学教授	土屋英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
原真人	朝日新聞編集委員	戸田悦造	懸賞論文 優秀賞
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	青山慶一	早稻田大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授	瀬口清之	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
須藤繁	帝京平成大学教授	今井賢一	スタンフォード大学名誉シニアファロー
翁邦雄	京都大学教授	田中伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
下斗米伸夫	法政大学教授	宮本雄一	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
吉川洋	東京大学教授	菅原宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
渡辺博史	国際協力銀行副総裁・元財務官	白石隆	政策研究大学院学長
澤田康幸	東京大学教授	野中郁次郎	一橋大学名誉教授
北岡伸一	国際大学学長	矢作弘	龍谷大学教授
有田哲文	朝日新聞編集委員	有吉章	一橋大学教授
柴田直治	朝日新聞国際報道部	御厨貴	東京大学先端技術研究センター教授

伊藤邦雄	一橋大学教授	伊藤元重	東京大学教授
大村敬一	早稲田大学教授	川島真	東京大学准教授
御厨貴	放送大学教授	西條郁夫	日本経済新聞社編集委員
山内昌之	明治大学特任教授	滝順一	日本経済新聞社編集委員
北岡伸一	国際大学学長	山脇岳志	朝日新聞アメリカ総局長
葛西敬之	J.R.東海名譽会長	榎原英資	青山学院大学教授
岡崎哲一	東京大学大学院経済学研究科教授	中鉢良治	産業技術総合研究所理事長
山内昌之	明治大学特任教授	北坂貢一	同志社大学教授
池上彰	東京工業大学	野村浩一	慶應義塾大学准教授
山崎朗	中央大学大学院経済学研究科教授	吉川洋	東京大学教授
橋本和仁	東京大学教授	岩井淳哉	日本経済新聞社記者
石川健治	東京大学教授	遠田晋次	東北大大学教授
松永桂子	大阪市立大学准教授	葛西敬之	J.R.東海名譽会長
戸堂康之	早稲田大学教授	加藤青延	N.H.K.解説委員
三田誠広	武藏野大学文学部部長	植田和弘	京都大学教授
寒哲也	日本経済新聞社論説委員長	森口千晶	一橋大学教授
御厨貴	東京大学名誉教授	竜哉	スタジオード大学客員教授福元
山内昌之	東京大学名誉教授	吉川洋	読売新聞社記者
北岡伸一	国際大学学長		

大村敬一	早稻田大学教授	伊藤元重	東京大学教授
清家清	慶應義塾大学義塾長	大西 隆	豊橋技術科學大學學長
大橋弘	東京大学教授	佐伯啓思	京都大学名誉教授
中川淳司	東京大学教授	北岡伸一	東京大学名誉教授
石川城太	一橋大学教授	藤原帰一	東京大学教授
櫻川 昌哉	慶應義塾大学教授	福富満久	一橋大学教授
竹中平蔵	慶應義塾大学総合政策学部教授	安藤至大	日本大学准教授
水野 裕司	日本経済新聞社論説副委員長	宮島英昭	早稻田大学教授
川口健史	日本経済新聞	伊藤元重	学習院大学教授
神里達博	千葉大学教授	藤原帰一	東京大学大学院教授
御厨貴	東京大学教授	佐伯啓思	立命館大学教授
大泉啓一郎	日本総合研究所 調査部 上席主任研究員	星野 郁	京都大学名誉教授
滝順一	日本経済新聞社	大塚啓一郎	神戸大学特命教授
川口健史	日本経済新聞社		
吉川洋	東京大学教授		
久保文明	東京大学教授		
細谷雄一	慶應大学教授		
藤原帰一	東京大学大学院教授		
植田重雄	早稻田大学名誉教授		
当会・講演会 講師（敬称略）		昭和五十三年（平成二十八年九月）	
堺屋太一	作家	栗栖弘臣	統合幕寮長

寺島祥五郎	当会理事	加藤寛	慶應義塾大学教授	長富祐一郎	大蔵省官房審議官
糸川広洋		糸川広洋	組織工学研究所 所長	中沢忠義	中小企業厅長官
大来佐武郎		大来佐武郎	対外経済担当大臣	吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長
斎藤栄三郎		斎藤栄三郎	科学技術省長官	天谷直弘	(財)産業研究所 顧問
柿沢弘治		柿沢弘治	衆議院議員	元通産省審議官	
浜田幸一		浜田幸一	衆議院議員	東京都知事	
木元教子		木元教子	評論家	鈴木俊一	
岡松壯三郎		岡松壯三郎	通産省電子政策課長	黒田眞	通商産業省 通商政策局長
稻川泰弘		稻川泰弘	通産産業省政策局	上野明	野村総合研究所 主任研究員
藤原弘達		藤原弘達	商務サービス産業室長	前川春雄	前日本銀行總裁
山本幸助		山本幸助	通産省産業政策局長	大山晃人	N H K 解説委員
岡松壯三郎		岡松壯三郎	通産省生活産業局長	野坂昭如	作家
山田勝之		山田勝之	通産省国際政治部長	水野哲	通産省産業政策局
鈴木幸夫		鈴木幸夫	テレビ東京解説委員長	堀江忠男	産業政策局總務課長
山室英男		山室英男	N H K 解説委員長	梅沢節男	早稲田大学名譽教授
佐野忠克		佐野忠克	通産省宇宙産業室長	田川誠一	国税厅長官
河野洋平		河野洋平	衆議院議員	森亘	東京大学總長
寺島祥五郎		寺島祥五郎	当会理事	藤井康男	龍角散社長
				水城武彦	N H K 解説委員

大山晃人	NHK解説委員	青木匡光	メディエーター（人間接着差）
斎藤三三郎	国務大臣 科学技術庁長官	紺谷典子	(財)日本証券経済研究所
内田滿	早稲田大学教授	原田和明	主任研究員
岡松壮三郎	通商産業省生活産業局長	和田俊	朝日新聞編集委員
水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	大山晃人	テレビ朝日ニュース・ステーション
有馬朗人	東京大学総長	木村時夫	元NHK解説委員
松本和男	経済評論家	井浦康之	早稲田大学名誉教授
大山晃人	NHK解説委員	目良浩一	当会理事
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	山下亀次郎	東海総合研究所 理事長
元日本銀行理事	外務省顧問 前駐米大使	筑波大学 臨床医学系内科教授	東京国際大学教授
松永信雄	ニューヨーク市立大学大学院教	斎藤精一郎	立教大学教授
霍見芳浩	慶應義塾大学名誉教授	岩國哲人	前出雲市長
村松暎	杏林大学教授	浅井隆	経済ジャーナリスト
飯田健一	NHK解説委員	大山晃人	元NHK解説委員
L·A·チジョーフ	駐日ロシア連邦大使	久保亘	東京国際大学教授
小浜維人	東京国際大学教授	岩田規久男	NHK解説委員長
NHK解説委員長	上智大学教授	前大蔵大臣	前大蔵大臣

大山昊人	東京国際大学教授
山田伸一	NHK解説委員
吉田春樹	和光経済研究所理事長
副島隆彦	経済評論家
ボールシェアード	ベアリング投信投資顧問
早坂茂二	日本株運用ヘッジ兼ストラジスト
山田伸一	NHK解説委員
中村敦夫	参議院議員
原田和明	三和総合研究所特別顧問
西澤宏繁	東京都民銀行頭取
亀井静香	衆議院議員
山田伸一	NHK解説委員
武者陵司	ドレイエ証券チーフストラジット
川崎眞一郎	第一生命経済研究所主任研究員
金子一義	国務大臣
山口義行	立教大学教授
山田伸一	NHK解説主幹
齊藤精一郎	千葉商科大学教授
伊藤達也	元金融担当大臣
高木新一郎	㈱産業再生機構 産業再生委員長
斎藤精一郎	千葉商科大学大学院教授
佐々木和男	社会経済学者 エコノミスト
石川一洋	学校法人静岡理工科大学理事長
山田伸一	NHK解説委員
中谷元	元防衛庁長官 衆議院議員
林良造	元防衛庁長官 衆議院議員
渡辺喜美	元経済産業省 経済産業政策局長
山崎淑行	みんなの党代表 衆議院議員
中谷巖	NHK科学文化部 記者
ロバート・フェルドマン	一橋大学教授
経済評論家・エコノミスト	

月尾嘉男

東京大学名誉教授

山田伸一

NHK解説主幹

山内進

一橋大学学長

板垣信幸

NHK解説主幹

熊野英生

第一生命経済研究所首席エコノミスト

五十嵐敬喜

三菱UFJリサーチ

&コンサルティング 執行役員

加藤青延

NHK解説委員

井浦康之

嫗井浦コミニュケーションセンター

竹内明日香

嫗アルバ・パートナーズ

五十嵐敬喜

三菱UFJリサーチ

&コンサルティング 研究理事

手嶋龍一

外交ジャーナリスト・作家

昭和経済
第十六号
平成二十八年十月十四日印刷
平成二十八年十月十八日発行
第六十七卷

第十号

佐々木 誠吾

日本印刷株式会社

印刷所

公益社団法人
編集人

兼發行人

事務局 〒104-0016 東京都中央区八重洲二丁目十一番

TEL (六八)一〇六〇〇〇番
FAX (03)3571-1110番

e-mail=info@showa-ec.or.jp
<http://www.showa-ec.or.jp/>

講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斉土本稻吉井岩福
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
莊祐新榮宗
英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱起
男眞郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫
N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大
H産產產產藏本學織本學田本士大臣
K省省省省稅京務企H應產工經治議濟濟本二大臣
生產國銀企K技學濟藏技銀銀(内閣總理大臣)
解產官銀塾業解省術護研新評院術評評行
活業際府都省業解究聞大序研究行
說業產政政房行大序說學顧所社論議論社頭大臣
委審業策治審長知顧長委教長所顧
員議局局議長
長官長長官官事裁問家官員授家問官士長問家臣長官家長家事長取

伊金山龟西早島副山久岩齋目原和小¹霍松鈴有大水森堀水藤井大
產務藤子口井澤坂田島田保国藤良田浜²見永木馬來谷江城井浦山
省省精佐
担相達一義静宏茂晴隆伸哲一浩和維芳信淑朗武研忠武康康昊
雪當官也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊人³浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東對東東早N龍井N
商藏務教京應H和ビH日ヨ米總京總稻Hコミュニケ
產省閣大議都義K雲國合ニロク使大合大經合大K
業政總臣大議治治大教朝総日K
策研理產經民塾大際研ニ解市大濟研
研究再濟銀大學人究シ立・究學担究學名說シ
研究會臣生學說市大外所學名說シ
会メ補機部議行論學論大學所ス委
ン構佐教頭教委教事シ員大院顧事
ババ担教頭教委教事シヨ
11官當授員取家授家員臣長授授長ン長使授問長長臣長長授員長1員

昭和経済 28-10・11月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別承認権第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp